二 借財又ハ保證ヲ爲スコト
三 不動産又ハ重要ナル動産ニ關スル權利ノ喪失ヲ目的トスル行爲ヲ爲スコト
四 不動産又ハ重要ナル動産ニ關スル和解又ハ仲裁契約ヲ爲スコト
五 相續ヲ拋棄スルコト
六 贈與又ハ遺贈ヲ拒絕スルコト

第八百八十七條 親權ヲ行フ母カ前條ノ規定ニ違反シテ爲シ又ハ同意ヲ與ヘタル行爲ハ子又ハ其法定代理人ニ於テ之ヲ取消スコトヲ得此場合ニ於テハ第十九條ノ規定ヲ準用ス

前項ノ規定ハ第百二十一條乃至第百二十六條ノ適用ヲ妨ケス

第八百八十八條 親權ヲ行フ父又ハ母ト其未成年ノ子ト利益相反スル行爲ニ付テハ父又ハ母カ數人ノ子ニ對シテ親權ヲ行フ場合ニ於テ其一人ト他ノ子トノ利益相反スル行爲ニ付テハ其一方ノ爲メ前項ノ規定ヲ準用ス

第八百八十九條 親權ヲ行フ父又ハ母ハ自己ノ爲メニスルト同一ノ注意ヲ以テ其管理權ヲ行フコトヲ要ス

母ハ親族會ノ同意ヲ得テ爲シタル行爲ニ付テモ其責ヲ免ルルコトヲ得ス但世ニ過失ナカリシトキハ此限ニ在ラス

第八百九十條 子カ成年ニ達シタルトキハ親權ヲ行ヒタル父又ハ母ハ遲滯ナク其管理ノ計算ヲ爲スコトヲ要ス但其子ノ養育及ヒ財產ノ管理ノ費用ハ其子ノ財產ノ收益ト之ヲ相殺シタルモノト看做ス

第八百九十一條 前條但書ノ規定ハ無償ニテ子ニ財產ヲ與フル第三者カ反對ノ意見ヲ表示シタルトキハ其財產ニ付テハ之ヲ適用セス

第八百九十二條 無償ニテ子ニ財產ヲ與フル第三者カ親權ヲ行フ父又ハ母ヲシテ之ヲ管理セシメサルノ意思ヲ表示シタルトキハ其財產ハ父又ハ母ノ管理ニ屬セサルモノトス

前項ノ場合ニ於テ第三者カ管理者ヲ指定セサリシトキハ裁判所ハ子、其親族又ハ檢事ノ請求ニ因リ其管理者ヲ選任ス

第三者カ管理者ヲ指定セシトキト雖モ其管理者ノ權限カ消滅シ又ハ之ヲ改任スル必要アル場合ニ於テ第三者カ更ニ管理者ヲ指定セサルトキ亦同シ

第二十七條乃至第二十九條ノ規定ハ前二項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第八百九十三條 第六百五十四條及ヒ第六百五十五條ノ規定ハ父又ハ母カ子ノ財產ヲ管理スル場合及ヒ前條ノ場合ニ之ヲ準用ス

第八百九十四條 親權ヲ行ヒタル父若クハ母又ハ親族會ト其子トノ間ニ財產ノ管理ニ付テ生シタル債權ハ其管理權消滅ノ時ヨリ五年間之ヲ行ハサルトキハ時效ニ因リテ消滅ス

子カ未タ成年ニ達セサル間ニ管理權カ消滅シタルトキハ前項ノ期間ハ其子カ成年ニ達シ又ハ後任ノ法定代理人カ就職シタル時ヨリ之ヲ起算ス

第八百九十五條 親權ヲ行フ父又ハ母ハ其未成年ノ子ニ代ハリテ戶主權及ヒ親權ヲ行ヒ

第三節 親權ノ喪失

第八百九十六條 父又ハ母カ親權ヲ濫用シ又ハ著シク不行跡ナルトキハ裁判所ハ子ノ親族又ハ檢事ノ請求ニ因リ其親權ノ喪失ヲ宣告スルコトヲ得

第八百九十七條 親權ヲ行フ父又ハ母カ管理ノ失當ニ因リテ其子ノ財產ヲ危クシタルトキハ裁判所ハ子ノ親族又ハ檢事ノ請求ニ因リ其管理權ノ喪失ヲ宣告スルコトヲ得

父カ前項ノ宣告ヲ受ケタルトキハ管理權ハ家ニ在ル母之ヲ行フ

第八百九十八條　前二條ニ定メタル原因カ止ミタルトキハ裁判所ハ本人又ハ其親族ノ請求ニ因リ失權ノ宣告ヲ取消スコトヲ得

第八百九十九條　親權ヲ行フ母ハ財產ノ管理ヲ辭スルコトヲ得

第六章　後見

第一節　後見ノ開始

第九百條　後見ハ左ノ場合ニ於テ開始ス

一　未成年者ニ對シテ親權ヲ行フ者ナキ時又ハ親權ヲ行フ者カ管理權ヲ有セサルトキ

二　禁治產ノ宣告アリタルトキ

第二節　後見ノ機關

第一款　後見人

第九百一條　未成年者ニ對シテ最後ニ親權ヲ行フ者ハ遺言ヲ以テ後見人ヲ指定スルコトヲ得但管理權ヲ有セサル者ハ此限ニ在ラス

親權ヲ行フ父ノ生前ニ於テ母カ豫メ財產ノ管理ヲ辭シタルトキハ父ハ前項ノ規定ニ依リテ後見人ノ指定ヲ爲スコトヲ得

第九百二條　親權ヲ行フ父又ハ母ハ禁治產者ノ後見人ト爲ル

妻カ禁治產ノ宣告ヲ受ケタルトキハ夫其後見人ト爲ル夫カ後見人タラサルトキハ前項ノ規定ニ依ル

夫カ禁治產ノ宣告ヲ受ケタルトキハ妻其後見人ト爲ル妻カ後見人タラサルトキ又ハ夫カ未成年者ナルトキハ第一項ノ規定ニ依ル

第九百三條　前二條ノ規定ニ依リテ家族ノ後見人タル者アラサルトキハ戸主其後見人ト爲ル

第九百四條　前三條ノ規定ニ依リテ後見人タル者アラサルトキハ後見人ハ親族會之ヲ選任ス

第九百五條　母カ財產ノ管理ヲ辭シ、後見人カ其任務ヲ辭シ、親權ヲ行ヒタル父若クハ母カ家ヲ去リ又ハ戸主カ隱居ヲ爲シタルニ因リ後見人ヲ選任スル必要ヲ生シタルトキハ其父母又ハ後見人ハ遲滯ナク親族會ヲ招集シ又ハ其招集ヲ裁判所ニ請求スルコトヲ要ス

第九百六條　後見人ハ一人タルコトヲ要ス

第九百七條　後見人ハ婦女ヲ除ク外左ノ事由アルニ非サレハ其任務ヲ辭スルコトヲ得ス

一　軍人トシテ現役ニ服スルコト

二　被後見人ノ住所ノ市又ハ郡以外ニ於テ公務ニ從事スルコト

三　自己ヨリ先ニ後見人タルヘキ者ニ付キ本條又ハ次條ニ揭ケタル事由ノ存セサル場合ニ於テ其事由カ消滅シタルコト

四　禁治產者ニ付テハ十年以上後見ヲ爲シタルコト

限ニ在ラス

五　此他正當ノ事由

第九百八條　左ニ揭ケタル者ハ後見人タルコトヲ得ス

一　未成年者

二　禁治產者及ヒ準禁治產者

三　剝奪公權者及ヒ停止公權者

四 裁判所ニ於テ免黜セラレタル法定代理人又ハ保佐人
五 破産者
六 被後見人ニ對シテ訴訟ヲ爲シ又ハ爲シタル者及ヒ其配偶者竝ニ直系血族
七 行方ノ知レサル者
八 裁判所ニ於テ後見ノ任務ニ堪ヘサル事跡、不正ノ行爲又ハ著シキ不行跡アリト認メタル者

第九百九條 前七條ノ規定ハ保佐人ニ之ヲ準用ス
保佐人又ハ其代表スル者ト準禁治産者トノ利益相反スル行爲ニ付テハ保佐人ハ臨時保佐人ノ選任ヲ親族會ニ請求スルコトヲ要ス

第二款 後見監督人

第九百十條 後見人ヲ指定スルコトヲ得ル者ハ遺言ヲ以テ後見監督人ヲ指定スルコトヲ得
第九百十一條 前條ノ規定ニ依リテ指定シタル後見監督人ナキトキハ法定後見人又ハ指定後見人ハ其事務ニ著手スル前親族會ノ招集ヲ裁判所ニ請求シ後見監督人ヲ選任セシムルコトヲ要ス若シ之ニ違反シタルトキハ親族會ハ其後見人ヲ免黜スルコトヲ得
親族會ニ於テ後見人ヲ選任シタルトキハ直チニ後見監督人ヲ選任スルコトヲ要ス
第九百十二條 後見人就職ノ後後見監督人ノ缺クタルトキハ後見人ハ遲滯ナク親族會ヲ招集シ後見監督人ヲ選任セシムルコトヲ要ス此場合ニ於テハ前條第一項ノ規定ヲ準用ス
第九百十三條 後見人ノ更迭アリタルトキハ親族會ハ後見監督人ヲ改選スルコトヲ要ス但前後見監督人カ再選スルコトヲ妨クス
新後見人カ親族會ニ於テ選任シタル者ニ非サルトキハ後見監督人ハ遲滯ナク親族會ヲ招集シ前項ノ規定ニ依リテ改選ヲ爲サシムルコトヲ要ス若シ之ニ違反シタルトキハ後見人ノ行爲ニ付キ之ト連帶シテ其責ニ任ス

第九百十四條 後見人ノ配偶者、直系血族又ハ兄弟姉妹ハ後見監督人タルコトヲ得ス
第九百十五條 後見監督人ノ職務左ノ如シ
一 後見人ノ事務ヲ監督スルコト
二 後見人ノ缺ケタル場合ニ於テ遲滯ナク其後任者ノ任務ニ就クコトヲ促シ若シ後任者ナキトキハ親族會ヲ招集シテ其選任ヲ爲サシムルコト
三 急迫ノ事情アル場合ニ於テ必要ナル處分ヲ爲スコト
四 後見人又ハ其代表スル者ト被後見人トノ利益相反スル行爲ニ付キ被後見人ヲ代表スルコト

第九百十六條 第六百四十四條、第九百七條及ヒ第九百八條ノ規定ハ後見監督人ニ之ヲ準用ス

第三節 後見ノ事務

第九百十七條 後見人ハ遲滯ナク被後見人ノ財産ノ調査ニ著手シ一箇月内ニ其調査ヲ終ハリ且其目錄ヲ調製スルコトヲ要ス但此期間ハ親族會ニ於テ之ヲ伸長スルコトヲ得
財産ノ調査及ヒ其目錄ノ調製ハ後見監督人ノ立會ヲ以テ之ヲ爲スニ非サレハ其效ナシ
後見人カ前二項ノ規定ニ從ヒ財産ノ目錄ヲ調製セサルトキハ親族會ハ之ヲ免黜スルコトヲ得

第九百十八條 後見人ハ目錄ノ調製ヲ終ハルマテハ急迫ノ必要アル行爲ノミヲ爲ス權限ヲ有ス但之ヲ以テ善意ノ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

第九百十九條　後見人カ被後見人ニ對シ債權ヲ有シ又ハ債務ヲ負フトキハ財産ノ調査ニ著手スル前ニ之ヲ後見監督人ニ申出ツルコトヲ要ス

後見人カ被後見人ニ對シ債權ヲ有スルコトヲ知リテ之ヲ申出テサルトキハ其債權ヲ失フ

後見人カ被後見人ニ對シ債務ヲ負フコトヲ知リテ之ヲ申出テサルトキハ親族會ハ其後見人ヲ免黜スルコトヲ得

第九百二十條　前三條ノ規定ハ後見人就職ノ後被後見人カ包括財産ヲ取得シタル場合ニ之ヲ準用ス

第九百二十一條　未成年者ノ後見人ハ第八百七十九條乃至第八百八十三條及ヒ第八百八十五條ニ定メタル事項ニ付キ親權ヲ行フ父又ハ母ト同一ノ權利義務ヲ有ス但親權ヲ行フ父又ハ母カ定メタル教育ノ方法及ヒ居所ヲ變更シ、未成年者ヲ懲戒場ニ入レ、營業ヲ許可シ、其許可ヲ取消シ又ハ之ヲ制限スルニハ親族會ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス

第九百二十二條　禁治産者ノ後見人ハ禁治産者ノ資力ニ應シテ其療養看護ヲ力ムルコトヲ要ス

禁治産者ヲ瘋癲病院ニ入レ又ハ私宅ニ監置スルト否トハ親族會ノ同意ヲ得テ後見人之ヲ定ム

第九百二十三條　後見人ハ被後見人ノ財産ヲ管理シ又其財産ニ關スル法律行爲ニ付キ被後見人ヲ代表ス

第八百八十四條但書ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第九百二十四條　後見人ハ其就職ノ初ニ於テ親族會ノ同意ヲ得テ被後見人ノ生活、教育又ハ療養看護及ヒ財産ノ管理ノ爲メ毎年費スヘキ金額ヲ豫定スルコトヲ要ス

前項ノ豫定額ハ親族會ノ同意ヲ得ルニ非サレハ之ヲ變更スルコトヲ得ス但已ムコトヲ得サル場合ニ於テ豫定額ヲ超ユル金額ヲ支出スルコトヲ妨ケス

第九百二十五條　親族會ハ後見人及ヒ被後見人ノ資力其他ノ事情ニ依リ被後見人ノ財産中ヨリ相當ノ報酬ヲ後見人ニ與フルコトヲ得但後見人カ被後見人ノ配偶者、直系血族又ハ戸主ナルトキハ此限ニ在ラス

第九百二十六條　後見人ハ親族會ノ同意ヲ得テ有給ノ財産管理者ヲ使用スルコトヲ得但第百六條ノ適用ヲ妨ケス

第九百二十七條　親族會ハ後見人就職ノ初ニ於テ後見人カ被後見人ノ爲メニ受取リタル金錢カ何程ノ額ニ達セハ之ヲ寄託スヘキカヲ定ムルコトヲ要ス

後見人カ被後見人ノ爲メニ受取リタル金錢カ親族會ノ定メタル額ニ達スルモ相當ノ期間内ニ之ヲ寄託セサルトキハ其法定利息ヲ拂フコトヲ要ス

金錢ヲ寄託スヘキ場所ハ親族會ノ同意ヲ得テ後見人之ヲ定ム

第九百二十八條　指定後見人及ヒ選定後見人ハ毎年少クトモ一回被後見人ノ財産ノ狀況ヲ親族會ニ報告スルコトヲ要ス

第九百二十九條　後見人カ被後見人ニ代ハリテ營業若クハ第十二條第一項ニ掲ケタル行爲ヲ爲シ又ハ未成年者ノ之ヲ爲スコトニ同意スルニハ親族會ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス但元本ノ領收ニ付テハ此限ニ在ラス

第九百三十條　後見人カ被後見人ノ財産又ハ被後見人ニ對スル第三者ノ權利ヲ讓受ケタルトキハ被後見人ハ之ヲ取消スコトヲ得此場合ニ於テハ第十九條ノ規定ヲ準用ス

前項ノ規定ハ第百二十一條乃至第百二十六條ノ適用ヲ妨ケス

第九百三十一條　後見人ハ親族會ノ同意ヲ得ルニ非サレハ被後見人ノ財産ヲ賃借スルコトヲ得ス

第九百三十二條　後見人カ其任務ヲ曠クスルトキハ親族會ハ臨時管理人ヲ選任シ後見人ノ責任ヲ以テ被後見人ノ財産ヲ管理セシムルコトヲ得

第九百三十三條　親族會ハ後見人ナシテ被後見人ノ財産ノ管理及ヒ返還ニ付キ相當ノ擔保ヲ供セシムルコトヲ得

第九百三十四條　被後見人カ戸主ナルトキハ後見人ハ之ニ代ハリテ其權利ヲ行フ但家族ナルニ拘ハラス其復籍ヲ拒ミ又ハ家族カ分家ヲ爲シ若クハ廢絶家ヲ再興スルコトニ同意スルニハ親族會ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス

後見人ハ未成年者ニ代ハリテ親權ヲ行フ但第九百十七條乃至第九百二十一條及ヒ前十條ノ規定ヲ準用ス

第九百三十五條　親權ヲ行フ者カ管理權ヲ有セサル場合ニ於テハ後見人ハ財産ニ關スル權限ノミヲ有ス

第九百三十六條　第六百四十四條、第八百八十七條、第八百八十九條第二項及ヒ第八百九十二條ノ規定ハ後見ニ之ヲ準用ス

第四節　後見ノ終了

第九百三十七條　後見人ノ任務カ終了シタルトキハ後見人又ハ其相續人ハ二箇月內ニ其管理ノ計算ヲ爲スコトヲ要ス但此期間ハ親族會ニ於テ之ヲ伸長スルコトヲ得

第九百三十八條　後見ノ計算ハ後見監督人ノ立會ヲ以テ之ヲ爲ス

後見人ノ更迭アリタル場合ニ於テハ後見ノ計算ハ親族會ノ認可ヲ得ルコトヲ要ス

第九百三十九條　未成年者カ成年ニ達シタル後後見ノ計算ノ終了前ニ其者ト後見人又ハ其相續人トノ間ニ爲シタル契約ハ其者ニ於テ之ヲ取消スコトヲ得其者カ後見人又ハ其相續人ニ對シテ爲シタル單獨行爲亦同シ

第十九條及ヒ第百二十一條乃至第百二十六條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第九百四十條　後見人カ被後見人ニ返還スヘキ金額ニハ後見ノ計算終了ノ時ヨリ利息ヲ附スルコトヲ要ス

後見人カ自己ノ爲メニ被後見人ノ金錢ヲ消費シタルトキハ其消費ノ時ヨリ之ニ利息ヲ附スルコトヲ要ス尚ホ損害アリタルトキハ其賠償ノ責ニ任ス

第九百四十一條　第六百五十四條及ヒ第六百五十五條ノ規定ハ後見ニ之ヲ準用ス

第九百四十二條　第八百九十四條ニ定メタル時效ハ後見人、後見監督人又ハ親族會員ト被後見人トノ間ニ於テ後見ニ關シテ生シタル債權ニ之ヲ準用ス

前項ノ時效ハ第九百三十九條ノ規定ニ依リテ法律行爲ヲ取消シタル場合ニ於テハ其取消ノ時ヨリ之ヲ起算ス

第九百四十三條　前條第一項ノ規定ハ保佐人又ハ親族會員ト準禁治產者トノ間ニ之ヲ準用ス

第七章　親族會

第九百四十四條　本法其他ノ法令ノ規定ニ依リ親族會ヲ開クヘキ場合ニ於テハ會議ヲ要スル事件ノ本人、戸主、親族、後見人、後見監督人、保佐人、檢事又ハ利害關係人ノ請求ニ因リ裁判所之ヲ招集ス

第九百四十五條　親族會員ハ三人以上トシ親族其他本人又ハ其家ニ緣故アル者ノ中ヨリ裁

判所之ヲ選定ス

後見人ヲ指定スルコトヲ得ル者ハ遺言ヲ以テ親族会員ヲ選定スルコトヲ得

第九百四十六條　遺贈ノ地ニ居住スル者其他正當ノ事由アル者ハ親族会員タルコトヲ辭スルコトヲ得

後見人、後見監督人及ヒ保佐人ハ親族会員タルコトヲ得ス

第九百八條ノ規定ハ親族会員ニ之ヲ準用ス

第九百四十七條　親族会ノ議事ハ会員ノ過半數ヲ以テ之ヲ決ス

会員ハ自己ノ利害ニ關スル議事ニ付キ表決ノ數ニ加ハルコトヲ得ス

第九百四十八條　本人、戸主、家ニ在ル父母、配偶者、本家竝ニ分家ノ戸主、後見人、後見監督人及ヒ保佐人ハ親族会員ニ之ヲ述フルコトヲ得

親族会ハ前項ニ掲ケタル者ニ之ヲ通知スルコトヲ要ス

第九百四十九條　無能力者ノ爲メニ設ケタル親族会ハ其者ノ無能力ノ止ムマテ繼續ス此規定ハ最初ノ招集ノ場合ヲ除ク外本人、其法定代理人、後見監督人、保佐人又ハ会員之ヲ招集ス

第九百五十條　親族会ニ缺員ヲ生シタルトキハ会員ノ選定ヲ裁判所ニ請求スルコトヲ要ス

第九百五十一條　親族会ノ決議ニ對シテハ一箇月内ニ会員又ハ第九百四十四條ニ掲ケタル者ヨリ其不服ヲ裁判所ニ訴フルコトヲ得

第九百五十二條　親族会カ決議ヲ爲スコト能ハサルトキハ会員ハ其決議ニ代ハルヘキ裁判ヲ爲スコトヲ裁判所ニ請求スルコトヲ得

第九百五十三條　第六百四十四條ノ規定ハ親族会員ニ之ヲ準用ス

第八章　扶養ノ義務

第九百五十四條　直系血族及ヒ兄弟姉妹ハ互ニ扶養ヲ爲ス義務ヲ負フ

夫婦ノ一方ト他ノ一方直系尊屬ニシテ其家ニ在ル者トノ間亦同シ

第九百五十五條　扶養ノ義務ヲ負フ者數人アル場合ニ於テハ其義務ヲ履行スヘキ者ノ順序左ノ如シ

第一　配偶者
第二　直系卑屬
第三　直系尊屬
第四　戸主
第五　前條第二項ニ掲ケタル者
第六　兄弟姉妹

直系卑屬又ハ直系尊屬ノ間ニ於テハ其親等ノ最モ近キ者ヲ先ニス前條第二項ニ掲ケタル直系尊屬間亦同シ

第九百五十六條　同順位ノ扶養義務者數人アルトキハ各其資力ニ應シテ其義務ヲ分擔ス但家ニ在ル者ト家ニ在ラサル者トノ間ニ於テハ家ニ在ル者先ツ扶養ヲ爲スコトヲ要ス

第九百五十七條　扶養ヲ受クル權利ヲ有スル者數人アル場合ニ於テ扶養義務者ノ資力カ其全員ヲ扶養スルニ足ラサルトキハ扶養義務者ハ左ノ順序ニ從ヒ扶養ヲ爲スコトヲ要ス

第一　直系尊屬
第二　直系卑屬

第三　配偶者
第四　第九百五十四條第二項ニ揭ケタル者
第五　兄弟姉妹
第六　前五號ニ揭ケタル者ニ非サル家族

第九百五十五條第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第九百五十八條　同順位ノ扶養權利者數人アルトキハ各其需要ニ應シテ扶養ヲ受クルコトヲ得

第九百五十六條但書ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第九百五十九條　扶養ノ義務ハ扶養ヲ受クヘキ者カ自己ノ資産又ハ勞務ニ依リテ生活ヲ爲スコト能ハサルトキニノミ存在ス自己ノ資産ニ依リテ教育ヲ受クルコト能ハサルトキ亦同シ

兄弟姉妹間ニ在リテハ扶養ノ義務ハ扶養ヲ受クル必要カ之ヲ受クヘキ者ノ過失ニ因ラシテ生シタルトキニノミ存在ス但扶養義務者カ戶主ナルトキハ此限ニ在ラス

第九百六十條　扶養ノ程度ハ扶養權利者ノ需要ト扶養義務者ノ身分及ヒ資力トニ依リテ之ヲ定ム

第九百六十一條　扶養義務者ハ其選擇ニ從ヒ扶養權利者ヲ引取リテ之ヲ養ヒ又ハ之ヲ引取ラスシテ生活ノ資料ヲ給付スルコトヲ要ス但正當ノ事由アルトキハ裁判所ハ扶養權利者ノ請求ニ因リ扶養ノ方法ヲ定ムルコトヲ得

第九百六十二條　扶養ノ程度又ハ方法カ判決ニ因リ定マリタル場合ニ於テ其判決ノ根據ト爲リタル事情ニ變更ヲ生シタルトキハ當事者ハ其判決ノ變更又ハ取消ヲ請求スルコトヲ得

第九百六十三條　扶養ヲ受クル權利ハ之ヲ處分スルコトヲ得ス

第五編　相續

第一章　家督相續

第一節　總則

第九百六十四條　家督相續ハ左ノ事由ニ因リテ其家ヲ去リタルトキ
一　戶主ノ死亡、隱居又ハ國籍喪失
二　戶主カ婚姻又ハ養子緣組ノ取消ニ因リ
三　女戶主ノ入夫婚姻又ハ入夫ノ離婚
ニ於テ開始ス

第九百六十五條　家督相續ハ被相續人ノ住所ニ於テ開始ス

第九百六十六條　家督相續回復ノ請求權ハ家督相續人カ相續權侵害ノ事實ヲ知リタル時ヨリ五年間之ヲ行ハサルトキハ時效ニ因リテ消滅ス相續開始ノ時ヨリ二十年ヲ經過シタルトキ亦同シ

第九百六十七條　相續財產ニ關スル費用ハ其財產中ヨリ之ヲ支辨ス但家督相續人ノ過失ニ因ルモノハ此限ニ在ラス

前項ニ揭ケタル費用ハ遺留分權利者カ贈與ノ減殺ニ因リテ得タル財產ヲ以テ之ヲ支辨スルコトヲ要セス

第二節　家督相續人

第九百六十八條　胎兒ハ家督相續ニ付テハ既ニ生マレタルモノト看做ス

前項ノ規定ハ胎兒カ死體ニテ生マレタルトキハ之ヲ適用セス

第九百六十九條　左ニ掲ケタル者ハ家督相續人タルコトヲ得ス

一　故意ニ被相續人又ハ家督相續ニ付キ先順位ニ在ル者ヲ死ニ致シ又ハ死ニ致サントシタルカ爲メ刑ニ處セラレタル者

二　被相續人ノ殺害セラレタルコトヲ知リテ之ヲ告發又ハ告訴セサリシ者但其者ニ是非ノ辨別ナキトキ又ハ殺害者カ自己ノ配偶者若クハ直系血族ナリシトキハ此限ニ在ラス

三　詐欺又ハ强迫ニ因リ被相續人カ相續ニ關スル遺言ヲ爲シ、之ヲ取消シ又ハ之ヲ變更スルコトヲ妨ケタル者

四　詐欺又ハ强迫ニ因リ被相續人ヲシテ相續ニ關スル遺言ヲ爲サシメ之ヲ取消サシメ又ハ之ヲ變更セシメタル者

五　相續ニ關スル被相續人ノ遺言書ヲ僞造、變造、毀滅又ハ隱匿シタル者

第九百七十條　被相續人ノ家族タル直系卑屬ハ左ノ規定ニ從ヒ家督相續人ト爲ル

一　親等ノ異ナリタル者ノ間ニ在リテハ其近キ者ヲ先ニス

二　親等ノ同シキ者ノ間ニ在リテハ男ヲ先ニス

三　親等ノ同シキ男又ハ女ノ間ニ在リテハ嫡出子ヲ先ニス

四　親等ノ同シキ嫡出子、庶子及ヒ私生子ノ間ニ在リテハ年長者ヲ先ニス

五　前四號ニ掲ケタル事項ニ付キ相同シキ者ノ間ニ在リテハ年長者ヲ先ニス

第八百三十六條ノ規定ニ依リ又ハ養子緣組ニ因リテ嫡出子タル身分ヲ取得シタル者ハ家

督相續ニ付テハ其嫡出子タル身分ヲ取得シタル時ニ生マレタルモノト看做ス

第九百七十一條　前條ノ規定ハ第七百三十六條ノ適用ヲ妨ケス

第九百七十二條　第七百三十八條ノ規定ニ依リテ家族ト爲リタル直系卑屬ハ嫡出子又ハ庶子タル他ノ直系卑屬ナキ場合ニ限リ第九百七十條ニ定メタル順序ニ從ヒテ家督相續人ト爲ル

第九百七十三條　法定ノ推定家督相續人ハ其姉妹ノ爲メニスル養子緣組ニ因リテ其相續權ヲ害セラルルコトナシ

第九百七十四條　第九百七十條及ヒ第九百七十二條ノ規定ニ依リテ家督相續人タルヘキ者カ家督相續ノ開始前ニ死亡シ又ハ其相續權ヲ失ヒタル場合ニ於テ其者ニ直系卑屬アルトキハ其直系卑屬ハ第九百七十條及ヒ第九百七十二條ニ定メタル順序ニ從ヒ其者ト同順位ニ於テ家督相續人ト爲ル

第九百七十五條　法定ノ推定家督相續人ニ付キ左ノ事由アルトキハ被相續人ハ其推定家督相續人ノ廢除ヲ裁判所ニ請求スルコトヲ得

一　被相續人ニ對シテ虐待ヲ爲シ又ハ之ニ重大ナル侮辱ヲ加ヘタルコト

二　疾病其他身體又ハ精神ノ狀況ニ因リ家政ヲ執ルニ堪ヘサルヘキコト

三　家名ニ汚辱ヲ及ホスヘキ罪ニ因リテ刑ニ處セラレタルコト

四　浪費者トシテ準禁治產ノ宣告ヲ受ケ改悛ノ望ナキコト

此他正當ノ事由アルトキハ被相續人ハ親族會ノ同意ヲ得テ其廢除ヲ請求スルコトヲ得

第九百七十六條　被相續人カ遺言ヲ以テ推定家督相續人ノ廢除ノ意思ヲ表示シタルトキハ遺言執行者ハ其遺言カ效力ヲ生シタル後遲滯ナク裁判所ニ廢除ノ請求ヲ爲スコトヲ要

ス此場合ニ於テ廢除ハ被相續人ノ死亡ノ時ニ遡リテ其效力ヲ生ス

第九百七十七條　推定家督相續人廢除ノ原因止ミタルトキハ被相續人又ハ推定家督相續人ハ廢除ノ取消ヲ裁判所ニ請求スルコトヲ得

第九百七十五條第一項第一號ノ場合ニ於テハ被相續人ハ何時ニテモ廢除ノ取消ヲ請求スルコトヲ得

前二項ノ規定ハ相續開始ノ後ハ之ヲ適用セス

第九百七十八條　推定家督相續人ノ廢除又ハ其取消ノ請求アリタル後其裁判確定前ニ相續カ開始シタルトキハ裁判所ハ親族、利害關係人又ハ檢事ノ請求ニ因リ戶主權ノ行使及ヒ遺産ノ管理ニ付キ必要ナル處分ヲ命スルコトヲ得廢除ノ遺言アリタルトキ亦同シ

第九百七十九條　法定ノ推定家督相續人アルニ至リタル場合ニ於テハ第二十七條乃至第二十九條ノ規定ヲ準用ス

前二項ノ規定ハ死亡又ハ隱居ニ因ル家督相續ノ場合ニノミ之ヲ適用ス

第九百八十條　家督相續人ノ指定及ヒ其取消ハ之ヲ戶籍吏ニ屆出ツルニ因リテ其效力ヲ生ス

第九百八十一條　被相續人カ遺言ヲ以テ家督相續人ノ指定又ハ其取消ヲ爲ス意思ヲ表示シタルトキハ遺言執行者ハ其遺言カ效力ヲ生シタル後遲滯ナク之ヲ戶籍吏ニ屆出ツルコトヲ要ス此場合ニ於テ指定又ハ其取消ハ被相續人ノ死亡ノ時ニ遡リテ其效力ヲ生ス

第九百八十二條　法定又ハ指定ノ家督相續人ナキ場合ニ於テ其家ニ被相續人ノ父アリトキハ父、父アラサルトキ又ハ父カ其意思ヲ表示スルコト能ハサルトキハ母、父母共ニアラサルトキ又ハ其意思ヲ表示スルコト能ハサルトキハ親族會ハ左ノ順序ニ從ヒ家族中ヨリ家督相續人ヲ選定ス

第一　配偶者但家女ナルトキ

第二　兄弟

第三　姉妹

第四　第一號ニ該當セサル配偶者

第五　兄弟姉妹ノ直系卑屬

第九百八十三條　家督相續人ヲ選定スヘキ者ハ正當ノ事由アル場合ニ限リ裁判所ノ許可ヲ得テ前條ニ揭ケタル順序ヲ變更シ又ハ選定ヲ爲ササルコトヲ得

第九百八十四條　第九百八十二條ノ規定ニ依リテ尊屬中親等ノ最モ近キ者家督相續人ト爲ル但親等ノ同シキ者ノ間ニ在リテハ男ヲ先ニス

第九百八十五條　前條ノ規定ニ依リテ家督相續人タル者ナキトキハ親族會ハ被相續人ノ親族、家族、分家ノ戶主又ハ本家若クハ分家ノ家族中ヨリ家督相續人ヲ選定ス

前項ニ揭ケタル者ノ中ニ家督相續人タルヘキ者ナキトキハ親族會ハ他人ノ中ヨリ之ヲ選定ス

親族會ハ正當ノ事由アル場合ニ限リ前二項ノ規定ニ拘ハラス裁判所ノ許可ヲ得テ他人ヲ選定スルコトヲ得

第三節　家督相續ノ效力

第九百八十六條　家督相續人ハ相續開始ノ時ヨリ前戶主ノ有セシ權利義務ヲ承繼ス但前ノ主ノ一身ニ專屬セルモノハ此限ニ在ラス

第九百八十七條　系譜、祭具及ヒ墳墓ノ所有權ハ家督相續ノ特權ニ屬ス

第九百八十八條　隱居者及ヒ入夫婚姻ヲ爲ス女戶主ハ確定日附アル證書ニ依リテ其財產ヲ留保スルコトヲ得但家督相續人ノ遺留分ニ關スル規定ニ違反スルコトヲ得ス

第九百八十九條　隱居又ハ入夫婚姻ニ因ル家督相續ノ場合ニ於テハ前戶主ハ其前戶主ニ對シテ辨濟ノ請求ヲ爲スコトヲ得

入夫婚姻ノ取消又ハ入夫ノ離婚ニ因ル家督相續ノ場合ニ於テハ入夫カ戶主タリシ間ニ負擔シタル債務ノ辨濟ハ其入夫ニ對シテ之ヲ請求スルコトヲ得

前二項ノ規定ハ家督相續人ニ對スル請求ヲ妨ケス

第九百九十條　國籍喪失者ノ家督相續人ハ戶主權及ヒ家督相續ノ特權ニ屬スル權利ノミヲ承繼ス但遺留分及ヒ前戶主カ特ニ指定シタル相續財產ヲ承繼スルコトヲ妨ケス

國籍喪失者カ日本人ニ非サルハ專有スル權利ヲ有スル場合ニ於テ一年內ニ之ヲ日本人ニ讓渡ササルトキハ其權利ハ家督相續人ニ歸屬ス

第九百九十一條　國籍喪失ニ因ル家督相續ノ場合ニ於テハ前戶主ノ債權者ハ家督相續人ニ對シテハ其受ケタル財產ノ限度ニ於テノミ辨濟ノ請求ヲ爲スコトヲ得

第二章　遺產相續

第一節　總則

第九百九十二條　遺產相續ハ家族ノ死亡ニ因リテ開始ス

第九百九十三條　第九百六十五條乃至第九百六十八條ノ規定ハ遺產相續ニ之ヲ準用ス

第九百九十四條　被相續人ノ直系卑屬ハ左ノ規定ニ從ヒ遺產相續人ト爲ル

一　親等ノ異ナリタル者ノ間ニ在リテハ其近キ者ヲ先ニス

二　親等ノ同シキ者ハ同順位ニ於テ遺產相續人ト爲ル

第九百九十五條　前條ノ規定ニ依リテ遺產相續人タルヘキ者カ相續ノ開始前ニ死亡シ又ハ其相續權ヲ失ヒタル場合ニ於テ其者ニ直系卑屬アルトキハ其直系卑屬ハ前條ノ規定ニ從ヒ其者ト同順位ニ於テ遺產相續人ト爲ル

第九百九十六條　前二條ノ規定ニ依リテ遺產相續人タルヘキ者ナキ場合ニ於テ遺產相續人ト爲スヘキ者ノ順位左ノ如シ

第一　配偶者

第二　直系尊屬

第三　戶主

前項第二號ノ場合ニ於テハ第九百九十四條ノ規定ヲ準用ス

第九百九十七條　左ニ揭ケタル者ハ遺產相續人タルコトヲ得ス

一　故意ニ被相續人又ハ遺產相續ニ付キ先順位若クハ同順位ニ在ル者ヲ死ニ致シ又ハ死ニ致サントシタルヲ爲メ刑ニ處セラレタル者

二　第九百六十九條第二號乃至第五號ニ揭ケタル者

第九百九十八條　遺留分ヲ有スル推定遺產相續人カ被相續人ニ對シテ虐待ヲ爲シ又ハ之ニ重大ナル侮辱ヲ加ヘタルトキハ被相續人ハ其推定遺產相續人ノ廢除ヲ裁判所ニ請求スルコトヲ得

第九百九十九條　被相續人ハ何時ニテモ推定遺產相續人廢除ノ取消ヲ裁判所ニ請求スルコトヲ得

第千條　第九百七十六條及ヒ第九百七十八條ノ規定ハ推定遺產相續人ノ廢除及ヒ其取消ニ之ヲ準用ス

第三節　遺產相續ノ效力

第一款　總則

第千一條　遺產相續人ハ相續開始ノ時ヨリ被相續人ノ財產ニ屬セシ一切ノ權利義務ヲ承繼ス但被相續人ノ一身ニ專屬セシモノハ此限ニ在ラス

第千二條　遺產相續人數人アルトキハ相續財產ハ其共有ニ屬ス

第千三條　各共同相續人ハ其相續分ニ應シテ被相續人ノ權利義務ヲ承繼ス

第二款　相續分

第千四條　同順位ノ相續人數人アルトキハ其各自ノ相續分ハ相均シキモノトス但直系卑屬ノ數人アルトキハ庶子及ヒ私生子ノ相續分ハ嫡出子ノ相續分ノ二分ノ一トス

第千五條　第九百九十五條ノ規定ニ依リテ相續人タル直系卑屬ノ相續分ハ其直系尊屬カ受クヘカリシモノニ同シ但直系尊屬數人アルトキハ其各自ノ直系尊屬カ受クヘカリシ部分ニ付キ前條ノ規定ニ從ヒテ其相續分ヲ定ム

第千六條　被相續人ハ前二條ノ規定ニ拘ハラス遺言ヲ以テ共同相續人ノ相續分ヲ定メ又ハ之ヲ定ムルコトヲ第三者ニ委託スルコトヲ得但被相續人又ハ第三者ハ遺留分ニ關スル規定ニ違反スルコトヲ得ス

被相續人カ共同相續人中ノ一人若クハ數人ノ相續分ノミヲ定メ又ハ之ヲ定メシメタルトキハ他ノ共同相續人ノ相續分ハ前二條ノ規定ニ依リテ之ヲ定ム

第千七條　共同相續人中被相續人ヨリ遺贈ヲ受ケ又ハ婚姻、養子緣組、分家、營業ノ爲メ若クハ生計ノ資本トシテ贈與ヲ受ケタル者アルトキハ被相續人カ相續開始ノ時ニ於テ有セシ財產ノ價額ニ其贈與ノ價額ヲ加ヘタルモノヲ相續財產ト看做シ前三條ノ規定ニ依リテ算定シタル相續分ノ中ヨリ其遺贈又ハ贈與ノ價額ヲ控除シ其殘額ヲ以テ其者ノ相續分トス

遺贈又ハ贈與ノ價額カ相續分ノ價額ニ等シク又ハ之ニ超エルトキハ受遺者又ハ受贈者ハ其相續分ヲ受クルコトヲ得ス

被相續人カ前二項ノ規定ニ異ナリタル意思ヲ表示シタルトキハ其意思表示ハ遺留分ニ關スル規定ニ反セサル範圍內ニ於テ其效力ヲ有ス

第千八條　前條ニ揭ケタル贈與ノ價額ハ受贈者ノ行爲ニ因リ其目的タル財產カ滅失シ又ハ其價格ノ增減アリタルトキト雖モ相續開始ノ當時仍ホ原狀ニテ存スルモノト看做シテ之ヲ定ム

第千九條　共同相續人ノ一人カ分割前ニ其相續分ヲ第三者ニ讓渡シタルトキハ他ノ共同相續人ハ其價額及ヒ費用ヲ償還シテ其相續分ヲ讓受クルコトヲ得

前項ニ定メタル權利ハ一箇月內ニ之ヲ行使スルコトヲ要ス

第三款　遺產ノ分割

第千十條　被相續人ハ遺言ヲ以テ分割ノ方法ヲ定メ又ハ之ヲ定ムルコトヲ第三者ニ委託スルコトヲ得

第千十一條　被相續人ハ遺言ヲ以テ相續開始ノ時ヨリ五年ヲ超エサル期間內分割ヲ禁スルコトヲ得

コトヲ得

第千十二條　遺産ノ分割ハ相續開始ノ時ニ遡リテ其效力ヲ生ス

第千十三條　各共同相續人ハ相續開始前ヨリ存スル事由ニ付キ他ノ共同相續人ニ對シ資主ト同シク其相續分ニ應シテ擔保ノ責ニ任ス

第千十四條　各共同相續人ハ其相續分ニ應シ他ノ共同相續人カ分割ニ因リテ受ケタル債權ニ付キ分割ノ當時ニ於ケル債務者ノ資力ヲ擔保ス

辨濟期ニ在ラサル債權及ヒ停止條件附債權ニ付テハ各共同相續人ハ辨濟ヲ爲スヘキ時ニ於ケル債務者ノ資力ヲ擔保ス

第千十五條　擔保ノ責ニ任スル共同相續人中償還ヲ爲ス資力ナキ者アルトキハ其償還スルコト能ハサル部分ハ求償者及ヒ他ノ資力アル者各其相續分ニ應シテ之ヲ分擔ス但求償者ニ過失アルトキハ他ノ共同相續人ニ對シテ分擔ヲ請求スルコトヲ得ス

第千十六條　前三條ノ規定ハ被相續人カ遺言ヲ以テ別段ノ意思ヲ表示シタルトキハ之ヲ適用セス

第三章　相續ノ承認及ヒ拋棄

第一節　總則

第千十七條　相續人ハ自己ノ爲メニ相續ノ開始アリタルコトヲ知リタル時ヨリ三箇月内ニ單純若クハ限定ノ承認又ハ拋棄ヲ爲スコトヲ要ス但此期間ハ利害關係人又ハ檢事ノ請求ニ因リ裁判所ニ於テ之ヲ伸長スルコトヲ得

相續人ハ承認又ハ拋棄ヲ爲ス前ニ相續財産ノ調査ヲ爲スコトヲ得

第千十八條　相續人カ承認又ハ拋棄ヲ爲サスシテ死亡シタルトキハ前條第一項ノ期間ハ其者ノ相續人カ自己ノ爲メニ相續ノ開始アリタルコトヲ知リタル時ヨリ之ヲ起算ス

單純若クハ限定ノ承認又ハ拋棄ヲ爲スコトヲ得

第千十九條　相續人カ無能力者ナルトキハ第千十七條第一項ノ期間ハ其法定代理人カ無能力者ノ爲メニ相續ノ開始アリタルコトヲ知リタル時ヨリ之ヲ起算ス

第千二十條　法定家督相續人ハ拋棄ヲ爲スコトヲ得ス但第九百八十四條ニ掲ケタル者ハ此限ニ在ラス

第千二十一條　相續人ハ其固有財産ニ於ケルト同一ノ注意ヲ以テ相續財産ヲ管理スルコトヲ要ス但承認又ハ拋棄ヲ爲シタルトキハ此限ニ在ラス

裁判所ハ利害關係人又ハ檢事ノ請求ニ因リ何時ニテモ相續財産ノ保存ニ必要ナル處分ヲ命スルコトヲ得

裁判所カ管理人ヲ選任シタル場合ニ於テハ第二十七條乃至第二十九條ノ規定ヲ準用ス

第千二十二條　承認及ヒ拋棄ハ第千十七條第一項ノ期間内ト雖モ之ヲ取消スコトヲ得ス

前項ノ規定ハ第一編及ヒ前編ノ規定ニ依リテ承認又ハ拋棄ノ取消ヲ爲スコトヲ妨ケス但其取消權ハ追認ヲ爲スコトヲ得ル時ヨリ六箇月間之ヲ行ハサルトキハ時效ニ因リテ消滅ス承認又ハ拋棄ノ時ヨリ十年ヲ經過シタルトキ亦同シ

第二節　承認

第一款　單純承認

第千二十三條　相續人カ單純承認ヲ爲シタルトキハ無限ニ被相續人ノ權利義務ヲ承繼ス

第千二十四條　左ニ掲ケタル場合ニ於テハ相續人ハ單純承認ヲ爲シタルモノト看做ス

一　相續人カ相續財産ノ全部又ハ一部ヲ處分シタルトキ但保存行爲及ヒ第六百二條ニ定メタル期間ヲ超エサル賃貸ヲ爲スハ此限ニ在ラス

二　相續人カ第千十七條第一項ノ期間内ニ限定承認又ハ拋棄ヲ爲ササリシトキ

三　相續人カ限定承認又ハ拋棄ヲ爲シタル後ト雖モ相續財産ノ全部若クハ一部ヲ隱匿シ、私ニ之ヲ消費シ又ハ惡意ヲ以テ之ヲ財産目錄中ニ記載セサリシトキ但其相續人カ拋棄ヲ爲シタルニ因リテ相續人ト爲リタル者カ承認ヲ爲シタル後ハ此限ニ在ラス

第二款　限定承認

第千二十五條　相續人ハ相續ニ因リテ得タル財産ノ限度ニ於テノミ被相續人ノ債務及ヒ遺贈ヲ辨濟スヘキコトヲ留保シテ承認ヲ爲サント欲スルトキハ第千十七條第一項ノ期間内ニ財産目錄ヲ調製シテ之ヲ裁判所ニ提出シ限定承認ヲ爲ス旨ヲ申述スルコトヲ要ス

第千二十七條　相續人カ限定承認ヲ爲シタルトキハ其被相續人ニ對シテ有セシ權利義務ハ消滅セサリシモノト看做ス

第千二十八條　限定承認者ハ其固有財産ニ於ケルト同一ノ注意ヲ以テ相續財産ノ管理ヲ繼續スルコトヲ要ス

第六百四十五條、第六百四十六條、第六百五十條第一項、第二項及ヒ第千二十一條第二項、第三項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第千二十九條　限定承認者ハ限定承認ヲ爲シタル後五日内ニ一切ノ相續債權者及ヒ受遺者ニ對シ限定承認ヲ爲シタル旨及ヒ一定ノ期間内ニ其請求ノ申出ヲ爲スヘキ旨ヲ公告スルコトヲ要ス但其期間ハ二箇月ヲ下ルコトヲ得ス

第七十九條第二項及ヒ第三項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第千三十條　限定承認者ハ前條第一項ノ期間滿了前ニハ相續債權者及ヒ受遺者ニ對シテハ辨濟ヲ拒ムコトヲ得

第千三十一條　第千二十九條第一項ノ期間滿了ノ後ハ限定承認者ハ相續財産ヲ以テ其期間内ニ申出テタル債權者其他知レタル債權者ノ權利ヲ害スルコトヲ得ス

第千三十二條　限定承認者ハ辨濟期ニ至ラサル債權ト雖モ前條ノ規定ニ依リテ之ヲ辨濟スルコトヲ要ス

條件附債權又ハ存續期間ノ不確定ナル債權ハ裁判所ニ於テ選任シタル鑑定人ノ評價ニ從ヒテ之ヲ辨濟スルコトヲ要ス

第千三十三條　限定承認者ハ前二條ノ規定ニ依リテ各債權者ニ辨濟ヲ爲シタル後ニ非サレハ受遺者ニ辨濟ヲ爲スコトヲ要ス

第千三十四條　前三條ノ規定ニ從ヒテ辨濟ヲ爲スニ付キ相續財産ノ賣却ヲ必要トスルトキハ限定承認者ハ之ヲ競賣ニ付スルコトヲ要ス但裁判所ニ於テ選任シタル鑑定人ノ評價ニ從ヒ相續財産ノ全部又ハ一部ノ價額ヲ辨濟シテ其競賣ヲ止ムルコトヲ得

第千三十五條　相續債權者及ヒ受遺者ハ自己ノ費用ヲ以テ相續財産ノ競賣又ハ鑑定ニ參加スルコトヲ得此場合ニ於テハ第二百六十條第二項ノ規定ヲ準用ス

第千三十六條　限定承認者カ第千二十九條ニ定メタル公告若クハ催告ヲ爲スコトヲ怠リ又ハ同條第一項ノ期間内ニ或債權者若クハ受遺者ニ辨濟ヲ爲シタルニ因リ他ノ債權者若クハ受遺者ニ辨濟ヲ爲スコト能ハサルニ至リタルトキハ之ニ因リテ生シタル損害ヲ賠償スル責ニ任ス第千三十條乃至第千三十三條ノ規定ニ違反シテ辨濟ヲ爲シタルトキ亦同シ

前項ノ規定ハ情ヲ知リテ不當ニ辨濟ヲ受ケタル債權者又ハ受遺者ニ對スル他ノ債權者又

ハ受遺者ノ求償ヲ妨ケス

第七百二十四條ノ規定ハ前二項ノ場合ニモ亦之ヲ適用ス

第千三十七條　第千二十九條第一項ノ期間内ニ申出テサリシ債權者及ヒ受遺者ニシテ限定承認者ニ知レサリシ者ハ殘餘財産ニ付テノミ其權利ヲ行フコトヲ得但相續財産ニ付キ特別擔保ヲ有スル者ハ此限ニ在ラス

第三節　抛棄

第千三十八條　相續ノ抛棄ヲ爲サント欲スル者ハ其旨ヲ裁判所ニ申述スルコトヲ要ス

第千三十九條　抛棄ハ相續開始ノ時ニ遡リテ其效力ヲ生ス

數人ノ遺産相續人アル場合ニ於テ其一人カ抛棄ヲ爲シタルトキハ其相續分ハ他ノ相續人ノ相續分ニ應シテ之ニ歸屬ス

第千四十條　相續ノ抛棄ヲ爲シタル者ハ其抛棄ニ因リテ相續人ト爲リタル者カ相續財産ノ管理ヲ始ムルコトヲ得ルマテ自己ノ財産ニ於ケルト同一ノ注意ヲ以テ其財産ノ管理ヲ繼續スルコトヲ要ス

第六百四十五條、第六百四十六條、第六百五十條第一項、第二項及ヒ第千二十一條第二項、第三項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第四章　財産ノ分離

第千四十一條　相續債權者又ハ受遺者ハ相續開始ノ時ヨリ三箇月内ニ相續人ノ財産中ヨリ相續財産ヲ分離センコトヲ裁判所ニ請求スルコトヲ得其期間滿了ノ後ト雖モ相續財産カ相續人ノ固有財産ト混合セサル間亦同シ

裁判所カ前項ノ請求ニ因リテ財産ノ分離ヲ命シタルトキハ其請求ヲ爲シタル者ハ五日内ニ他ノ相續債權者及ヒ受遺者ニ對シ財産分離ノ命令アリタルコト及ヒ一定ノ期間内ニ配當加入ノ申出ヲ爲スヘキ旨ヲ公告スルコトヲ要ス但其期間ハ二箇月ヲ下ルコトヲ得ス

第千四十二條　財産分離ノ請求ヲ爲シタル者及ヒ前條第二項ノ規定ニ依リテ配當加入ノ申出ヲ爲シタル者ハ相續財産ニ付キ相續人ノ債權者ニ先チテ辨濟ヲ受ク

第千四十三條　財産分離ノ請求アリタルトキハ裁判所ハ相續財産ノ管理ニ付キ必要ナル處分ヲ命スルコトヲ得

裁判所カ管理人ヲ選任シタル場合ニ於テハ第二十七條乃至第二十九條ノ規定ヲ準用ス

第千四十四條　相續人ハ單純承認ヲ爲シタル後ト雖モ財産分離ノ請求アリタルトキハ爾後其固有財産ニ於ケルト同一ノ注意ヲ以テ相續財産ノ管理ヲ爲スコトヲ要ス但裁判所ニ於テ管理人ヲ選任シタルトキハ此限ニ在ラス

第六百四十五條　乃至第六百四十七條及ヒ第六百五十條第一項第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第千四十五條　財産ノ分離ハ不動産ニ付テハ其登記ヲ爲スニ非サレハ之ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

第千四十六條　第三百四條ノ規定ハ財産分離ノ場合ニ之ヲ準用ス

第千四十七條　相續人ハ第千四十一條第一項及ヒ第二項ノ期間滿了前ニハ相續債權者及ヒ受遺者ニ對シテ辨濟ヲ拒ムコトヲ得

財産分離ノ請求アリタルトキハ相續人ハ第千四十一條第二項ノ期間滿了ノ後相續財産ヲ以テ財産分離ノ請求ハ又配當加入ノ申出ヲ爲シタル債權者及ヒ受遺者ニ各其債權ノ割合ニ應シテ辨濟ヲ爲スコトヲ要ス但優先權ヲ有スル債權者ノ權利ヲ害スルコトヲ得

ス

第千三十二條乃至第千三十六條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第千四十八條　財産分離ノ請求ヲ爲シタル者及ヒ配當加入ノ申出ヲ爲シタル者ハ相續財産ヲ以テ全部ノ辨濟ヲ偶クルコト能ハサリシ場合ニ限リ相續人ノ固有財産ニ付キ其權利ヲ行フコトヲ得此場合ニ於テハ相續人ノ債權者ハ其者ニ先チテ辨濟ヲ受クルコトヲ得

第千四十九條　相續人ハ其固有財産ヲ以テ相續債權者若クハ受遺者ニ辨濟ヲ爲シ又ハ之ニ相當ノ擔保ヲ供シテ財産分離ノ請求ヲ防止シ又ハ其效力ヲ消滅セシムルコトヲ得但相續人ノ債權者カ之ニ因リテ損害ヲ受クヘキコトヲ證明シテ異議ヲ述ヘタルトキハ此限ニ在ラス

第千五十條　相續人カ限定承認ヲ爲スコトヲ得ル間又ハ相續財産カ相續人ノ固有財産ト混合セサル間ハ其債權者ハ財産分離ノ請求ヲ爲スコトヲ得

第三百四條、第千二十九條、第千二十六條乃至第千三十六條、第千四十三條乃至第千四十五條及ヒ第千四十八條ノ規定ハ前項ノ場合及ヒ催告ハ財産分離ノ請求ヲ爲シタル債權者之ヲ準用ス

第五章　相續人ノ曠缺

第千五十一條　相續人アルコト分明ナラサルトキハ相續財産ハ之ヲ法人トス

第千五十二條　前條ノ場合ニ於テハ裁判所ハ利害關係人又ハ檢事ノ請求ニ因リ相續財産ノ管理人ヲ選任スルコトヲ要ス

裁判所ハ遲滯ナク管理人ノ選任ヲ公告スルコトヲ要ス

第千五十三條　第二十七條乃至第二十九條ノ規定ハ相續財産ノ管理人ニ之ヲ準用ス

第千五十四條　管理人ハ相續債權者又ハ受遺者ノ請求アルトキハ之ニ相續財産ノ狀況ヲ報告スルコトヲ要ス

第千五十五條　相續人アルコト分明ナルニ至リタルトキハ法人ハ存立セサリシモノト看做ス但管理人カ其權限内ニ於テ爲シタル行爲ノ效力ヲ妨ケス

第千五十六條　管理人カ相續人ノ承認ヲ爲シタル時ニ於テ消滅ス

前項ノ場合ニ於テハ管理人ハ相續人ニ對シテ管理ノ計算ヲ爲スコトヲ要ス

第千五十七條　第千五十二條第二項ニ定メタル公告アリタル後二箇月内ニ相續人アルコト分明ナルニ至ラサルトキハ管理人ハ遲滯ナク一切ノ相續債權者及ヒ受遺者ニ對シ一定ノ期間内ニ其請求ノ申出ヲ爲スヘキ旨ヲ公告スルコトヲ要ス但其期間ハ二箇月ヲ下ルコトヲ得ス

第七十九條第二項、第三項及ヒ第千三十條乃至第千三十七條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス但第千三十四條但書ノ規定ハ此限ニ在ラス

第千五十八條　前條第一項ノ期間滿了ノ後仍ホ相續人アルコト分明ナラサルトキハ裁判所ハ管理人又ハ檢事ノ請求ニ因リ相續人アラハ一定ノ期間内ニ其權利ヲ主張スヘキ旨ヲ公告スルコトヲ要ス但其期間ハ一年ヲ下ルコトヲ得ス

第千五十九條　前條ノ期間内ニ相續人タル權利ヲ主張スル者ナキトキハ相續財産ハ國庫ニ歸屬ス此場合ニ於テハ第千五十六條第二項ノ規定ヲ準用ス

相續債權者及ヒ受遺者ハ國庫ニ對シテ其權利ヲ行フコトヲ得

第六章　遺言

第一節　總則

第千六十條　遺言ハ本法ニ定メタル方式ニ從フニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス

第千六十一條　滿十五年ニ達シタル者ハ遺言ヲ爲スコトヲ得

第千六十二條　第四條、第九條、第十二條及ヒ第十四條ノ規定ハ遺言ニハ之ヲ適用セス

第千六十三條　遺言者ハ遺言ヲ爲ス時ニ於テ其能力ヲ有スルコトヲ要ス

第千六十四條　遺言者ハ包括又ハ特定ノ名義ヲ以テ其財産ノ全部又ハ一部ヲ處分スルコトヲ得ス但遺留分ニ關スル規定ニ違反スルコトヲ得ス

第千六十五條　第九百六十八條及ヒ第九百六十九條ノ規定ハ受遺者ニ之ヲ準用ス

第千六十六條　被後見人カ後見ノ計算終了前ニ後見人又ハ其配偶者若クハ直系卑屬ノ利益ト爲ルヘキ遺言ヲ爲シタルトキハ其遺言ハ無效トス

前項ノ規定ハ直系血族、配偶者又ハ兄弟姉妹カ後見人タル場合ニハ之ヲ適用セス

第二節　遺言ノ方式

第一款　普通方式

第千六十七條　遺言ハ自筆證書、公正證書又ハ秘密證書ニ依リテ之ヲ爲スコトヲ要ス但特別方式ニ依ルコトヲ許ス場合ハ此限ニ在ラス

第千六十八條　自筆證書ニ依リテ遺言ヲ爲スニハ遺言者其全文、日附及ヒ氏名ヲ自書シ之ニ捺印スルコトヲ要ス

自筆證書中ノ挿入、削除其他ノ變更ハ遺言者其場所ヲ指示シ之ヲ變更シタル旨ヲ附記シテ特ニ之ニ署名シ且其變更ノ場所ニ捺印スルニ非サレハ其效ナシ

第千六十九條　公正證書ニ依リテ遺言ヲ爲スニハ左ノ方式ニ從フコトヲ要ス

一　證人二人以上ノ立會アルコト

二　遺言者カ遺言ノ趣旨ヲ公證人ニ口授スルコト

三　公證人カ遺言者ノ口述ヲ筆記シ之ヲ遺言者及ヒ證人ニ讀聞カスコト

四　遺言者及ヒ證人カ筆記ノ正確ナルコトヲ承認シタル後各自之ニ署名、捺印スルコト但遺言者カ署名スルコト能ハサル場合ニ於テハ公證人其事由ヲ附記シテ署名ニ代フルコトヲ得

五　公證人カ其證書ハ前四號ニ掲ケタル方式ニ從ヒテ作リタルモノナル旨ヲ附記シテ之ニ署名、捺印スルコト

第千七十條　秘密證書ニ依リテ遺言ヲ爲スニハ左ノ方式ニ從フコトヲ要ス

一　遺言者カ其證書ニ署名、捺印スルコト

二　遺言者カ其證書ヲ封シ證書ニ用ヒタル印章ヲ以テ之ニ封印スルコト

三　遺言者カ公證人一人及ヒ證人二人以上ノ前ニ封書ヲ提出シテ自己ノ遺言書ナル旨及ヒ其筆者ノ氏名、住所ヲ申述スルコト

四　公證人カ其證書提出ノ日附及ヒ遺言者ノ申述ヲ封紙ニ記載シタル後遺言者及ヒ證人ト共ニ之ニ署名、捺印スルコト

第千六十八條第二項ノ規定ハ秘密證書ニ依ル遺言ニ之ヲ準用ス

第千七十一條　秘密證書ニ依ル遺言ハ前條ニ定メタル方式ニ缺クルモノアルモ第千六十八條ノ方式ヲ具備スルトキハ自筆證書ニ依リテ其效力ヲ有ス

第千七十二條　言語ヲ發スルコト能ハサル者カ秘密證書ニ依リテ遺言ヲ爲ス場合ニ於テハ遺言者ハ公證人及ヒ證人ノ前ニ於テ其證書ハ自己ノ遺言書ナル旨並ニ其筆者ノ氏名、住所ヲ封紙ニ自書シテ第千七十條第一項第三號ノ申述ニ代フルコトヲ要ス

公證人ハ遺言者カ前項ニ定メタル方式ヲ踐ミタル旨ヲ封紙ニ記載シテ申述ノ記載ニ代フルコトヲ要ス

第千七十三條　禁治産者カ本心ニ復シタル時ニ於テ遺言ヲ爲スニハ醫師二人以上ノ立會ヲルコトヲ要ス

遺言ニ立會ヒタル醫師ハ遺言者カ遺言ヲ爲ス時ニ於テ心神喪失ノ狀況ニ在ラサリシ旨ヲ遺言書ニ附記シテ之ニ署名、捺印スルコトヲ要ス但秘密證書ニ依リテ遺言ヲ爲ス場合ニ於テハ其封紙ニ右ノ記載及ヒ署名、捺印ヲ爲スコトヲ要ス

第千七十四條　左ニ掲ケタル者ハ遺言ノ證人又ハ立會人タルコトヲ得ス

一　未成年者
二　禁治産者及ヒ準禁治産者
三　剝奪公權者及ヒ停止公權者
四　遺言者ノ配偶者
五　推定相續人、受遺者及ヒ其配偶者竝ニ直系血族
六　公證人ト家ヲ同シクスル者及ヒ公證人ノ直系血族竝ニ雇人

第千七十五條　遺言ハ二人以上同一ノ證書ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得ス

第二款　特別方式

第千七十六條　疾病其他ノ事由ニ因リテ死亡ノ危急ニ迫リタル者カ遺言ヲ爲サント欲スルトキハ證人三人以上ノ立會ヲ以テ其一人ニ遺言ノ趣旨ヲ口授シテ之ヲ爲スコトヲ得此場合ニ於テハ其口授ヲ受ケタル者之ヲ筆記シテ遺言者及ヒ他ノ證人ニ讀聞カセ各證人其筆記ノ正確ナルコトヲ承認シタル後之ニ署名、捺印スルコトヲ要ス

前項ノ規定ニ依リテ爲シタル遺言ハ遺言ノ日ヨリ二十日内ニ證人ノ一人又ハ利害關係人ヨリ裁判所ニ請求シテ其確認ヲ得ルニ非サレハ其效ナシ

裁判所ハ遺言カ遺言者ノ眞意ニ出テタル心證ヲ得ルニ非サレハ之ヲ確認スルコトヲ得ス

第千七十七條　傳染病ノ爲メ行政處分ヲ以テ交通ヲ遮斷シタル場所ニ在ル者ハ警察官一人及ヒ證人一人以上ノ立會ヲ以テ遺言書ヲ作ルコトヲ得

第千七十八條　從軍中ノ軍人及ヒ軍屬ハ將校又ハ相當官一人及ヒ證人二人以上ノ立會ヲ以テ遺言書ヲ作ルコトヲ得若シ將校及ヒ相當官カ其場所ニ在ラサルトキハ準士官又ハ下士一人ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得

從軍中ノ軍人又ハ軍屬カ疾病又ハ傷痍ノ爲メ病院ニ在ルトキハ其院ノ醫師ヲ以テ前項ニ揭ケタル將校又ハ相當官ニ代フルコトヲ得

第千七十九條　從軍中疾病、傷痍其他ノ事由ニ因リテ死亡ノ危急ニ迫リタル軍人及ヒ軍屬ハ證人二人以上ノ立會ヲ以テ口頭ニテ遺言ヲ爲スコトヲ得

前項ノ規定ニ從ヒテ爲シタル遺言ハ證人其趣旨ヲ筆記シテ之ニ署名、捺印シ且證人ノ一人又ハ利害關係人ヨリ裁判所ニ請求シテ其確認ヲ得ルニ非サレハ其效ナシ

第千八十條　艦船中ニ在ル者ハ軍艦及ヒ海軍所屬ノ船舶ニ於テハ將校又ハ相當官一人及ヒ證人二人以上其他ノ船舶ニ於テハ船長又ハ事務員一人及ヒ證人二人以上ノ立會ヲ以テ遺言書ヲ作ルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ將校又ハ相當官カ其艦船中ニ在ラサルトキハ準士官又ハ下士一人ヲ以

テ之ニ代フルコトヲ得

第千八十一條　第千七十九條ノ規定ハ艦船遭難ノ場合ニ之ヲ準用ス但海軍ノ所屬ニ非サル船舶中ニ在ル者カ遺言ヲ爲シタル場合ニ於テハ其確認ハ之ヲ裁判所ニ請求スルコトヲ要ス

第千八十二條　第千七十七條、第千七十八條及ヒ第千八十條ノ場合ニ於テハ遺言者、筆者立會人及ヒ證人ハ各自遺言書ニ署名、捺印スルコトヲ要ス

第千八十三條　第千七十七條乃至第千八十一條ノ場合ニ於テ署名又ハ捺印スルコト能ハサル者アルトキハ立會人又ハ證人ハ其事由ヲ附記スルコトヲ要ス

第千八十四條　第千六十八條第二項及ヒ第千七十三條乃至第千七十五條ノ規定ハ前八條ノ規定ニ依ル遺言ニ之ヲ準用ス

第千八十五條　前九條ノ規定ニ依リテ爲シタル遺言ハ遺言者カ普通方式ニ依リテ遺言ヲ爲スコトヲ得ルニ至リタル時ヨリ六箇月間生存スルトキハ其效ナシ

第千八十六條　日本ノ領事ノ駐在スル地ニ在ル日本人カ公正證書又ハ祕密證書ニ依リテ遺言ヲ爲サント欲スルトキハ公證人ノ職務ハ領事之ヲ行フ

第三節　遺言ノ效力

第千八十七條　遺言ハ遺言者ノ死亡ノ時ヨリ其效力ヲ生ス

遺言ニ停止條件ヲ附シタル場合ニ於テ其條件カ遺言者ノ死亡後ニ成就シタルトキハ遺言ハ條件成就ノ時ヨリ其效力ヲ生ス

第千八十八條　受遺者ハ遺言者ノ死亡後何時ニテモ遺贈ノ拋棄ヲ爲スコトヲ得

遺贈ノ拋棄ハ遺言者ノ死亡ノ時ニ遡リテ其效力ヲ生ス

第千八十九條　遺贈義務者其他ノ利害關係人ハ相當ノ期間ヲ定メ其期間內ニ遺贈ノ承認又ハ拋棄ヲ爲スヘキ旨ヲ受遺者ニ催告スルコトヲ得若シ受遺者カ其期間內ニ遺贈義務者ニ對シテ其意思ヲ表示セサルトキハ遺贈ヲ承認シタルモノト看做ス

第千九十條　受遺者カ遺贈ノ承認又ハ拋棄ヲ爲サスシテ死亡シタルトキハ其相續人ハ自己ノ相續權ノ範圍內ニ於テ承認又ハ拋棄ヲ爲スコトヲ得但遺言者カ其遺言ニ別段ノ意思ヲ表示シタルトキハ其意思ニ從フ

第千九十一條　遺贈ノ承認及ヒ拋棄ハ之ヲ取消スコトヲ得

第千九十二條第二項ノ規定ハ遺贈ノ承認及ヒ拋棄ニ之ヲ準用ス

第千九十二條　包括受遺者ハ遺産相續人ト同一ノ權利義務ヲ有ス

第千九十三條　受遺者ハ遺贈義務者ニ對シテ相當ノ擔保ヲ請求スルコトヲ得停止條件附遺贈ニ付キ其條件ノ成否未定ノ間亦同シ

第千九十四條　受遺者ハ遺贈ノ履行ヲ請求スルコトヲ得ル時ヨリ果實ヲ取得ス但遺言者カ其遺言ニ別段ノ意思ヲ表示シタルトキハ其意思ニ從フ

第千九十五條　遺贈義務者カ遺言者ノ死亡後遺贈ノ目的物ニ付キ費用ヲ出タシタルトキハ第二百九十九條ノ規定ヲ準用ス

果實ヲ收取スル爲メニ出タシタル通常ノ必要費ハ果實ノ價格ヲ超エサル限度ニ於テ其償還ヲ請求スルコトヲ得

第千九十六條　遺贈ハ遺言者ノ死亡前ニ受遺者カ死亡シタルトキハ其效力ヲ生セス

停止條件附遺贈ニ付テハ受遺者カ其條件ノ成就前ニ死亡シタルトキ亦同　但遺言者カ其遺言ニ別段ノ意思ヲ表示シタルトキハ其意思ニ從フ

第千九十七條　遺贈カ其效力ヲ生セサルトキ又ハ拋棄ニ因リ其效力ナキニ至リタルトキハ

受遺者カ受クヘカリシモノハ相續人ニ歸屬ス但遺言者カ其遺言ニ別段ノ意思ヲ表示シタルトキハ其意思ニ從フ

第千九十八條　遺贈ハ其目的タル權利カ遺言者ノ死亡ノ時ニ於テ相續財産ニ屬セサルトキハ其效力ヲ生セス但其權利カ相續財産ニ屬セサルコトアルニ拘ハラス之ヲ以テ遺贈ノ目的ト爲シタルモノト認ムヘキトキハ此限ニ在ラス

第千九十九條　相續財産ニ屬セサル權利ヲ目的トスル遺贈カ前條但書ノ規定ニ依リテ有效ナルトキハ遺贈義務者ハ其權利ヲ取得シテ之ヲ受遺者ニ移轉スル義務ヲ負フ若シ之ヲ取得スルコト能ハサルカ又ハ之ヲ取得スルニ付キ過分ノ費用ヲ要スルトキハ其意思ヲ表示シタルトキハ其價額ヲ辨償スルコトヲ要ス但遺言者カ其遺言ニ別段ノ意思ヲ表示シタル場合ニ於テハ此限ニ在ラス

第千百條　不特定物ヲ以テ遺贈ノ目的ト爲シタルトキハ遺贈義務者ハ之ニ對シテ實主ト同シク擔保ノ責ニ任ス

前項ノ場合ニ於テ物ニ瑕疵アリタルトキハ遺贈義務者ハ瑕疵ナキ物ヲ以テ之ニ代フルコトヲ要ス

第千百一條　遺言者カ遺贈ノ目的物ノ滅失若クハ毀損又ハ其占有ノ喪失ニ因リ第三者ニ對シテ償金ヲ請求スル權利ヲ有スルトキハ其權利ヲ以テ遺贈ノ目的物ト推定ス

遺贈ノ目的物カ他ノ物ト附合又ハ混和シタル場合ニ於テ遺言者カ第二百四十三條乃至第二百四十五條ノ規定ニ依リ合成物又ハ混和物ノ單獨所有者又ハ共有者ト爲リタルトキハ其全部ノ所有權又ハ共有權ヲ以テ遺贈ノ目的ト爲シタルモノト推定ス

第千百二條　遺贈ノ目的タル物又ハ權利カ遺言者ノ死亡ノ時ニ於テ第三者ノ權利ノ目的タルトキハ受遺者ハ遺贈義務者ニ對シ其權利ヲ消滅セシムヘキ旨ヲ請求スルコトヲ得ス但遺言者カ其遺言ニ反對ノ意思ヲ表示シタルトキハ此限ニ在ラス

第千百三條　債權ヲ以テ遺贈ノ目的ト爲シタル場合ニ於テ遺言者カ辨濟ヲ受ケ且其受取リタル物カ尚ホ相續財産中ニ存スルトキハ其物ヲ以テ遺贈ノ目的ト爲シタルモノト推定ス

金錢ヲ目的トスル債權ニ付テハ相續財産中ニ其債權額ニ相當スル金錢ナキトキト雖モ其金額ヲ以テ遺贈ノ目的ト爲シタルモノト推定ス

第千百四條　負擔附遺贈ヲ受ケタル者ハ遺贈ノ目的ノ價額ヲ超エサル限度ニ於テノミ其負擔シタル義務ヲ履行スル責ニ任ス

受遺者カ遺贈ノ拋棄ヲ爲シタルトキハ負擔ノ利益ヲ受クヘキ者自ラ受遺者ト爲ルコトヲ得但遺言者カ其遺言ニ別段ノ意思ヲ表示シタルトキハ其意思ニ從フ

第千百五條　負擔附遺贈ノ目的ノ價格カ相續ノ限定承認又ハ遺留分回復ノ訴ニ因リテ減少シタルトキハ受遺者ハ其減少ノ割合ニ應シテ其負擔シタル義務ヲ免ル但遺言者カ其遺言ニ別段ノ意思ヲ表示シタルトキハ其意思ニ從フ

第四節　遺言ノ執行

第千百六條　遺言書ノ保管者ハ相續ノ開始ヲ知リタル後遲滯ナク之ヲ裁判所ニ提出シテ其檢認ヲ請求スルコトヲ要ス遺言書ノ保管者ナキ場合ニ於テ相續人カ遺言書ヲ發見シタル後亦同シ

前項ノ規定ハ公正證書ニ依ル遺言ニハ之ヲ適用セス

封印アル遺言書ハ裁判所ニ於テ相續人又ハ其代理人ノ立會ヲ以テスルニ非サレハ之ヲ開封スルコトヲ得ス

第千百七條　前條ノ規定ニ依リテ遺言書ヲ提出スルコトヲ怠リ、其檢認ヲ經スシテ遺言ヲ

執行シ又ハ裁判所外ニ於テ其開封ヲ爲シタル者ハ二百圓以下ノ過料ニ處セラル

第千百八條　遺言者ハ遺言ヲ以テ一人又ハ數人ノ遺言執行者ヲ指定シ又ハ其指定ヲ第三者ニ委託スルコトヲ得

遺言執行者指定ノ委託ヲ受ケタル者ハ遲滯ナク其指定ヲ爲シテ之ヲ相續人ニ通知スルコトヲ要ス

遺言執行者指定ノ委託ヲ受ケタル者カ其委託ヲ辭セントスルトキハ遲滯ナク其旨ヲ相續人ニ通知スルコトヲ要ス

第千百九條　遺言執行者カ就職ヲ承諾シタルトキハ直チニ其任務ヲ行フコトヲ要ス

第千百十條　相續人其他ノ利害關係人ハ相當ノ期間ヲ定メ其期間內ニ就職ヲ承諾スルヤ否ヤヲ確答スヘキ旨ヲ遺言執行者ニ催告スルコトヲ得若シ遺言執行者カ其期間內ニ相續人ニ對シテ確答ヲ爲ササルトキハ就職ヲ承諾シタルモノト看做ス

第千百十一條　無能力者及ヒ破產者ハ遺言執行者タルコトヲ得ス

第千百十二條　遺言執行者ナキトキ又ハ之ナキニ至リタルトキハ裁判所ハ利害關係人ノ請求ニ因リ之ヲ選任スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リテ選任シタル遺言執行者ハ正當ノ理由アルニ非サレハ就職ヲ拒ムコトヲ得ス

第千百十三條　遺言執行者ハ遲滯ナク相續財產ノ目錄ヲ調製シテ之ヲ相續人ニ交付スルコトヲ要ス

遺言執行者ハ相續人ノ請求アルトキハ其立會ヲ以テ財產目錄ヲ調製シ又ハ公證人ヲシテ之ヲ調製セシムルコトヲ要ス

第千百十四條　遺言執行者ハ相續財產ノ管理其他遺言ノ執行ニ必要ナル一切ノ行爲ヲ爲ス權利義務ヲ有ス

第六百四十四條乃至第六百四十七條及ヒ第六百五十條ノ規定ハ遺言執行者ニ之ヲ準用ス

第千百十五條　遺言執行者アル場合ニ於テハ相續人ハ相續財產ヲ處分シ其他遺言ノ執行ヲ妨クヘキ行爲ヲ爲スコトヲ得ス

第千百十六條　前三條ノ規定ハ遺言カ特定財產ニ關スル場合ニ於テハ其財產ニ付テノミ之ヲ適用ス

第千百十七條　遺言執行者ハ之ヲ相續人ノ代理人ト看做ス

第千百十八條　遺言執行者ハ已ムコトヲ得サル事由アルニ非サレハ第三者ヲシテ其任務ヲ行ハシムルコトヲ得ス但遺言者カ其遺言ニ反對ノ意思ヲ表示シタルトキハ此限ニ在ラス

遺言執行者カ前項但書ノ規定ニ依リ第三者ヲシテ其任務ヲ行ハシムル場合ニ於テハ相續人ニ對シ第百五條ニ定メタル責ニ任ス

第千百十九條　數人ノ遺言執行者アル場合ニ於テハ其任務ノ執行ハ過半數ヲ以テ之ヲ決ス但遺言者カ其遺言ニ別段ノ意思ヲ表示シタルトキハ其意思ニ從フ

各遺言執行者ハ前項ノ規定ニ拘ハラス保存行爲ヲ爲スコトヲ得

第千百二十條　遺言執行者ハ遺言ニ報酬ヲ定メタルトキニ限リ之ヲ受クルコトヲ得

裁判所ニ於テ遺言執行者ヲ選任シタルトキハ裁判所ハ事情ニ依リ相當ノ報酬ヲ定ムルコトヲ得

遺言執行者カ報酬ヲ受クヘキ場合ニ於テハ第六百四十八條第二項及ヒ第三項ノ規定ヲ準用ス

第千百二十一條　遺言執行者カ其任務ヲ怠リタルトキ其他正當ノ事由アルトキハ利害關係人ハ其解任ヲ裁判所ニ請求スルコトヲ得

遺言執行者ハ正當ノ事由アルトキハ就職ノ後ト雖モ其任務ヲ辭スルコトヲ得

第千百二十二條　第六百五十四條及ヒ第六百五十四條ノ規定ハ遺言執行者ノ任務カ終了シタル場合ニ之ヲ準用ス

第千百二十三條　遺言ノ執行ニ關スル費用ハ相續財產ノ負擔トス但之ニ因リテ遺留分ヲ減スルコトヲ得ス

第五節　遺言ノ取消

第千百二十四條　遺言者ハ何時ニテモ遺言ノ方式ニ從ヒテ其遺言ノ全部又ハ一部ヲ取消スコトヲ得

第千百二十五條　前ノ遺言ト後ノ遺言トカ抵觸スルトキハ其抵觸スル部分ニ付テハ後ノ遺言ヲ以テ前ノ遺言ヲ取消シタルモノト看做ス

前項ノ規定ハ遺言ト遺言後ノ生前處分其他ノ法律行爲ト抵觸スル場合ニ之ヲ準用ス

第千百二十六條　遺言者カ故意ニ遺言書ヲ毀滅シタルトキハ其毀滅シタル部分ニ付テハ遺言ヲ取消シタルモノト看做ス

遺言者カ故意ニ遺贈ノ目的物ヲ毀滅シタルトキ亦同シ

第千百二十七條　前三條ノ規定ニ依リテ取消サレタル遺言ハ其取消ノ行爲カ取消サレ又ハ效力ヲ生セサルニ至リタルトキト雖モ其效力ヲ回復セス但其行爲カ詐欺又ハ强迫ニ因ル場合ハ此限ニ在ラス

第千百二十八條　遺言者ハ其遺言ノ取消權ヲ拋棄スルコトヲ得ス

第千百二十九條　負擔附遺贈ヲ受ケタル者カ其負擔シタル義務ヲ履行セサルトキハ相續人ハ相當ノ期限ヲ定メテ其履行ヲ催告シ若シ其期間內ニ履行ナキトキハ遺言ノ取消ヲ裁判所ニ請求スルコトヲ得

第七章　遺留分

第千百三十條　法定家督相續人タル直系卑屬ハ遺留分トシテ被相續人ノ財產ノ半額ヲ受ク此他ノ家督相續人ハ遺留分トシテ被相續人ノ財產ノ三分ノ一ヲ受ク

第千百三十一條　遺產相續人タル直系卑屬ハ遺留分トシテ被相續人ノ財產ノ半額ヲ受ク遺產相續人タル配偶者又ハ直系尊屬ハ遺留分トシテ被相續人ノ財產ノ三分ノ一ヲ受ク

第千百三十二條　遺留分ハ被相續人カ相續開始ノ時ニ於テ有セシ財產ノ價額ニ其贈與シタル財產ノ價額ヲ加ヘ其中ヨリ債務ノ全額ヲ控除シテ之ヲ算定ス

條件附權利又ハ存續期間ノ不確定ナル權利ハ裁判所ニ於テ選定シタル鑑定人ノ評價ニ從ヒ其價格ヲ定ム

家督相續ノ特權ニ屬スル權利ハ遺留分ノ算定ニ關シテハ其價額ヲ算入セス

第千百三十三條　贈與ハ相續開始前一年間ニ爲シタルモノニ限リ前條ノ規定ニ依リテ其價額ヲ算入ス一年前ニ爲シタルモノト雖モ當事者雙方カ遺留分權利者ニ損害ヲ加フルコトヲ知リテ之ヲ爲シタルトキ亦同シ

第千百三十四條　遺留分權利者及ヒ其承繼人ハ遺留分ヲ保全スルニ必要ナル限度ニ於テ遺贈及ヒ前條ニ揭ケタル贈與ノ減殺ヲ請求スルコトヲ得

第千百三十五條　條件附權利又ハ存續期間ノ不確定ナル權利ヲ以テ贈與又ハ遺贈ノ目的ト爲シタル場合ニ於テ其贈與又ハ遺贈ノ一部ヲ減殺スヘキトキハ遺留分權利者ハ第千百三十二條第二項ノ規定ニ依リテ定メタル價格ニ從ヒ直ナニ其殘部ノ價格ヲ受贈者又ハ受遺

者ニ給付スルコトヲ要ス

第千三十六條　贈與ハ遺贈ヲ減殺シタル後ニ非サレハ之ヲ減殺スルコトヲ得ス

第千三十七條　遺贈ハ其目的ノ價額ノ割合ニ應シテ之ヲ減殺ス但遺言者カ其遺言ニ別段ノ意思ヲ表示シタルトキハ其意思ニ從フ

第千三十八條　贈與ノ減殺ハ後ノ贈與ヨリ始メ順次ニ前ノ贈與ニ及フ

第千三十九條　受贈者ハ其返還スヘキ財產ノ外尙ホ減殺ノ請求アリタル日以後ノ果實ヲ返還スルコトヲ要ス

第千四十條　減殺ヲ受クヘキ受贈者ノ無資力ニ因リテ生シタル損失ハ遺留分權利者ノ負擔ニ歸ス

第千四十一條　負擔附贈與ハ其目的ノ價額中ヨリ負擔ノ價額ヲ控除シタルモノニ付キ其減殺ヲ請求スルコトヲ得

第千四十二條　不相當ノ對價ヲ以テ爲シタル有償行爲ハ當事者雙方カ遺留分權利者ニ損害ヲ加フルコトヲ知リテ爲シタルモノニ限リ之ヲ贈與ト看做ス此場合ニ於テ遺留分權利者カ其減殺ヲ請求スルトキハ其對價ヲ償還スルコトヲ要ス

第千四十三條　減殺ヲ受クヘキ受贈者カ贈與ノ目的ヲ他人ニ讓渡シタルトキハ遺留分權利者ニ其價額ヲ辨償スルコトヲ要ス但讓受人カ讓渡ノ當時遺留分權利者ニ損害ヲ加フルコトヲ知リタルトキハ遺留分權利者ハ之ニ對シテモ減殺ヲ請求スルコトヲ得

前項ノ規定ハ受贈者カ贈與ノ目的ノ上ニ權利ヲ設定シタル場合ニ之ヲ準用ス

第千四十四條　受贈者及ヒ受遺者ハ減殺ヲ受クヘキ限度ニ於テ贈與又ハ遺贈ノ目的ノ價額ヲ遺留分權利者ニ辨償シテ返還ノ義務ヲ免ルルコトヲ得

前項ノ規定ハ前條第一項但書ノ場合ニ之ヲ準用ス

第千四十五條　減殺ノ請求權ハ遺留分權利者カ相續ノ開始及ヒ減殺スヘキ贈與又ハ遺贈アリタルコトヲ知リタル時ヨリ一年間之ヲ行ハサルトキハ時效ニ因リテ消滅ス相續開始ノ時ヨリ十年ヲ經過シタルトキ亦同シ

第千四十六條　第九百九十五條、第千四條、第千五條、第千七條及ヒ第千八條ノ規定ハ遺留分ニ之ヲ準用ス

三十三年法律第三七號附則

本法施行前ニ分家ヲ爲シタル者ノ本家ニ在ル直系卑屬カ意思能力ヲ有セサルトキハ法定代理人之ニ代ハリ民法第七百三十七條第一項ノ規定ニ依リテ分家ノ家族ト爲ル手續ヲ爲スコトヲ得

本法施行前ニ分家ヲ爲シタル者ノ直系卑屬ニシテ民法第七百三十七條ノ規定ニ依リ分家ノ家族ト爲リタル者ニ付テハ同法第九百七十二條ノ規定ヲ適用セス但第三者カ既ニ取得シタル權利ヲ害スルコトヲ得ス

●民法施行法　明治三十一年六月十五日法律第十一號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル民法施行法ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

御　名　御　璽

民法施行法

第一章　通則

第二章　總則編ニ關スル規定

第三章　物權編ニ關スル規定
第四章　債權編ニ關スル規定
第五章　親族編ニ關スル規定
第六章　相續編ニ關スル規定

民法施行法

第一章　通則

第一條　民法施行前ニ生シタル事項ニ付テハ本法ニ別段ノ定アル場合ヲ除ク外民法ノ規定ヲ適用セス

第二條　民法ニ於テ破產ト稱スルハ民事ニ付テハ家資分散ヲ謂フ

第三條　身代限ノ處分ヲ受ケタル者ハ其債務ヲ完濟スルマデハ之ヲ破產者ト看做ス

第四條　證書ハ確定日附アルニ非サレハ第三者ニ對シ其作成ノ日ニ付キ完全ナル證據力ヲ有セス

第五條　證書ハ左ノ場合ニ限リ確定日附アルモノトス

一　公正證書ナルトキハ其日附ヲ以テ確定日附トス

二　登記所又ハ公證人役場ニ於テ私署證書ニ日附アル印章ヲ押捺シタルトキハ其印章ノ日附ヲ以テ確定日附トス

三　私署證書ノ署名者中ニ死亡シタル者アルトキハ其死亡ノ日ヨリ確定日附アルモノトス

四　確定日附アル證書中ニ私署證書ヲ引用シタルトキハ其證書ノ日附ヲ以テ引用シタル私署證書ノ確定日附トス

五　官廳又ハ公署ニ於テ私署證書ニ或事項ヲ記入シ之ニ日附ヲ記載シタルトキハ其日附ヲ以テ其證書ノ確定日附トス

第六條　私署證書ニ確定日附ヲ附スルコトヲ登記所又ハ公證人役場ニ請求スル者アルトキハ登記官吏又ハ公證人ハ確定日附簿ニ署名者ノ氏名又ハ其一人ノ氏名ニ外何名ト附記シタルモノ及ヒ件名ヲ記載シ其證書ニ登簿番號ヲ記入シ帳簿及ヒ證書ニ日附アル印章ヲ押捺シ且其印章ヲ以テ帳簿ト證書トニ割印ヲ爲スコトヲ要ス

證書カ數紙ヨリ成レル場合ニ於テハ前項ニ揭ケタル印章ヲ以テ每紙ノ綴目又ハ綴目ニ契印ヲ爲スコトヲ要ス

第七條　確定日附簿ニハ豫メ登簿番號ヲ印刷シ請求順ヲ以テ前條ノ規定ニ從ヒ記入ヲ爲スコトヲ要ス

確定日附簿ニハ地方裁判所長其紙數ヲ表紙ノ裏面ニ記載シ職氏名ヲ署シ職印ヲ押捺シ且契印ヲ以テ每紙ノ綴目ニ契印ヲ爲スコトヲ要ス

第八條　私署證書ニ確定日附ヲ附スルコトヲ登記所又ハ公證人役場ニ請求スル者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ手數料ヲ納ムルコトヲ要ス

第九條　左ノ法令ハ民法施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

一　明治五年第二百九十五號布告
二　明治六年第二十一號布告
三　同年第二十八號布告
四　同年第四十號布告
五　同年第百六十二號布告

六　同年第百七十七號布告
七　同年第二百十五號布告代人規則
八　同年第二百五十二號布告
九　同年第三百六號布告動產不動產賣入金穀貸借規則
　　同年第三百六十二號布告出訴期限規則
十一　明治七年第二十七號布告
十二　明治八年第六號布告
十三　同年第六十三號布告
十四　同年第百二號布告金穀貸借請人證人辨償規則
十五　同年第百四十八號布告建物賣入質規則及ヒ建物賣買讓渡規則
十六　明治九年第七十五號布告
十七　同年第九十九號布告
十八　明治十年第五十號布告
十九　明治十四年第七十三號布告
二十　明治十七年第二十號布告
二十一　明治二十三年法律第九十四號財產委棄法
二十二　同年勅令第二百十七號辨濟提供規則
明治六年第十八號布告地所質入書入規則ハ第十一條ヲ除ク外民法施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

第十條　（明治三十九年法律第十三號ヲ以テ本條削除）

第十一條　本法ハ民法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第二章　總則編ニ關スル規定

第十二條　民法施行前ニ民法第七條又ハ第十一條ニ揭ケタル原因ノ爲メニ後見人ヲ附シタル者ハ其施行ノ日ヨリ禁治產者ト看做ス

第十三條　後見人其他民法第七條ニ揭ケタル者カ民法施行ノ日ヨリ一箇月內ニ禁治產又ハ準禁治產ノ請求ヲ爲スコトヲ要ス
後見人ハ民法施行ノ日ヨリ一箇月內ニ禁治產又ハ準禁治產ノ請求ヲ爲ササリシトキハ其期間經過ノ後ハ前條第一項ノ規定ヲ適用セス
準禁治產ノ請求ヲ爲ササリシトキハ其期間經過ノ後ハ前條第一項ノ規定ヲ適用セス
前項ノ期間內ニ禁治產又ハ準禁治產ノ請求アリタルモ裁判所ニ於テ之ヲ却下シタルトキハ抗告期間經過ノ後、若シ抗告アリタルトキハ最後ノ抗告棄却ノ時ヨリ又源ニ於テ禁治產又ハ準禁治產ノ宣告ヲ取消シタルトキハ其判決確定ノ日ヨリ前條第一項ノ規定ヲ適用セス

第十四條　刑法第十條第三號、第三十五條、第三十六條、刑法附則第四十一條、陸軍刑法第十八條第四號及ヒ海軍刑法第九條第四號、第二十二條ハ之ヲ削除ス
刑法第五十五條中「行政ノ處分ヲ以テ治產ノ禁ノ幾分ヲ免スルコトヲ得但」ノ二十三字及ヒ陸軍刑法第三十二條中「第三十五條第三十六條」ノ十字ハ之ヲ削除ス

第十五條　民法施行ノ日ニ於テ刑事禁治產者タル者ハ其施行ノ日ヨリ能力ヲ回復ス

第十六條　民法施行前ヨリ刑事禁治產者ノ財產ヲ管理スル者ハ刑事禁治產者又ハ刑事禁治產者カ定メタル他ノ管理者カ其財產ヲ管理スルコトヲ得ルマテ管理ヲ繼續スルコトヲ要ス
前項ノ場合ニ於テ管理者ハ民法第百三條ニ定メタル權限ヲ有ス但刑事禁治產者カ別段ノ

意思ヲ表示シタルトキハ此限ニ在ラス

第十七條　民法第二十五條乃至第二十九條ノ規定ハ民法施行前ニ住所又ハ居所ヲ去リタル者ニ付テモ亦之ヲ適用ス

民法施行前ヨリ不在者ノ財産ヲ管理スル者ハ其施行ノ日ヨリ民法ノ規定ニ從ヒテ其管理ヲ繼續ス

第十八條　民法第三十條及ヒ第三十一條ノ規定ハ民法施行前ヨリ生死分明ナラサル者ニモ亦之ヲ適用ス

民法施行前既ニ民法第三十條ノ期間ヲ經過シタル者ニ付テハ直ナニ失踪ノ宣告ヲ爲スコトヲ得此場合ニ於テハ失踪者ハ民法ノ施行ト同時ニ死亡シタルモノト看做ス

第十九條　民法施行前ヨリ獨立ノ財産ヲ有スル社團又ハ財團ニシテ民法第三十四條ニ掲ケタル目的ヲ有スルモノハ之ヲ法人トス

前項ノ法人ノ代表者ハ民法第三十七條又ハ第三十九條ニ掲ケタル事項其他社員又ハ寄附者カ定メタル事項ヲ記載シタル書面ヲ作リ民法施行ノ日ヨリ三箇月內ニ之ヲ主務官廳ニ差出タシ其認可ヲ請フコトヲ要ス此場合ニ於テ主務官廳ハ其書面カ民法其他ノ法令ニ反スルトキ又ハ公益ノ爲メ必要ト認ムルトキハ其變更ヲ命スルコトヲ要ス

前項ノ規定ニ從ヒテ認可ヲ得ヘキ書面ハ定款又ハ寄附行爲ト同一ノ效力ヲ有ス

第二十條　法人ノ代表者カ前條第二項ノ規定ニ從ヒ主務官廳ノ認可ヲ得タルトキハ二週間內ニ各事務所ノ所在地ニ於テ左ノ事項ヲ登記スルコトヲ要ス

一　民法第四十六條第一項第一號乃至第三號及ヒ第五號乃至第八號ニ掲ケタル事項

二　主務官廳ノ認可ノ年月日

前項ノ期間ハ主務官廳ノ認可書ノ到達シタル時ヨリ之ヲ起算ス

第一項ノ規定ニ從ヒテ爲シタル登記ハ民法第四十六條第一項ニ定メタル登記ト同一ノモノト看做ス

第二十一條　第十九條第一項ノ法人カ財產目錄又ハ社員名簿ヲ備ヘサルトキハ民法施行ノ後遲滯ナク之ヲ作ルコトヲ要ス

第二十二條　法人ノ代表者カ前三條ノ規定ニ反シ認可ヲ受ケ、登記ヲ爲シ又ハ財產目錄若クハ社員名簿ヲ作ルコトヲ怠リタルトキハ主務官廳ハ五圓以上二百圓以下ノ過料ニ處セラル

第二十三條　第十九條第一項ノ法人カ其目的以外ノ事業ヲ爲シ又ハ認可ノ條件ニ違反シ其他公益ヲ害スヘキ行爲ヲ爲シタルトキハ主務官廳ハ其解散ヲ命スルコトヲ得

第二十四條　民法ノ規定ニ依リ法人ニ關シテ登記シタル事項ハ裁判所ニ於テ遲滯ナク之ヲ公告スルコトヲ要ス

第二十五條　主務官廳カ正當ノ事由ナクシテ法人ノ設立許可ヲ取消シ又ハ其解散ヲ命シタルトキハ其法人ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第二十六條　法人ノ清算人カ民法第七十九條及ヒ第八十一條第一項ノ規定ニ依リ爲スヘキ公告ヲ裁判所カ爲スヘキ登記事項ノ公告ト同一ノ方法ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得

第二十七條　劍尊公權者及ヒ停止公權者ハ法人ノ理事、監事又ハ清算人タルコトヲ得ス

第二十八條　民法中法人ニ關スル規定ハ當分ノ內神社寺院祠宇及ヒ佛堂ニハ之ヲ適用セス

第二十九條　民法施行前ニ出訴期限ヲ經過シタル時效ニ因リテ消滅シタルモノト看做ス

第三十條　民法施行前ニ出訴期限ヲ經過セサル債權ニ付テハ民法中時效ニ關スル規定ヲ適

用ス

第三十一條　民法施行前ニ進行ヲ始メタル出訴期限カ民法ニ定メタル時效ノ期間ヨリ長キトキハ舊法ノ規定ニ從フ但其殘期カ民法施行ノ日ヨリ起算シ民法ニ定メタル時效ノ期間ヨリ長キトキハ其日ヨリ起算シテ民法ノ規定ヲ適用ス

第三十二條　前條但書ノ規定ハ舊法ニ出訴期限ナキ權利ニ之ヲ準用ス

第三十三條　前三條ノ場合ニ於テ民法中時效ノ中斷及ヒ停止ニ關スル規定ハ民法施行ノ日ヨリ之ヲ適用ス

第三十四條　第三十條乃至第三十二條ノ規定ハ時效期間ノ性質ヲ有セサル法定期間ニ之ヲ準用ス

第三章　物權編ニ關スル規定

第三十五條　慣習上物權ト認メタル權利ニシテ民法施行前ニ發生シタルモノト雖モ其施行ノ後ハ民法其他ノ法律ニ定ムルモノニ非サレハ物權タルノ效力ヲ有セス

第三十六條　民法ニ定メタル物權ハ民法施行前ニ發生シタルモノト雖モ其施行ノ日ヨリ民法ニ定メタル效力ヲ有ス

第三十七條　民法又ハ不動產登記法ノ規定ニ依リ登記スヘキ權利ハ從來登記ナクシテ第三者ニ對抗スルコトヲ得ヘカリシモノト雖モ民法施行ノ日ヨリ一年內ニ之ヲ登記スルニ非サレハ之ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

第三十八條　民法施行前ヨリ占有又ハ準占有ヲ爲ス者ニハ其施行ノ日ヨリ民法ノ規定ヲ適用ス

第三十九條　民法施行前ヨリ動產ヲ占有スル者カ民法第百九十二條ノ條件ト具備スルトキ

ハ民法ノ施行ト同時ニ其動產ノ上ニ行使スル權利ヲ取得ス

第四十條　遺失物ハ明治九年第五十六號布告遺失物取扱規則第二條ニ依リ掲示ヲ爲シタル後一年內ニ其所有者ノ知レサルトキハ民法施行前ニ其拾得者カ其所有權ヲ取得ス但漂著物ニ付テハ明治八年第六十六號布告內國船難破及漂流物取扱規則ノ規定ニ從フ

第四十一條　埋藏物ニ付テハ特別法ノ施行ニ至ルマテ遺失物ト同一ノ手續ニ依リテ公告ヲ爲スコトヲ要ス

第四十二條　民法施行前ヨリ民法第二百四十六條ノ規定ニ依レハ所有權ヲ取得スヘカリシ狀況ニ在ル者ハ民法ノ施行ト同時ニ民法ノ規定ニ從ヒテ所有權ヲ取得ス但第三者カ正當ニ取得シタル權利ヲ妨ケス

第四十三條　共有者カ民法施行前ニ於テ五年ヲ超エサル期間內共有物ノ分割ヲ爲ササル契約ヲ爲シタルトキハ其契約ハ民法施行ノ日ヨリ五年ヲ超エサル範圍內ニ於テ其效力ヲ有ス

第四十四條　民法施行前ニ設定シタル地上權ニシテ存續期間ノ定メナキモノニ付キ當事者カ民法第二百六十八條第二項ノ請求ヲ爲シタルトキハ裁判所ハ設定ノ時ヨリ二十年以上民法施行ノ日ヨリ五十年以下ノ範圍內ニ於テ其存續期間ヲ定ム

地上權者カ民法施行前ヨリ有シタル建物又ハ竹木アルトキハ地上權ハ其建物ノ朽廢又ハ其竹木ノ伐採期ニ至ルマテ存續ス

地上權者カ前項ノ建物ニ修繕又ハ變更ヲ加ヘタルトキハ地上權ハ原建物ノ朽廢スヘカリシ時ニ於テ消滅ス

第四十五條　外國人又ハ外國法人ノ爲メニ設定シタル地上權ニハ條約又ハ命令ニ別段ノ定

ナキ場合ニ限リ民法ノ規定ヲ適用ス

第四十六條　民法第二百七十五條及ヒ第二百七十六條ノ期間ハ民法施行前ヨリ同條ニ定メタル事實カ始マリタルトキト雖モ其始ヨリ之ヲ起算ス

第四十七條　民法施行前ニ設定シタル永小作權ハ其存續期間カ五十年ヨリ長キトキト雖モ其效力ヲ存ス但其期間カ民法施行ノ日ヨリ起算シテ五十年ヲ超ユルトキハ其日ヨリ起算シテ之ヲ五十年ニ短縮ス

民法施行前ニ期間ヲ定メスシテ設定シタル永小作權ヲ存續期間ハ慣習ニ依リ五十年ヨリ短キ場合ヲ除ク外民法施行ノ日ヨリ五十年トス

民法施行前ニ永久存續スヘキモノトシテ設定シタル永小作權ハ民法施行ノ日ヨリ五十年ヲ經過シタル後一年內ニ所有者ニ於テ相當ノ償金ヲ拂ヒテ其消滅ヲ請求スルコトヲ得若シ所有者カ此權利ヲ拋棄シ又ハ一年內ニ此權利ヲ行使セサルトキハ期後一年內ニ永小作人ニ於テ相當ノ代價ヲ拂ヒテ所有權ヲ買取ルコトヲ要ス（三十三年法律第七十一號ヲ以テ本項追加）

第四十八條　民法ノ規定ニ從ヘハ民法施行前ヨリ先取特權ヲ有スヘカリシ債權者ハ其施行ノ日ヨリ先取特權ヲ有ス

第四十九條　民法第三百七十條ノ規定ハ民法施行前ニ抵當權ノ目的タル不動產ニ附加シタル物ニモ亦之ヲ適用ス

第五十條　民法第三百七十四條ノ規定ハ民法施行前ニ設定シタル抵當權ニモ亦之ヲ適用ス但民法施行ノ日ヨリ一年內ニ特別ノ登記ヲ爲シタル利息其他ノ定期金ニ付テハ元本ト同一ノ順位ヲ以テ抵當權ヲ行フコトヲ得

第五十一條　民事訴訟法第六百四十九條第二項及ヒ第三項ヲ改メテ左ノ三項トス

不動產ノ上ニ存スル一切ノ先取特權及ヒ抵當權ハ賣却ニ因リテ消滅ス

留置權カ不動產ノ上ニ存スル場合ニ於テハ競落人ハ其留置權ヲ以テ擔保スル債權者及ヒ賣權者ニ對シテ優先權ヲ有ルス者ノ債權ヲ辨濟スル責ニ任ス

質權カ不動產ノ上ニ存スル場合ニ於テハ競落人ハ其質權ヲ以テ擔保スル債權者及ヒ賣權

第四章　債權編ニ關スル規定

第五十二條　明治十年第六十六號布告利息制限法第三條ハ之ヲ削除ス

第五十三條　民法施行前ヨリ債務ヲ負擔スル者カ其施行ノ後ニ至リ債務ヲ履行セサルトキハ民法ノ規定ニ從ヒ不履行ノ責ニ任ス

前項ノ規定ハ債權者カ債務ノ履行ヲ受クルコトヲ拒ミ又ハ之ヲ受クルコト能ハサル場合ニ之ヲ準用ス

第五十四條　民事訴訟法第七百三十三條第一項ヲ左ノ如ク改ム

民法第四百四十四條第二項及ヒ第三項ノ場合ニ於テハ第一審ノ受訴裁判所ハ申立ニ因リ民法ノ規定ニ從ヒテ決定ヲ爲ス

第五十五條　民事訴訟法第七百三十四條ヲ左ノ如ク定ム

債務ノ性質カ強制履行ヲ許ス場合ニ於テ第一審ノ受訴裁判所ハ申立ニ因リ決定ヲ以テ相當ノ期間ヲ定メ債務者カ其期間內ニ履行ヲ爲ササルトキハ其遲延ノ期間ニ應シ一定ノ賠償ヲ爲スヘキコトヲ命スルコトヲ要ス

第五十六條　金錢ヲ目的トスル債務ヲ負擔シタル者カ民法施行前ヨリ其履行ヲ怠リタルト

キハ損害賠償ノ額ハ其施行ノ日以後ハ民法第四百四條ニ定メタル利率ニ依リテ之ヲ定ム
但民法第四百十九條第一項但書ノ適用ヲ妨ケス

第五十七條　指圖證券、無記名證券及ヒ民法第四百七十一條ニ掲ケタル證券ハ公示催告ノ手續ニ依リテ之ヲ無效ト爲スコトヲ得

第五十八條　民法施行前ニ發生シタル債務ト雖モ相殺ニ因リテ之ヲ免ルルコトヲ得
雙方ノ債務カ民法施行前ヨリ互ニ相殺ヲ爲スニ適シタルトキハ相殺ノ意思表示ハ民法施行ノ日ニ遡リテ其效力ヲ生ス

第五十九條　民法第六百五條ノ規定ハ民法施行前ニ爲シタル不動産ノ賃貸借ニモ亦之ヲ適用ス

第六十條　第四十五條ノ規定ハ外國人又ハ外國法人ニ土地ヲ賃貸シタル場合ニ之ヲ準用ス

第六十一條　刑法附則第五十四條乃至第六十條ハ之ヲ削除ス

第五章　親族編ニ關スル規定

第六十二條　民法施行ノ際家族タル者ハ民法ノ規定ニ依レハ家族タルコトヲ得サル者ト雖モ之ヲ家族トス
家族ハ民法施行ノ日ヨリ民法ノ規定ニ從ヒテ戸主權ニ服ス

第六十三條　民法ノ規定ニ依レハ父又ハ母ノ家ニ入ルヘキ者ト雖モ民法施行ノ際他家ニ在ル者ニハ其規定ヲ適用セス

第六十四條　民法施行前ニ隱居者又ハ家督相續人カ詐欺又ハ强迫ニ因リ隱居ヲ爲シ又ハ相續ヲ承認シタルトキハ民法第七百五十九條ノ規定ニ依リテ之ヲ取消スコトヲ得但第三十二條及ヒ第三十四條ノ適用ヲ妨ケス

民法第七百六十條ノ規定ハ民法施行前ニ家督相續人ノ債權者ト爲リタル者ニモ亦之ヲ適用ス

第六十五條　民法施行前ニ爲シタル婚姻又ハ養子緣組カ其當時ノ法律ニ依レハ無效ナルトキト雖モ民法ノ規定ニ依リ有效ナルヘキトキハ民法施行ノ日ヨリ有效トス

第六十六條　民法第七百六十七條第一項ノ期間ハ前婚カ民法施行前ニ解消シ又ハ取消サレタルトキト雖モ其解消又ハ取消ノ時ヨリ之ヲ起算ス

第六十七條　民法施行前ニ生シタル事實カ民法ニ依リ婚姻又ハ養子緣組ノ取消ノ原因タルヘキトキハ其婚姻又ハ養子緣組ハ之ヲ取消スコトヲ得但其事實カ既ニ民法ニ定メタル期間ヲ經過シタルモノナルトキハ此限ニ在ラス

第六十八條　民法施行前ニ爲シタル婚姻又ハ養子緣組ト雖モ其施行ノ日ヨリ民法ニ定メタル效力ヲ生ス

第六十九條　民法施行前ニ婚姻ヲ爲シタル者カ夫婦ノ財產ニ付キ別段ノ契約ヲ爲ササリシトキハ其財產關係ハ民法施行ノ日ヨリ法定財產制ニ依ル
民法施行前ニ生シタル事實カ民法ニ依リ離婚又ハ離緣ノ原因タルヘキトキハ夫婦ノ承繼人及ヒ第三者ニ對抗スルコトヲ得
婦又ハ養子緣組ノ當事者ノ一方ハ離婚又ハ離緣ノ訴ヲ提起スルコトヲ得第六十七條但書ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第七十條　民法施行前ニ生シタル事實カ民法ニ依リ法定財產制ニ異ナルトキハ民法施行ノ日ヨリ六箇月內ニ其登記ヲ爲スニ非サレハ之ヲ以テ夫婦ノ承繼人及ヒ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

第七十一條　嫡出ノ推定及ヒ否認ニ關スル民法ノ規定ハ民法施行前ニ懷胎シタル子ニモ亦

之ヲ適用ス

第七十二條　子ハ民法施行ノ日ヨリ民法ノ規定ニ從ヒテ父又ハ母ノ親權ニ服ス

第七十三條　裁判所ハ民法施行前ニ生シタル事實ニ據リテ親權又ハ管理權ノ喪失ヲ宣告スルコトヲ得

第七十四條　民法第九百條第一號ノ場合ニ於テ民法施行ノ際未成年者ノ後見人タル者アルトキハ其後見人ハ民法施行ノ日ヨリ民法ノ規定ニ從ヒテ其任務ヲ行フ

第七十五條　民法第九百條第一號ノ場合ニ於テ民法施行ノ際未成年者カ後見人ヲ有セサルトキハ民法ニ定メタル者其後見人ト爲ル

第七十六條　民法施行前ニ民法第七條又ハ第十一條ニ揭ケタル原因ノ爲メニ後見人ヲ附シタル者アル場合ニ於テ後見人其他民法第七條ニ揭ケタル者ノ請求ニ因リ禁治產ノ宣告アリタルトキハ後見人ハ其宣告ノ時ヨリ民法ノ規定ニ從ヒテ後見人ノ任務ヲ行ヒ準禁治產ノ宣告アリタルトキハ保佐人ノ任務ヲ行フ

第七十七條　民法施行前ニ未成年又ハ民法第七條若クハ第十一條ニ揭ケタル原因ニ非サル事由ノ爲メニ選任シタル後見人ノ任務ハ民法施行ノ日ヨリ終了ス

未成年者ノ後見人又ハ民法第七條若クハ第十一條ニ揭ケタル原因ノ爲メニ選任シタル後見人カ民法第九百八條ニ該當スルトキ亦同シ

第七十八條　民法第九百三十七條及ヒ第九百四十條乃至第九百四十二條ノ規定ハ前條ノ場合ニ之ヲ準用ス

民法第九百三十八條ノ規定ハ前條第二項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第七十九條　第七十四條又ハ第七十六條ノ規定ニ依リテ後見人ノ任務ヲ行フ者ハ後見監督

人ヲ選任セシムル爲メ遲滯ナク親族會ノ招集ヲ裁判所ニ請求スルコトヲ要ス若シ之ニ違反シタルトキハ親族會ハ其後見人ヲ免黜スルコトヲ得

第八十條　第七十四條又ハ第七十六條ノ規定ニ依リテ後見人ノ任務ヲ行フ者ハ遲滯ナク被後見人ノ財產ヲ調査シ其目錄ヲ調製スルコトヲ要ス

民法第九百十七條第二項、第三項、第九百十八條及ヒ第九百十九條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第八十一條　民法第九百二十四條及ヒ第九百二十七條ノ規定ハ後見人カ第七十四條又ハ第七十六條ノ規定ニ依リテ其任務ヲ行フ場合ニ之ヲ準用ス

第八十二條　民法第九百三十條ノ規定ハ後見人カ民法施行前ニ被後見人ノ財產又ハ被後見人ニ對スル第三者ノ權利ヲ讓受ケタル場合ニモ亦之ヲ適用ス

第八十三條　後見人カ民法施行前ヨリ被後見人ノ財產ヲ賃借セルトキハ後見監督人ヲ選任セシムル爲メ招集シタル親族會ノ同意ヲ求ムルコトヲ要ス若シ親族會カ同意ヲ爲ササリシトキハ賃貸借ハ其效力ヲ失フ

第六章　相續編ニ關スル規定

第八十四條　民法施行前ニ民法第九百六十條及ヒ第九百九十七條ニ揭ケタル行爲ヲ爲シタル者ト雖モ相續人タルコトヲ得ス

第八十五條　民法第九百七十四條及ヒ第九百九十五條ノ規定ハ相續人タルヘキ者カ民法施行前ニ死亡シ又ハ其相續權ヲ失ヒタル場合ニモ亦之ヲ適用ス

第八十六條　相續人廢除ノ原因タル事實カ民法施行前ニ生シタルトキト雖モ廢除ノ請求ヲ爲スコトヲ得

第八十七條　相續人廢除ノ取消ニ關スル民法ノ規定ハ其施行前ニ廢除シタル相續人ニモ亦之ヲ適用ス

第八十八條　家督相續人指定ノ取消ニ關スル民法ノ規定ハ其施行前ニ指定シタル家督相續人ニモ亦之ヲ適用ス

第八十九條　民法第九百八十九條ノ規定ハ民法施行前ニ前戶主ノ債權者ト爲リタル者ニモ亦之ヲ適用ス

第九十條　民法第千七條及ヒ第千八條ノ規定ハ民法施行前ニ爲シタル贈與ニモ亦之ヲ適用ス

第九十一條　相續ノ承認、拋棄及ヒ財產ノ分離ニ關スル民法ノ規定ハ其施行前ニ開始シタル相續ニハ之ヲ適用セス

第九十二條　相續ノ曠缺ノ場合ニ關スル民法ノ規定ハ其施行前ニ開始シタル相續ニ付テハ其施行ノ日ヨリ之ヲ適用ス

第九十三條　相續財產ノ管理人カ民法第千五十七條ノ規定ニ依リ爲スヘキ公告ハ裁判所カ同法第千五十八條ノ規定ニ依リ爲スヘキ公告ト同一ノ方法ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ要ス

第九十四條　遺言ノ成立及ヒ取消ニ付テハ其當時ノ法律ヲ適用シ其效力ニ付テハ遺言者ノ死亡ノ時ノ法律ヲ適用ス

第九十五條　民法第千百三十二條乃至第千百三十六條及ヒ第千百三十八條乃至第千百四十五條ノ規定ハ民法施行前ニ爲シタル贈與ニモ亦之ヲ適用ス

第二章　民法附屬法令

◎失火ノ責任ニ關スル件　明治三十二年三月法律第四十號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル失火ノ責任ニ關スル法律ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

民法第七百九條ノ規定ハ失火ノ場合ニハ之ヲ適用セス但シ失火者ニ重大ナル過失アリタルトキハ此限リニ在ラス

◎軍人軍屬ノ爲シタル遺言確認ニ關スル件　明治三十二年三月法律第四十三號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル民法第千七十九條及第千八十一條ノ規定ニ依ル遺言ノ確認ニ關スル法律ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

第一條　民法第千七十九條ノ規定ニ依リ軍人軍屬ノ爲シタル遺言ノ確認ハ左ノ區別ニ從ヒ之ヲ請求スヘシ

一　陸軍ニ在リテハ遺言當時遺言者ノ屬シタル陸軍官衙團隊ノ軍法會議ノ理事又ハ遺言ヲ爲シタル地ヲ管轄スル陸軍軍法會議ノ理事ニ請求スヘシ若其ノ軍法會議ノ設置ナク若クハ廢セラレタル場合ニ於テハ遺言者ノ住所地又ハ相續開始地ヲ管轄スル陸軍軍法會議ノ理事ニ請求スヘシ

二　海軍ニ在リテハ遺言當時遺言者ノ屬シタル海軍官衙團隊所在地又ハ其ノ附近ノ軍法會議ノ主理ニ請求スヘシ若遺言ヲ爲シタル者カ艦船乘込員ナル場合ニ於テハ便宜海軍法會議ノ主理ニ請求スヘシ

第二條　民法第千八十一條本文ノ場合ニ該當スル遺言ノ確認ハ便宜海軍軍法會議ノ主理ニ請求スヘシ

第三條　民事訴訟法裁判所職員ノ除斥證人鑑定ニ關スル規定非訟事件手續法第六條第八條第九條第十一條第十二條第十四條第十七條乃至第十九條第三十二條第百九條第百九條第二項ノ規定及民事訴訟費用法ノ規定ハ本法ノ事件ニ之ヲ準用シ其ノ規定中裁判所及判事ニ屬スル職務ハ理事又ハ主理之ヲ行ヒ書記ニ屬スル職務ハ錄事之ヲ行フ但シ上訴ニ關スル規定ハ準用ノ限ニ在ラス

◉救育所ニ在ル孤兒ノ後見職務ニ關スル法律

明治三十三年三月法律第五十一號

朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル救育所ニ在ル孤兒ノ後見職務ニ關スル法律ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

第一條　公設ノ救育所ニ在ル未成年ノ孤兒ニ付テハ其ノ所長後見人ノ職務ヲ行フ私設ノ救育所ニ在ル未成年ノ孤兒ニ付テハ其ノ救育所所在地ノ地方長官ニ於テ後見人ノ職務ヲ行フヘキ者ヲ規定ス

第二條　前條ニ依ル後見人ノ職務執行ニ關シテハ勅令ヲ以テ別段ノ規定ヲ設クルコトヲ得

第三條　救育所ニ在ル未成年者ニシテ孤兒ニ非サル者ト雖本法ノ規定ヲ準用スヘキモノハ主務大臣之ヲ定ム

本法ハ明治三十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

◉救育所ニ在ル孤兒ノ後見職務執行ニ關スル特例ノ件

明治三十三年四月勅令第百四十四號

朕救育所ニ在ル孤兒ノ後見職務執行ニ關スル特例ノ件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

第一條　救育所ニ在ル孤兒ニ關シ後見人ノ職務ヲ行フ者カ其ノ職務ヲ執行スルニ當リ親族會ノ同意ヲ要スル事項ハ公設ノ救育所ニ在リテハ之ヲ設立セル公共團體ノ行政廳私設ノ救育所ニ在リテハ其ノ救育所所在地ノ市町村長ノ許可ヲ受クルコトヲ要ス

第二條　後見人ノ職務執行ニ關シ後見監督人及親族會ニ屬スル職務權限ハ公設ノ救育所ニ在ル孤兒ノ後見ニ付テハ其ノ救育所ヲ設立セル公共團體ノ行政廳、私設ノ救育所ニ在ル孤兒ニ付テハ其ノ救育所所在地ノ市町村長ニ屬ス

第三條　主務大臣又ハ地方長官ハ孤兒ノ後見職務ニ關シ監督上必要ナル命令ヲ發スルコトヲ得

第四條　孤兒ニ非スシテ救育所ニ在ル未成年者ニ對シ後見人ノ職務ヲ行フヘキ場合ニ於テ其ノ者ノ父母ノ所在分明ナルトキハ身分ニ關スル事件ニ限リ其ノ父母ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス

第五條　本令ニ規定スル市町村長ノ職務ハ市制町村制ヲ施行セサル地ニ於テハ之ニ準スヘキ者之ヲ行フ

◉社團又ハ財團ニシテ民法第三十四條ニ依リ之ヲ法人ト爲スニ付司法大臣ノ許可ヲ要スル件

明治三十三年八月司法省令第三十二號

第一條　社團又ハ財團ニシテ民法第三十四條ニ依リ之ヲ法人ト爲スニ付司法大臣ノ認可ヲ要スルモノハ主タル事務所所在地ノ地方長官ヲ經由シ其ノ申請書二通ヲ差出スヘシ其ノ許可ヲ得テ設立シタル法人及民法施行法第十九條ノ法人ニ於テ司法大臣ノ認可ヲ要スル場合亦同シ

第二條　前條ノ法人ヨリ司法大臣ニ差出スヘキ願届書ハ主タル事務所所在地ノ地方長官ヲ經由スヘシ

◉社團又ハ財團ニシテ民法第三十四條ニ依リ之ヲ法人ト爲スニ付内務大臣ノ許可ヲ要スル件

明治三十二年四月内務省令第十號

第一條　社團又ハ財團ニシテ民法第三十四條ニ依リ之ヲ法人ト爲スニ付内務大臣ノ許可ヲ要スルモノハ主タル事務所所在地ノ地方長官ヲ經由シ其ノ申請書二通ヲ差出スヘシ其ノ許可ヲ得テ設立シタル法人及民法施行法第十九條ノ法人ニ於テ内務大臣ノ許可ヲ要スル場合亦同シ

第二條　前條ノ法人ヨリ内務大臣ニ差出スヘキ願届書ハ主タル事務所所在地ノ地方長官ヲ經由スヘシ

◉相續人曠缺ノ場合ニ於テ國庫ニ歸屬シタル財產引渡ニ關スル件

明治三十三年十二月勅令第四百九號

朕相續人曠缺ノ場合ニ於テ國庫ニ歸屬シタル財產ノ引渡ニ關スル件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

相續人曠缺ノ爲國庫ニ歸屬シタル財產ハ管理人ヨリ遞滯ナク被相續人ノ住所ヲ管轄スル地方行政官廳ニ引渡スヘシ但シ外國ニ在テハ領事又ハ貿易事務官ニ引渡スヘシ

◉宣教又ハ儀式執行ヲ目的トスル法人ノ設立等ニ關スル規程

明治三十三年八月内務省令第三十九號

宗教ノ宣布又ハ宗教上ノ儀式執行ヲ目的トスル法人ノ設立等ニ關スル規程ヲ定ムルコト左ノ如シ

第一條　宗教ノ宣布又ハ宗教上ノ儀式執行ヲ目的トスル社團又ハ財團ヲ法人ト爲サムトスルトキハ設立者ハ定款ヘハ寄附行爲ノ外左ノ事項ヲ記載シタル書面ヲ差出スヘシ

一　宗教ノ名稱及所屬教派宗派ノ名稱
二　儀式及布教ノ方法
三　布教者ノ資格及選定方法
四　信徒ト法人ノ關係
五　信徒及社員タルヘキ者ノ員數
六　宗教ノ用ニ供スル堂宇、教會所、會堂、說教所又ハ講義所ノ類ヲ備フルモノニ在テハ

ハ其名稱、所在地及設立許可ノ年月日

第二條　前條ノ法人カ前條第一項第一號又ハ第四號ノ事項ヲ變更シタルトキハ直ニ届出ツヘシ

第三條　第一條ノ法人カ第一條第一項第二號又ハ第三號ノ事項ヲ變更セムトスルトキハ認可ヲ受クヘシ

前項ノ規定ニ違背シタルトキハ民法第七十一條ニ依リ其設立ノ許可ヲ取消スコトアルヘシ

第四條　本令ニ依リ書面ヲ差出ス場合ニ於テ神佛道ノ教派又ハ宗派ニ屬スルモノニアリテハ凡テ管長ノ添書ヲ付スヘシ

◎法人ノ設立及監督ニ關スル規程

明治三十二年八月文部省令第三十九號

文部大臣ノ主管ニ屬スル法人ノ設立及監督ニ關スル規程ヲ定ムルコト左ノ如シ

第一條　民法第三十四條ニ依リ文部大臣ノ許可ヲ得テ社團又ハ財團ヲ法人ト爲サムトスルトキハ其ノ設立者ニ於テ社團ニ在リテハ定款、資產ノ總額及社員ノ員數、財團ニ在リテハ寄附行爲及資產ノ總額ヲ具シ申請書ヲ文部大臣ニ差出スヘシ

第二條　法人ノ設立者及法人ヨリ文部大臣ニ差出スヘキ書類ハ總テ其ノ主タル事務所所在地ノ地方長官ヲ經由スヘシ

地方長官ニ於テ前項ノ書類ヲ受ケタルトキハ詳査ノ上意見ヲ附シテ進達スヘシ

第三條　法人ハ其ノ設立ノ許可若ハ民法施行法第十九條ノ認可ヲ得タルトキハ左ニ掲クル

事項ヲ遅滞ナク地方長官ニ報告スヘシ其ノ第一號及第二號ノ事項中ニ變更ヲ生シタル場合亦同シ

一　定款又ハ寄附行爲

二　理事及監事ノ氏名、住所

三　財産目錄及社團法人ニ在リテハ社員ノ員數

第四條　敎育會ヲ除ク外法人ハ毎年三月末ノ調査ニ依リ翌月中ニ財産目錄ヲ添付シ左ニ揭クル事項ヲ文部大臣ニ報告スヘシ但特ニ事業年度ヲ設クルモノハ年度末ノ調査ニ依リ其ノ年度ノ終ヨリ三十日以內ニ之ヲ報告スヘシ

一　法人ノ目的タル事業ノ狀況

二　前年中ノ處務ノ要件

三　前年ノ經費、收入支出金額及其ノ外社員ノ員數ヲ報告スヘシ

社團法人ハ前項ニ揭ケタル事項ノ外社員ノ員數及第二號ノ事項ハ之ヲ報告スルヲ要セス

法人タル學校ニ於テハ第一項第一號及第二號ノ事項ハ之ヲ報告スルヲ要セス

第五條　（削除）

第六條　（削除）

第七條　地方長官ハ法人ニ於テ民法第七十一條又ハ民法施行法第二十三條ニ該當スル行爲アリト認メタルトキハ其ノ事由ヲ詳具シテ文部大臣ニ報告スヘシ

附　則

第八條　本令施行前設立ノ許可若ハ民法施行法第十九條ノ認可ヲ得タル法人ハ本令施行ノ日ヨリ三十日以內ニ第三條ノ事項ヲ地方長官ニ報告スヘシ

◎地上權ニ關スル法律　明治三十三年三月法律第七十二號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル地上權ニ關スル法律ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

第一條　本法施行前他人ノ土地ニ於テ工作物又ハ竹木ヲ所有スル爲其ノ土地ヲ使用スル外ハ地上權者ト推定ス

第二條　第一條ノ地上權者ハ本法施行ノ日ヨリ一箇年內ニ登記ヲ爲スニ非サレハ之ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

前項ノ規定ハ本法施行前ニ善意ニテ取得シタル第三者ノ權利ヲ害スルコトナシ

◎永代借地權ニ關スル法律　明治三十四年九月法律第三十九號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル永代借地權ニ關スル法律ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

第一條　政府ノ永代借地券ヲ以テ外國人又ハ外國法人ノ爲ニ設定シタル永代借地權ハ之ヲ物權トシ民法中所有權ニ關スル規定ヲ準用ス

永代借地權ハ民法ノ規定ニ從ヒ他ノ權利ノ目的タルコトヲ得

地券ニ關スル法令ニ別段ノ定メアル場合ニハ前二項ノ規定ヲ適用セス

第二條　永代借地權ノ設定アリタルトキハ其ノ土地ノ所在地ヲ管轄スル地方廳ニ於テ地券ニ其ノ旨ヲ記載スルニ非サレハ之ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

第三條　永代借地權又ハ之ヲ目的トスル權利ニ關スル登記ニ付テハ登錄稅ヲ課セス

第四條　永代借地權又ハ之ヲ目的トスル權利ニ關スル登記及永代借地ノ上ニ存スル建物ニ關スル登記ニ付テハ勅令ヲ以テ別段ノ規定ヲ設クルコトヲ得

附則

第五條　本法ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第六條　民法施行法第四十五條ノ規定ハ本法施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

第七條　永代借地權又ハ之ヲ目的トスル權利ヲ本法施行前ニ地上權又ハ之ヲ目的トスル權利トシテ登記セラレタルモノハ永代借地權又ハ之ヲ目的トスル權利トシテ登記セラレタルモノト同一ノ效力ヲ有ス

（參照）

參照法律第十一號民法施行法（明治三十一年六月二十一日官報）抄錄

第四十五條　外國人又ハ外國法人ノ爲メニ設定シタル地上權ニハ條約又ハ命令ニ別段ノ定ナキ場合ニ限リ民法ノ規定ヲ適用ス

◉永代借地權ニ關スル件　明治三十四年九月勅令第百七十八號

朕永代借地權ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條　永代借地ノ所在地ヲ管轄スル地方廳ニ於テ永代借地權ノ移轉ヲ地券ニ記載スルコトノ申請ヲ受ケタルトキ又ハ永代借地權ニ關スル屆出ヲ受ケタルトキハ遲滯ナク其ノ永代借地ノ所在地ヲ管轄スル登記所ニ其ノ旨ヲ通知スヘシ

永代借地權ノ移轉ニ關スル通知ヲ爲ス場合ニ於テハ其ノ通知書ニ永代借地券ノ謄本ヲ添附スヘシ但シ既ニ通知ヲ爲シタル永代借地ニ關シ更ニ通知ヲ爲ス場合ニ於テハ地券ノ謄本ヲ添附スルコトヲ要セス此ノ場合ニ於テハ通知書ニ永代借地ノ表示、當事者ノ氏名、國籍、住所、權利移轉ノ原因及其ノ年月日ヲ記載スヘシ

第二條　永代借地及永代借地ノ上ニ存スル建物ノ登記ニ付テハ特別ノ登記簿ヲ設ケ之ヲ登記所ニ備フヘシ

第三條　登記簿ハ永代借地登記簿及永代借地建物登記簿ノ二種トス

第四條　永代借地登記簿ハ其ノ一用紙ヲ登記番號欄、表題部及甲乙丙丁戊ノ五區ニ分チ尚表題部ニ表示欄、表示番號欄ヲ設ケ各區ニ事項欄、順位番號欄ヲ設ク

永代借地建物登記簿ハ其ノ一用紙ヲ登記番號欄、表題部及甲乙丙丁戊ノ五區ニ分チ尚登記番號欄ニハ各永代借地ニ付登記簿ニ始メテ登記ヲ爲シタル順序ヲ記載ス

表示欄ニハ永代借地ノ表示ヲ爲シ及其ノ變更ニ關スル事項ヲ記載シ表示番號欄ニハ表示欄ニ登記事項ヲ記載シタル順序ヲ記載ス

甲區事項欄ニハ永代借地權ニ關スル事項ヲ記載ス

乙區事項欄ニハ地上欄、永小作欄及此等ノ權利ヲ目的トスル他ノ權利ニ關スル事項ヲ記載ス

丙區事項欄ニハ地役權ニ關スル事項ヲ記載ス

丁區事項欄ニハ先取特權、質權及抵當權ニ關スル事項ヲ記載ス

戊區事項欄ニハ賃借權ニ關スル事項ヲ記載ス

順位番號欄ニハ事項欄ニ登記事項ヲ記載シタル順序ヲ記載ス

第五條　永代借地建物登記簿ハ其ノ一用紙ヲ登記番號欄、表題部及甲乙丙丁ノ四區ニ分チ尚表題部ニ表示欄、表示番號欄ヲ設ケ各區ニ事項欄、順位番號欄ヲ設ク

登記番號欄ニハ各建物ニ付登記簿ニ始メテ登記ヲ爲シタル順序ヲ記載ス

表示欄ニハ建物及附屬建物ノ表示ヲ爲シ及其ノ變更ニ關スル事項ヲ記載シ表示欄ニ登記

事項ヲ記載シタル順序ヲ記載ス

甲區事項欄ニハ所有權ニ關スル事項ヲ記載ス

乙區事項欄ニハ地役權ニ關スル事項ヲ記載ス

丙區事項欄ニハ先取特權、質權及抵當權ニ關スル事項ヲ記載ス

丁區事項欄ニハ賃借權ニ關スル事項ヲ記載ス

順位番號欄ニハ事項欄ニ登記事項ヲ記載シタル順序ヲ記載ス

第六條　未登記ノ永代借地權ヲ目的トスル權利ノ登記ヲ申請スル場合ニ於テハ申請書ニ永代借地權ヲ證スルニ足ルヘキ書面ヲ添附スヘシ

第七條　登記官ニ於テ永代借地權ノ移轉ニ關スル既登記ナルトヲ問ハス職權ヲ以テ永代借地權ニ關スル屆出ノ通知ヲ受ケタル場合ニ於テ登記ニ變更ヲ生スヘキトキハ職權ヲ以テ變更ノ登記ヲ爲スヘシ

既登記ノ永代借地權ニ關スル屆出ノ通知ヲ受ケタルトキハ其ノ永代借地權ノ未登記ナルトヲ問ハス職權ヲ以テ永代借地權ノ移轉ノ登記ヲ爲スヘシ

永代借地權ヲ目的トスル權利ニ付登記ノ申請アリタルトキハ職權ヲ以テ永代借地權ノ登記ヲ爲スヘシ

第八條　明治三十二年勅令第二百五十一號ヲ以テ定メタル期日前ニ永代借地及永代借地ノ上ニ存スル建物ニ關シ外國領事館ニ於テ爲シタル登記ハ領事館ヨリ登記簿又ハ其ノ謄本ヲ登記所ニ引渡シタルモノニ限リ本令ニ依リテ爲シタル登記ト同一ノ效力ヲ有ス

第九條　明治三十二年勅令第三百二十九號ニ依リ登記セラレタル不動產ニ付本令施行ノ後登記ヲ爲ス場合ニ於テハ本令ニ依リテ備ヘタル登記簿ノ用紙中登記番號欄ニ其ノ登記簿ニ於ケル登記ノ順序ヲ追ヒテ新ナル番號ヲ記載シ其ノ左側ニ前登記番號ヲ記載シ表示欄

ニ不動産ノ表示ヲ移シ相當順位番號欄及事項欄ニ舊登記簿ノ用紙ニ爲シタル登記ヲ移シ舊登記簿ノ用紙ヲ閉鎖スヘシ

前項ノ規定ハ外國領事館ニ於テ登記セラレタル不動産ニ付本令施行ノ後登記ヲ爲ス場合ニ之ヲ準用ス

第十條　永代借地權ハ他ノ名柵ニテ登記セラレタルモノト雖前條ノ規定ニ依リ登記ヲ移ス場合ニ於テハ之ヲ永代借地權ト記載スヘシ

第十一條　永代借地權又ハ永代借地ノ上ニ存スル建物ノ所有權ヲ目的トスル權利ニ付登記ヲ爲ス場合ニ於テ登記スヘキ　利第四條又ハ第五條ノ規定ニ適合セサルトキハ登記用紙ノ各區中其ノ權利ト最モ類似スル權利ヲ登記スヘキ區ニ其ノ登記ヲ爲スヘシ

第十二條　本令ニ規定セサル事項ニ付テハ不動産登記法ノ規定ヲ準用ス

附　則

第十三條　本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第十四條　明治三十二年勅令第三百二十九號ハ之ヲ廢止ス

（參照）

明治三十二年七月七日官報勅令第三百二十九號ハ外國人又ハ外國法人ノ權利ノ目的タル不動產ニ關スル件ナリ

◉政府ノ永代借地券ヲ以テ外國人又ハ外國法人ノタメニ設定シタル永代借地權ヲ取得シタル場合ニ關スル件

明治三十四年九月勅令第百七十九號

朕帝國ノ臣民又ハ法人ニ於テ政府ノ永代借地權ヲ取得シタル場合ニ關スル件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

第一條　帝國ノ臣民又ハ法人カ政府ノ永代借地券ヲ以テ外國人又ハ外國法人ノ爲ニ設定シタル永代借地權ヲ取得シタルトキハ遲滯ナク其ノ土地所在地ヲ管轄スル地方廳ニ永代借地券ヲ提出シテ抹消ヲ受クヘシ

前項ニ依リ永代借地券ノ抹消ヲ受クタルトキハ帝國ノ臣民又ハ法人ハ其ノ土地ノ所有權ヲ取得ス

第二條　帝國ノ臣民又ハ法人カ前條第一項ノ規定ニ依リ永代借地券ノ抹消ヲ受クタルトキハ地方廳ハ其ノ土地所在地ヲ管轄スル登記所ニ其ノ旨ヲ通知スヘシ

第三條　第一條ノ場合ニ於テ永代借地權ヲ目的トシタル權利ヲ有スル第三者アルトキハ其ノ權利ヲ目的トシテ存續ス

附　則

第四條　本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第五條　明治三十二年勅令第三百三十三號ハ之ヲ廢止ス

第六條　政府ノ永代借地券ヲ以テ外國人又ハ外國法人ノ爲ニ設定シタル永代借地權ニシテ本令施行前帝國法人ノ取得シタルモノハ其ノ土地ニ付既ニ所有權ノ登記アリタル場合ヲ除キ永代借地權トシテ存續ス但シ第一條ニ依リ所有權ヲ取得スルコトヲ妨ケス

（參照）

明治三十二年（七月八日官報）勅令第三百三十三號ハ帝國ノ臣民又ハ法人ニ於テ外國人又ハ外國法人ノ爲ニ永久存續ノ意思ヲ以テ設定シタル地上權又ハ永借權ヲ取得シタル場合

ニ關スル件ナリ

◉政府ノ永代借地權ヲ以テ外國人又ハ外國法人ノタメニ設定シタル永代借地權ヲ取得シ又ハ其土地所有權ヲ取得シタルトキ通知ノ件

明治三十四年九月　內務省令第二十四號

政府ノ永代借地券ヲ以テ外國人又ハ外國法人ノタメニ設定シタル永代借地權ヲ取得シタル帝國ノ臣民又ハ法人明治三十四年勅令第百七十九號第一條ニ依リ地券ノ拔消ヲ受ケ其ノ土地ノ所有權ヲ取シタルトキハ地方廳ハ速滯ナク其ノ土地所在地ヲ管轄スル稅務署ニ其ノ旨ヲ通知ス可シ

第二編　非訟事件

◉非訴訟事件手續法　明治三十一年六月法律第十四號

（沿革）三十二年法律五一號ヲ以テ第三十七條改正第八十三條ノ次ニ一條加ヘ第百二十一條第百二十六條改正第百二十九條ノ次ニ一條加ヘ第百三十一條第百三十五條改正第百三十五條ノ次ニ二條ヲ加ヘ第百三十六條第百五十七條第百五十九條第百六十一條第百六十二條第百八十七條第百八十八條改正第百九十四條ノ次ニ四條ヲ加ヘ第百九十八條改正第二百九條改正第二百一條追加二百五條削除第二百六條第二百七條第二百八條改正第二百九條ノ次ニ一條追加

朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル非訟事件手續法ヲ裁可シ並ニ之ヲ公布セシム

非訟事件手續法

第一編　總則

第二編　民事非訟事件

第一章　法人ニ關スル事件

第二章　財產ノ管理ニ關スル事件

第三章　裁判上ノ代位ニ關スル事件

第四章　保存、供託、保管及ヒ鑑定ニ關スル事件

第五章　隱居、廢家、子ノ懲戒、家督相續人及ヒ親族會ニ關スル事件

第六章　相續ノ承認及ヒ拋棄ニ關スル事件

第七章　遺言ノ確認及ヒ執行

第八章　法人及ヒ夫婦財產契約ノ登記

第三編　商事非訟事件
第一章　會社及ヒ競賣ニ關スル事件
第二章　會社ノ清算人ノ選任及ヒ解任
第三章　商業登記
第一節　通則
第二節　商號ノ登記
第三節　未成年者、妻及ヒ後見人ノ登記
第四節　支配人及ヒ會社ノ清算人ノ登記
第五節　合名會社及ヒ合資會社ノ登記
第六節　株式會社ノ登記
第七節　株式合資會社ノ登記
第八節　外國會社ノ登記
附　則
非訟事件手續法
第一編　總則

第一條　裁判所ノ管轄ニ屬スル非訟事件ニ付テハ本法其他ノ法令ニ別段ノ定アル場合ヲ除ク外本編ノ規定ヲ適用ス

第二條　裁判所ノ土地ヲ管轄カ住所ニ依リテ定マル場合ニ於テ日本ニ住所ヲ有セサルトキ又ハ日本ノ住所ノ知レサルトキハ居所ニ依リテ定マル場合ニ於テ日本ニ住所モ居所モ有セサルトキ又ハ最後ノ住所地ノ裁判所ヲ以テ管轄裁判所トス

最後ノ住所ヲ有セサリシトキ又ハ其住所ノ知レサルトキハ財産ノ所在地又ハ司法大臣ノ指定シタル地ノ裁判所ヲ以テ管轄裁判所トス相續開始地ノ裁判所カ管轄裁判所ヲ定ムル場合ニ於テモ亦同シ

第三條　數箇ノ管轄裁判所アル場合ニ於テハ最初事件ノ申立ヲ受ケタル裁判所其事件ヲ管轄ス

第四條　管轄裁判所ノ指定ハ裁判所構成法第十條第一號ニ掲ケタル場合ノ外數箇ノ裁判所ノ土地ヲ管轄ニ付キ疑アルトキ之ヲ爲ス

民事訴訟法第二十八條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第五條　裁判所職員ノ除斥ニ關スル民事訴訟法ノ規定ハ非訟事件ニ之ヲ準用ス

第六條　事件ノ關係人ハ訴訟能力者ナシテ代理セシムルコトヲ得但自身出頭ヲ命セラレタルトキハ此限ニ在ラス

裁判所ハ辯護士ニ非スシテ代理ヲ營業トスル者ニ退席ヲ命スルコトヲ得此命令ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス

第七條　民事訴訟法第六十四條ノ規定ハ前條第一項ノ場合ニ之ヲ準用ス但裁判所ハ職權ヲ以テ私署證書ニ認證ヲ受クヘキ旨ヲ命スルコトヲ得ス

第八條　申立及ヒ陳述ハ書面又ハ口頭ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得

民事訴訟法第百三十五條ノ規定ハ口頭ノ申立及ヒ陳述ニ之ヲ準用ス

第九條　申立ニハ左ノ事項ヲ記載シ申立人又ハ代理人之ニ署名捺印スヘシ

一　申立人ノ氏名住所

二　代理人ニ依リテ申立ヲ爲ストキハ其氏名、住所
三　申立ノ趣旨及ヒ其原因タル事實
四　年月日
五　裁判所ノ表示

證據書類アルトキハ其原本又ハ謄本ヲ添附スヘシ

第十條　期日、期間、疏明ノ方法、人證及ヒ鑑定ニ關スル民事訴訟法ノ規定ハ非訟事件ニ之ヲ準用ス

第十一條　裁判所ハ職權ヲ以テ事實ノ探知及ヒ必要ト認ムル證據調ヲ爲スヘシ

第十二條　事實ノ探知、呼出、告知及ヒ裁判ノ執行ニ關スル行爲ハ之ヲ囑託スルコトヲ得

第十三條　審問ハ之ヲ公行セス但裁判所ハ相當ト認ムル者ニ傍聽ヲ許スコトヲ得

第十四條　證人又ハ鑑定人ノ訊問ニ付テハ調書ヲ作ラシメ其他ノ審問ニ付テハ必要ト認ムル場合ニ限リ之ヲ作ラシムヘシ

第十五條　檢事ハ事件ニ付キ意見ヲ述ヘ審問ヲ爲ス場合ニ於テハ之ニ立會フコトヲ得事件及ヒ審問期日ハ檢事ニ之ヲ通知スヘシ

第十六條　裁判所其他ノ官廳、檢事及ヒ公吏ハ其職務上檢事ノ請求ニ因リテ裁判ヲ爲スヘキ場合カ生シタルコトヲ知リタルトキハ之ヲ管轄裁判所ノ檢事ニ通知スヘシ

第十七條　裁判ハ決定ヲ以テ之ヲ爲ス

裁判ノ原本ニハ判事署名、捺印スヘシ但申立書又ハ調書ニ裁判ヲ記載シ判事之ニ署名、捺印シテ原本ニ代フルコトヲ得

裁判ノ正本及ヒ謄本ニハ書記署名、捺印ヲ以テ正本ニハ裁判所ノ印ヲ押捺スヘシ

第十八條　裁判ハ之ヲ受ケタル者ハ告知スルニ因リテ其效力ヲ生ス

裁判ノ告知ハ裁判所ノ相當ト認ムル方法ニ依リテ之ヲ爲ス

告知ノ方法、場所及ヒ年月日ハ之ヲ裁判ノ原本ニ記入スヘシ

第十九條　裁判所ハ裁判ヲ爲シタル後其裁判ヲ不當ト認ムルトキハ之ヲ取消シ又ハ變更スルコトヲ得

申立ニ因リテノミ裁判ヲ爲スヘキ場合ニ於テ申立ヲ却下シタル裁判ハ申立ニ因ルニ非サレハ之ヲ取消シ又ハ變更スルコトヲ得

即時抗告ヲ以テ不服ヲ申立ツルコトヲ得

第二十條　裁判ニ因リテ權利ヲ害セラレタリトスル者ハ其裁判ニ對シテ抗告ヲ爲スコトヲ得

申立ニ因リテノミ裁判ヲ爲スヘキ場合ニ於テ申立ヲ却下シタル裁判ニ對シテハ申立人ニ限リ抗告ヲ爲スコトヲ得

第二十一條　抗告ハ特ニ定メタル場合ヲ除ク外執行停止ノ效力ヲ有セス

第二十二條　即時抗告ノ期間ハ裁判ノ告知ノ日ヨリ之ヲ起算ス

民事訴訟法第百七十四號乃至第百七十六條ノ規定ハ即時抗告ノ期間ニ倘怠シタル場合ニ之ヲ準用ス

第二十三條　抗告裁判所ノ裁判ニハ理由ヲ附スルコトヲ要ス

第二十四條　抗告裁判所ノ裁判ニ對シテハ法律ニ違背シタル裁判ナルコトヲ理由トスルトキニ限リ抗告ヲ爲スコトヲ得

民事訴訟法第四百三十六條及ヒ第四百五十三條ノ規定ハ前項ノ抗告ニ

之ヲ準用ス

第二十五條　抗告ニ付前五條ニ定メタルモノヲ除ク外民事訴訟法ノ抗告ニ關スル規定ヲ準用ス

第二十六條　裁判前ノ手續及ヒ裁判ノ告知ノ費用ハ特ニ其負擔者ヲ定メタル場合ヲ除ク外事件ノ申立人ノ負擔トス

但檢事カ申立ヲ爲シタル場合ニ於テハ國庫ノ負擔トス

第二十七條　裁判所ハ前條ノ費用ニ付キ裁判ヲ爲スコトヲ必要ト認ムルトキハ其額ヲ確定シテ事件ノ裁判ト共ニ之ヲ爲スヘシ

第二十八條　裁判所ハ特別ノ事情アルトキハ本法ノ規定ニ依リテ費用ヲ負擔スヘキ者ニ非サル關係人ニ費用ノ全部又ハ一部ノ負擔ヲ命スルコトヲ得

第二十九條　民事訴訟法第八十條第一項ノ規定ハ共同ニテ費用ヲ負擔スヘキ者數人アル場合ニ之ヲ準用ス

第三十條　費用ノ裁判ニ對シテハ其負擔ヲ命セラレタル者ニ限リ不服ヲ申立ツルコトヲ得

民事訴訟法第八十二條第一項ノ規定ハ前項ノ申立ニ之ヲ準用ス

第三十一條　費用ノ債權者ハ費用ノ裁判ニ基キテ強制執行ヲ爲スコトヲ得

民事訴訟法第六編ノ規定ハ前項ノ強制執行ニ之ヲ準用ス但執行ヲ爲ス前裁判ヲ送達スルコトヲ要セス

費用ノ裁判ニ對スル抗告アリタルトキハ民事訴訟法第五百條ノ規定ヲ準用ス

第三十二條　職權ヲ以テ爲ス探知、證據調、呼出、告知其他必要ナル處分ノ費用ハ國庫ニ於テ之ヲ立替フヘシ

第三十三條　本編ニ於ケル申立トハ申立申請及ヒ申述ヲ謂フ

第二編　民事非訟事件

第一章　法人ニ關スル事件

第三十四條　民法第四十條ニ定メタル事件ハ法人ノ設立者カ死亡ノ時ニ有シタル住所地ノ區裁判所ノ管轄トス

法人ノ設立者カ日本ニ住所ヲ有セサリシトキ又ハ其住所カ知レサルトキハ其死亡ノ時ノ居所地又ハ法人設立地ノ區裁判所ノ管轄トス

第三十五條　假理事又ハ特別代理人ノ選任ハ主タル事務所所在地ノ區裁判所ノ管轄トス

第三十六條　裁判所ハ特ニ選任シタル者ヲシテ法人ノ監督ニ必要ナル檢査ヲ爲サシムルコトヲ得

第三十七條　第百三十六條乃至第百三十八條及ヒ第百七十五條乃至第百七十七條ノ規定ハ法人ノ清算人ニ之ヲ準用ス

第二章　財產ノ管理ニ關スル事件

第三十八條　不在者ノ財產ノ管理ニ關スル事件ハ其住所地ノ區裁判所ノ管轄トス

第三十九條　裁判所ハ管理人ヲ選任シ又ハ改任スヘキ場合ニ於テハ利害關係人ノ意見ヲ聽クコトヲ得

第四十條　裁判所ハ何時ニテモ其選任シタル管理人ヲ改任スルコトヲ得此裁判ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス

管理人ハ其任務ヲ辭セントスルトキハ裁判所ニ其旨ヲ屆出ツヘシ此場合ニ於テハ裁判所

ハ更ニ管理人ヲ選任スヘシ

第四十一條　裁判所ハ其選任シタル管理人ニ財産ノ狀況ヲ報告シ且管理ノ計算ヲ爲スヘキ旨ヲ命スルコトヲ得

民法第二十七條第二項ノ場合ニ於テハ裁判所ハ不在者カ置キタル管理人ニモ前項ノ手續ヲ命スルコトヲ得

前二項ノ命令ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス

第四十二條　利害關係人ハ前條ノ報告及ヒ計算ニ關スル書類ノ閱覽ヲ申請シ又ハ手數料ヲ納付シテ其謄本ノ交付ヲ申請スルコトヲ得

檢事ハ前項ノ書類ヲ閱覽スルコトヲ得

第四十三條　民法第六百四十四條、第六百四十六條、第六百四十七條及ヒ第六百五十條ノ規定ハ裁判所カ選任シタル管理人ニ之ヲ準用ス

第四十四條　裁判所ハ管理人ヲシテ擔保ヲ供セシメタル後其增減變更又ハ免除ヲ命スルコトヲ得

第四十五條　裁判所ハ管理人ノ不動產又ハ船舶ノ上ニ抵當權ヲ設定スヘキコトヲ命シタルトキハ其設定ノ登記ヲ囑託スルコトヲ得

前項ノ囑託ニハ抵當權ノ設定ヲ命シタル裁判ノ謄本ヲ添附スヘシ

前二項ノ規定ハ設定シタル抵當權ノ變更又ハ消滅ノ登記ニ之ヲ準用ス

第四十七條　裁判所カ財產ノ封印ヲ命シタル場合ニ於テハ管轄區裁判所之ヲ爲ス

利害關係人、管理人及ヒ檢事ハ封印ノ手續ニ立會フコトヲ得

第四十七條　左ニ掲ケタル物ニハ封印ヲ爲スヘカラス

一　日用品

二　封印ヲ爲スニ適セサル物

三　第三者ノ占有ニ屬スル物但其提出ヲ拒マサルトキハ此限ニ在ラス

第四十八條　封印ニハ判事ノ職印ヲ用ユヘシ

民事訴訟法第五百三十六條ノ規定ハ封印ノ手續ニ之ヲ準用ス

第四十九條　裁判所ハ封印ヲ爲シタルトキハ財產ノ保管者ヲ選任スヘシ

第四十條、民法第六百五十八條第一項、第六百五十九號乃至第六百六十一條及ヒ第六百六十四條ノ規定ハ裁判所カ選任シタル保管者ニ之ヲ準用ス但民法第六百六十條ノ通知ハ之ヲ檢事ニ爲スコトヲ要ス

第五十條　封印ヲ爲シタルトキハ書記ハ直チニ調書ヲ作ルヘシ

調書ニハ左ノ事項ヲ記載シ判事、書記及ヒ立會人之ニ署名、捺印スヘシ

一　封印ヲ命シタル裁判ノ表示

二　封印ノ手續ヲ爲シタル場所、年月日及ヒ其事由

三　申立人ノ氏名、住所

四　封印ヲ爲シタル物件、家屋又ハ倉庫

五　封印ヲ爲ササリシ物件ノ概略及ヒ其事由

調書ハ二通ヲ作リ其一通ハ之ヲ裁判所ニ保存シ其一通ハ之ヲ保管者ニ交付シテ受領證ヲ取置クヘシ

第五十一條　裁判所ハ利害關係人、管理人又ハ檢事ノ請求ニ因リ民法第二十五條第二項及ヒ本法第五十九條以外ノ場合ニ於テモ封印ノ除去ヲ命スルコトヲ得

第四十六條、第五十條第一項及ヒ民事訴訟法第五百三十六條ノ規定ハ封印ノ除去ニ之ヲ準用ス

保管者ハ封印ノ除去ニ立會フコトヲ得

第五十二條　裁判所ハ豫メ封印ヲ除去スヘキ期日ヲ定メ申立人、利害關係人、保管者、管理人及ヒ檢事ニ之ヲ告知スヘシ

利害關係人、管理人及ヒ檢事ハ前項ノ期日前ニ裁判所ニ異議ヲ申立ツルコトヲ得但民法第二十五條第二項及ヒ本法第五十九條ノ場合ハ此限ニ在ラス

異議ノ裁判ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス

第五十三條　異議ノ申立アリタルトキハ其申立ノ取下又ハ却下ノ後ニ非サレハ封印ヲ除去スルコトヲ得ス

封印ヲ除去シタルトキハ直チニ書記又ハ公證人ヲシテ財産ノ目錄ヲ調製セシムヘシ但民法第二十五條第二項及ヒ本法第五十九條ノ場合ニ於テ立會人カ之ヲ調製セサルコトニ同意シタルトキハ此限ニ在ラス

第五十四條　封印ノ除去ノ調書ニハ左ノ事項ヲ記載シ判事、書記及ヒ立會人之ニ署名捺印スヘシ

一　封印ノ除去ヲ命シタル裁判ノ表示

二　封印ノ除去ヲ命シタル場所、年月日及ヒ其事由

三　申立人ノ氏名、住所

四　異議ノ申立ナカリシコト又ハ其申立ノ取下若クハ却下アリタルコト

五　財産ノ目錄ヲ調製セシメ又ハ之ヲ調製セシメサリシコト

六　封印ノ狀況及ヒ異狀アルトキハ其事由

調書ハ裁判所ニ之ヲ保存スヘシ

第五十五條　管理人カ調製スヘキ財産ノ目錄ニハ左ノ事項ヲ記載シ管理人及ヒ立會人之ニ署名、捺印スヘシ

一　調製ノ場所、年月日及ヒ其事由

二　申立人ノ氏名、住所

三　不動産ノ表示

四　動産ノ種類及ヒ數量

五　債權及ヒ債務ノ表示

六　帳簿、證書其他ノ書類

財産ノ目錄ハ二通ヲ調製シ其一通ハ管理人之ヲ保管シ其一通ハ裁判所ニ提出スヘシ

第四十六條　民法第二十七條第一項及ヒ第二項ノ規定ハ財産目錄ノ調製ニ之ヲ準用ス

第五十六條　民法第二十七條第一項及ヒ第二項ノ場合ニ於テ裁判所ハ公證人ヲシテ財産ノ目錄ヲ調製セシムヘキ旨ヲ管理人ニ命スルコトヲ得管理人カ調製シタル目錄ヲ不充分ト認メタルトキ亦同シ

前項ノ命令ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス

前條ノ規定ハ本條第一項又ハ第五十三條第二項ノ規定ニ依リテ書記又ハ公證人カ財産ノ目錄ヲ調製スヘキ場合ニ之ヲ準用ス

第五十七條　利害關係人ハ財産ノ目錄ノ閲覽ヲ申請シ又ハ手數料ヲ納付シテ其謄本ノ交付ヲ申請スルコトヲ得

檢事ハ財産ノ目錄ヲ閱覽スルコトヲ得

第五十八條　裁判所ハ不在者ノ財産ヲ賣却セシムヘキ場合ニ於テハ競賣法ノ規定ニ依リテ之ヲ賣却スヘキコトヲ命スヘシ

第五十九條　本人カ自ラ其財産ヲ管理スルコトヲ得ルニ至リタルトキ又ハ其死亡カ分明トナリタルトキハ保存ニ付キ處分ヲ命シ其處分ヲ取消シ又ハ管理人ニ其權限ヲ超ユル行爲ヲ爲スコトヲ許可シタル裁判ニ對シテ抗告ヲ爲スコトヲ得

第六十條　利害關係人ハ不在者ノ財産ノ管理若クハ保存ニ付キ處分ヲ命シタル裁判ニ對シテ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

不在者カ置キタル管理人ハ其改任ヲ命シタル裁判ニ對シテ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

第六十一條　裁判所カ抗告人ノ申立ニ相當スル裁判ヲ爲シタル場合ニ於テハ抗告手續ノ費用及ヒ抗告人ノ負擔ニ歸シタル前審ノ費用ハ不在者ノ財産ノ負擔トス

第六十二條　裁判所カ職權ヲ以テ裁判ヲ爲シ又ハ申請ニ相當スル裁判ヲ爲シタル場合ニ於テハ裁判前ノ手續及ヒ裁判ノ告知ノ費用ハ不在者ノ財産ノ負擔トス裁判所ノ命シタル處分ニ付キ必要ナル費用亦同シ

第六十三條　民法第八百九十二條第二項乃至第四項ノ財産ノ管理ニ關スル事件ハ子ノ住所地ノ區裁判所ノ管轄トス

第三者カ數人ノ子ニ財産ヲ與ヘタル場合ニ於テ其住所カ異ナルトキハ年少ノ子ノ住所地ノ區裁判所ノ管轄トス

第六十四條　第三者カ被後見人ニ與ヘタル財産ノ管理ニ關スル事件ハ被後見人ノ住所地ノ區裁判所ノ管轄トス

第六十五條　民法第千二十一條第二項、第三項及ヒ第千五十二條ノ相續財産ノ管理又ハ保存ニ關スル事件ハ相續開始地ノ區裁判所ノ管轄トス

第六十六條　民法第九百七十八條ノ遺產ノ管理ニ關スル事件ハ相續人ノ廢除又ハ其取消ノ請求ニ付キ第一審ニ於テ訴ヲ受ケタル裁判所ノ管轄トス

第六十七條　民法第千四十三條ノ相續財産ノ管理ニ關スル事件ハ財産分離ノ請求ニ付キ第一審ニ於テ訴ヲ受ケタル裁判所ノ管轄トス

第六十八條　第三十九條乃至第六十二條ノ規定ハ前五條ニ掲ケタル事件ニ之ヲ準用ス

第六十九條　民法第千五十二條第二項ノ公告ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

一　申立人ノ氏名、住所

二　被相續人ノ氏名、身分、職業及ヒ最後ノ住所

三　被相續人ノ出生及ヒ死亡ノ場所竝ニ其年月日

四　管理人ノ氏名、住所

第七十條　民法第千五十八條ノ公告ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

一　前條第一號乃至第三號ニ掲ケタル事項

二　相續人ハ一定ノ期間內ニ其權利ヲ主張スヘキ旨ノ催告

第七十一條　民事訴訟法第七百六十六條ニ定メタル公告ノ方法ハ前二條ノ公告ニ之ヲ準用ス

第三章　裁判上ノ代位ニ關スル事件

第七十二條　債權者ハ自己ノ債權ノ期限前ニ債務者ノ權利ヲ行ハサレハ其債權ヲ保全スルコト能ハス又ハ之ヲ保全スルニ困難ヲ生スル慮アルトキハ裁判上ノ代位ヲ申請スルコトヲ得

第七十三條　裁判上ノ代位ハ債務者カ普通裁判籍ヲ有スル地ノ區裁判所ノ管轄トス

第七十四條　代位ノ申請ニハ第九條ニ揭ケタル事項ノ外左ノ事項ヲ記載スヘシ

一　債務者及ヒ第三債務者ノ氏名、住所

二　申請人ノ保全セントスル債權及ヒ其行ハントスル權利ノ表示

第七十五條　裁判所ハ申請ヲ理由アリト認ムルトキハ擔保ヲ供セシメ又ハ供セシメスシテ之ヲ許可スルコトヲ得

第七十六條　申請ヲ許可シタル裁判ハ職權ヲ以テ之ヲ債務者ニ告知スヘシ

前項ノ告知ヲ受ケタル債務者ハ其權利ノ處分ヲ爲スコトヲ得ス

第七十七條　申請ヲ却下シタル裁判ニ對シテハ卽時抗告ヲ爲スコトヲ得

申請ヲ許可シタル裁判ニ對シテハ債務者ハ卽時抗告ヲ爲スコトヲ得抗告ノ期間ハ債務者カ裁判ノ告知ヲ受ケタル日ヨリ之ヲ起算ス

第七十八條　抗告手續ノ費用及ヒ抗告人ノ負擔ニ歸シタル前審ノ費用ニ付テハ申請人及ヒ抗告人ヲ當事者ト看做シ民事訴訟法第七十二條第一項ノ規定ニ從ヒテ其負擔者ヲ定ム

第七十九條　第十三條及ヒ第十五條ノ規定ハ本章ノ手續ニ之ヲ適用セス

第四章　保存、供託、保管及ヒ鑑定ニ關スル事件

第八十條　民法第二百六十二條第三項ノ證書保存者ノ指定ハ共有物ノ分割アリタル地ノ區裁判所ノ管轄トス

裁判所ハ裁判ヲ爲ス前共有者ヲ訊問スヘシ

裁判所カ第一項ノ指定ヲ爲シタル場合ニ於テハ其手續ノ費用ハ共有者ノ全員ノ負擔トス

第八十一條　民法第四百九十五條第二項ノ供託所ノ指定及ヒ供託物保管者ノ選任ハ債務履行地ノ區裁判所ノ管轄トス

裁判所ハ裁判ヲ爲ス前債權者及ヒ辨濟者ヲ訊問スヘシ

裁判所カ第一項ノ指定及ヒ選任ヲ爲シタル場合ニ於テハ其手續ノ費用ハ債權者ノ負擔トス

第八十二條　第四十條、民法第六百五十八條第一項、第六百五十九條乃至第六百六十一條及ヒ第六百六十四條ノ規定ハ前條ノ保管者ニ之ヲ準用ス但民法第六百六十條ノ通知ハ辨濟者ニ之ヲ爲スコトヲ要ス

第八十三條　第八十一條ノ規定ハ民法第四百九十七條ノ裁判所ノ許可ニ之ヲ準用ス

第八十三條ノ二　第八十一條第一項及ヒ第二項ノ規定ハ民法第三百五十四條ニ依リ質物ヲ以テ直チニ辨濟ニ充ツルコトヲ申請スル場合ニ之ヲ準用ス

裁判所カ申請ヲ許可シタル場合ニ於テハ其手續ノ費用ハ債務者ノ負擔トス

第八十四條　民法第五百八十二條ノ鑑定人ノ選任、呼出及訊問ハ不動產所在地ノ區裁判所ノ管轄トス

裁判所カ前項ノ選任ヲ爲シタル場合ニ於テハ其手續ノ費用ハ買主ノ負擔トス呼出及ヒ訊問ノ費用亦同シ

第八十五條　民法第千三十二條第二項、第千三十四條、及ヒ第千百三十二條第二項ノ鑑定人ノ選任呼出及ヒ訊問ハ相續開始地ノ區裁判所ノ管轄トス

第八十六條　民法第千四十七條及ヒ第千五十條ノ場合ニ於ケル鑑定人ノ選任、呼出及ヒ訊問ハ第六十七條ニ定メタル裁判所ノ管轄トス

第八十七條　民法第千三十二條第二項、第千三十四條、第千四十七條及ヒ第千五十條ノ場合ニ於ケル鑑定人ノ選任ニ關スル費用ハ相續財産ノ負擔トス

第八十八條　第十五條ノ規定ハ本章ノ手續ニハ之ヲ適用セス

第八十九條　本章ノ規定ニ依リテ指定若クハ選任ヲ爲シ又ハ許可ヲ與ヘタル裁判ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス

第五章　隱居、廢家、子ノ懲戒、家督相續人及ヒ親族會ニ關スル事件

第九十條　隱居ノ許可ハ隱居ヲ爲サントスル戶主ノ住所地ノ區裁判所ノ管轄トス

許可ノ申請ニハ法定ノ推定家督相續人ヲ表示シ且其者ヲシテ署名、捺印セシムヘシ

第九十一條　隱居ノ許可ハ廢家セントスル戶主ノ住所地ノ區裁判所ノ管轄トス

利害關係人及ヒ檢事ハ前項ノ許可ヲ與ヘタル裁判ニ對シテ抗告ヲ爲スコトヲ得

第七十八條ノ規定ハ前項ノ抗告ニ之ヲ準用ス

第九十二條　子ノ懲戒ニ關スル事件ハ子ノ住所地ノ區裁判所ノ管轄トス

檢事ハ前項ノ許可ヲ與ヘタル裁判ニ對シテ抗告ヲ爲スコトヲ得

第七十八條ノ規定ハ前項ノ抗告ニ之ヲ準用ス

第九十三條　民法第九百七十八條ノ戶主權ノ行使ニ付キ必要ナル監分ハ第六十六條ニ定メタル裁判所ノ管轄トス

第九十四條　家督相續人ノ選定ニ關スル許可ハ相續開始地ノ區裁判所ノ管轄トス

裁判所カ申請ニ相當スル裁判ヲ爲シタル場合ニ於テハ其手續ノ費用ハ無能力者ノ負擔トス

第九十五條　親族及ヒ檢事ハ前條ノ許可ヲ與ヘタル裁判ニ對シテ抗告ヲ爲スコトヲ得

第九十六條　無能力者ノ爲メニ設クヘキ親族會ニ關スル事件ハ其者ノ住所地ノ區裁判所ノ管轄トス

裁判所カ申請ニ相當スル裁判ヲ爲シタル場合ニ於テハ其手續ノ費用ハ無能力者ノ負擔トス

第九十七條　家督相續人ノ選定ノ爲メニ開クヘキ親族會ニ關スル事件ハ相續開始地ノ區裁判所ノ管轄トス

裁判所カ申請ニ相當スル裁判ヲ爲シタル場合ニ於テハ其手續ノ費用ハ相續財産ノ負擔トス

第九十八條　前二條ニ揭ケサル事件ノ爲メニ開クヘキ親族會ニ關シテハ事件ノ本人ノ住所地ノ區裁判所ヲ以テ管轄裁判所トス

裁判所カ申請ニ相當スル裁判ヲ爲シタル場合ニ於テハ其手續ノ費用ハ事件ノ本人ノ負擔トス

第九十九條　裁判所ハ親族會員又ハ其補缺員ノ選定ニ付キ申請人又ハ民法第九百四十四條ニ揭ケタル者ヲシテ會員タルニ適當ナル者ヲ指名セシムルコトヲ得

第百條　親族會員タルコトヲ辭セントスル者ハ裁判所ニ其申請ヲ爲スヘシ

前項ノ申請ニ相當スル裁判ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス

第百一條　親族會ノ招集又ハ親族會員ノ辭任ノ申請ヲ却下シタル裁判ニ對シテハ卽時抗告ヲ爲スコトヲ得

民法第九百四十四條ニ揭ケタル者ハ親族會員タルコトヲ得サル者ノ選任ニ對シテ抗告ヲ爲スコトヲ得

第六十二條ノ規定ハ前二項ノ抗告ニ之ヲ準用ス

第百二條　親族會員其他民法第九百四十四條ニ揭ケタル者ハ親族會ノ決議ニ代ハルヘキ裁判ニ對シテ抗告ヲ爲スコトヲ得

前項ノ裁判ノ申請ヲ却下シタル裁判ニ對シテハ卽時抗告ヲ爲スコトヲ得

第六十二條ノ規定ハ前二項ノ抗告ニ之ヲ準用ス

第百三條　民法第千十七條第一項但書ニ定メタル期間ノ伸長ハ相續開始地ノ區裁判所ノ管轄トス

第百四條　相續ノ限定承認又ハ拋棄ノ申述ハ相續開始地ノ區裁判所ノ管轄トス

第百五條　相續ノ限定承認又ハ拋棄ノ申述ニハ第九條第一號、第二號、第四號及ヒ第五號ニ揭ケタル事項ノ外左ノ事項ヲ記載シテ申述人又ハ代理人之ニ署名、捺印スヘシ

一　被相續人ノ氏名及ヒ最後ノ住所

二　相續ノ限定承認又ハ拋棄ヲ爲ス旨

第百六條　期間ノ伸長ノ申請又ハ相續ノ限定承認若クハ拋棄ノ申述ヲ却下シタル裁判ニ對シテハ卽時抗告ヲ爲スコトヲ得

第七章　遺言ノ確認及ヒ執行

第百七條　遺言執行者ノ選任及ヒ解任ハ相續開始地ノ區裁判所ノ管轄トス

裁判所ニ於テ選任シタル遺言執行者カ其任務ヲ辭セントスルトキ又ハ其就職ヲ拒マントスルトキハ相續開始地ノ區裁判所ニ其申立ヲ爲スヘシ

裁判所カ前二項ニ揭ケタル事件ニ付キ申立ニ相當スル裁判ヲ爲シタル場合ニ於テハ其手續ノ費用ハ相續財產ノ負擔トス

第百八條　遺言執行者ヲ選任シタル裁判又ハ其任務ヲ辭シ若クハ就職ヲ拒ムコトヲ許可シタル裁判ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス

遺言執行者ノ選任若クハ解任ノ申請又ハ其任務ヲ辭シ若クハ就職ヲ拒ム申立ヲ却下シタル裁判ニ對シテハ卽時抗告ヲ爲スコトヲ得

遺言執行者ハ其解任ヲ命シタル裁判ニ對シテ卽時抗告ヲ爲スコトヲ得

抗告ノ期間ハ遺言執行者カ裁判ノ告知ヲ受ケタル日ヨリ之ヲ起算ス

第六十二條ノ規定ハ前二項ノ抗告ニ之ヲ準用ス

第百九條　民法第千七十六條及ヒ第千八十一條但書ニ定メタル遺言ノ確認ハ遺言者ノ住所又ハ相續開始地ノ區裁判所ノ管轄トス

手續ノ費用ハ遺言者又ハ相續財產ノ負擔トス

第百十條　遺言ノ確認ノ申請ヲ却下シタル裁判ニ對シテハ卽時抗告ヲ爲スコトヲ得

利害關係人及ヒ檢事ハ遺言ノ確認ニ對シテ卽時抗告ヲ爲スコトヲ得抗告ノ期間ハ確認ノ申請人カ裁判ノ告知ヲ受ケタル日ヨリ之ヲ起算ス

前條第二項ノ規定ハ前二項ノ抗告ニ之ヲ適用ス

第百十一條　遺言者ノ檢認ハ相續開始地ノ區裁判所ノ管轄トス

第百十二條　遺言書ノ檢認ハ公證人カ記載シタルモノヲ除ク外遺言ノ方式ニ關スル總テノ事實ヲ調査シテ之ヲ爲ス

第百十三條　封印アル遺言書ノ開封ニ付テハ豫メ其期日ヲ定メテ相續人ヲ呼出スヘシ

第百十四條　遺言書ノ提出、開封及ヒ檢認ニ付テハ調書ヲ作ルヘシ

調書ニハ左ノ事項ヲ記載シ判事、書記及ヒ立會人之ニ署名捺印スヘシ

一　提出者ノ氏名、住所

二　提出、開封及ヒ檢認ノ年月日

三　立會人ノ氏名、住所

四　訊問シタル證人、鑑定人、相續人其他ノ利害關係人ノ氏名、住所及ヒ其陳述

五　事實調査ノ結果

第百十五條　裁判所ハ遺言書ノ開封及ヒ檢認ヲ爲シタルトキ出頭セサリシ相續人其他遺言ノ旨趣ニ關係アル者ニ其旨ヲ告知スヘシ

前項ニ掲ケタル者ハ裁判所ノ許可ヲ得テ前條ノ調書ヲ閲覽スルコトヲ得

第百十六條　遺言書ノ提出、開封並ニ檢認及ヒ其告知ノ費用ハ相續財産ノ負擔トス

第八章　法人及ヒ夫婦財産契約ノ登記

第百十七條　法人ノ登記ニ付テハ法人ノ事務所所在地ノ區裁判所又ハ其出張所ヲ以テ管轄登記所トス

第百十八條　夫婦財産契約ノ登記ニ付テハ夫ト爲ルヘキ者ノ住所地ノ區裁判所又ハ其出張所ヲ以テ管轄登記所トス

夫ト爲ルヘキ者カ入夫又ハ婿養子トナルトキハ妻ト爲ルヘキ者ノ住所地ノ區裁判所又ハ出張所ヲ以テ管轄登記所トス

第百十九條　各登記所ニ法人登記簿及ヒ夫婦財産契約登記簿ヲ備フ

第百二十條　法人設立ノ登記ハ理事ノ全員ノ申請ニ因リテ之ヲ爲ス

申請書ニハ定款、理事ノ資格ヲ證スル書面及ヒ主務官廳ノ許可書又ハ其認證アル謄本ヲ添附スルコトヲ要ス

第百二十一條　事務所ノ新設又ハ事務所ノ移轉其他登記事項ノ變更ノ登記ハ理事、理事ノ缺クタル場合ニ於テハ假理事ノ申請ニ因リテ之ヲ爲ス

申請書ニハ理事又ハ假理事ノ資格ヲ證スル書面及ヒ事務所ノ新設又ハ登記事項ノ變更ヲ證スル書面ヲ添附シ且主務官廳ノ許可ヲ要スルモノニ付テハ其許可書又ハ其認證アル謄本ヲ添附スルコトヲ要ス

前ニ登記ノ申請ヲ爲シタル理事又ハ假理事カ同一登記所第一項ノ申請ヲ爲ス場合ニ於テハ其資格ヲ證スル書面ヲ添附スルコトヲ要セス

第百二十二條　法人ノ解散ノ登記ハ清算人ノ申請ニ因リテ之ヲ爲ス

申請書ニハ解散ノ事由ヲ證スル書面及ヒ理事カ清算人タラサル場合ニ於テハ清算人ノ資格ヲ證スル書面ヲ添附スルコトヲ要ス

第百二十三條　夫婦財産契約ニ關スル登記ハ契約雙方ノ申請ニ因リテ之ヲ爲ス

申請書ニハ夫婦財産契約書又ハ管理者ノ變更若クハ共有財産ノ分割ヲ許可シタル判決ノ謄本又ハ之ニ關スル契約書ヲ添附スルコトヲ要ス

第百二十四條　第百十七條、第二百二條乃至第二百四條ノ規定ハ日本ニ事務所ヲ設ケタル

外國法人ノ登記ニ之ヲ準用ス

第百二十五條　第百四十一條乃至第百五十一條、第百五十四條乃至第百五十七條及ヒ第百七十七條ノ規定ハ本章ニ定メタル登記ニ之ヲ準用ス

第三編　商事非訟事件

第一章　會社及ヒ競賣ニ關スル事件

第百二十六條　商法第四十七條、第四十八條、第百九十八條及ヒ商法施行法第九十五條第二項、第百二條第二項、第百九十六條第二項ニ定メタル事件ハ會社ノ本店所在地ノ地方裁判所ノ管轄トス

商法第二百六十條ニ定メタル事件ハ閉鎖ヲ命セラルヘキ外國會社ノ支店ノ所在地ノ地方裁判所ノ管轄トス

商法第二百三十三條ニ定メタル事件ハ解散シタル株式會社ノ本店所在地ノ區裁判所ノ管轄トス

商法第二百八十九條第一項及ヒ第六百十條第一項ニ定メタル事件ハ競賣ニ付スヘキ物品所在地ノ區裁判所ノ管轄トス

第百二十七條　檢査役ノ選任ノ申請ハ書面ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ要ス

申請書ニハ左ノ事項ヲ記載シ取締役又ハ株主之ニ署名、捺印スヘシ

一　申請ノ事由

二　檢査ノ目的

三　年月日

四　裁判所ノ表示

第百二十八條　檢査役ノ報告ハ書面ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ要ス

裁判所ハ檢査ニ付キ說明ヲ必要トスルトキハ檢査役ヲ審訊スルコトヲ得

第百二十九條　商法第百二十四條第二項ノ規定ニ依ル裁判ハ理由ヲ附シタル決定ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

裁判所ハ裁判ヲ爲ス前發起人及ヒ取締役ノ陳述ヲ聽クヘシ

發起人及ヒ取締役ハ第一項ノ裁判ニ對シテ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

第百三十條　商法第百九十八條ノ規定ニ依リ檢査役ノ選任ニ關スル裁判所ニ於テハ裁判所ハ取締役及ヒ監査役ノ陳述ヲ聽クヘシ

前項ノ裁判ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

第百三十一條　商法第百九十八條ノ檢査ニ付キ株主總會ノ招集ヲ必要ト認ムルトキハ裁判所ハ一定ノ期間内ニ其招集ヲ爲スヘキコトヲ命スヘシ

第百三十二條　商法第百十一條第二項ノ規定ニ依リ檢査ノ許可ヲ申請スル場合ニ於テハ檢査ヲ要スル事由、同法第百六十條第二項ノ規定ニ依リ總會招集ノ許可ヲ申請スル場合ニ於テハ取締役カ其招集ヲ怠リシ事實ヲ疎明スルコトヲ要ス

前項ノ申請ハ書面ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ要ス

第百三十三條　前條ノ規定ニ依ル申請ニ付テハ裁判所ハ理由ヲ附シタル決定ヲ以テ裁判ヲ爲スヘシ

申請ヲ認許スル裁判ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス

第百三十四條　商法第百九十六條第二項ノ規定ニ依ル定款ノ認可ノ申請ハ開業前ニ利息ノ配當ヲ爲スコトヲ要スル事由ヲ疎明シ發起人又ハ總取締役之ヲ爲スヘシ

前項ノ申請ニ對スル裁判ニ付テハ前條ノ規定ヲ適用ス

第百三十四條　商法第四十七條、第四十八條及ヒ商法施行法第百二條第二項ノ場合ニ於ケル會社ノ解散ノ命令ハ理由ヲ附シタル決定ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

裁判所ハ裁判ヲ爲ス前利害關係人ノ陳述ヲ聽キ檢事ノ意見ヲ求ムヘシ

前二項ノ規定ハ會社ノ申請ニ因リ開業期間ノ伸長ニ付キ裁判ヲ爲ス場合、商法施行法ノ規定ニ依リ會社ノ營業ノ禁止ヲ命スル場合及ヒ日本ニ設立シタル外國會社ノ支店ノ閉鎖ヲ命スル場合ニ之ヲ準用ス

第百三十五條　會社及ヒ檢事ハ前條ノ決定ニ對シテ即時抗告ヲ爲スコトヲ得抗告ハ執行停止ノ效力ヲ有ス

抗告裁判所カ會社ノ申立ニ相當スル裁判ヲ爲シタル場合ニ於テハ抗告手續ノ費用及ヒ抗告人ノ負擔ニ歸シタル前審ノ費用ハ國庫ノ負擔トス

第百三十五條ノ二　會社ノ解散若クハ營業ノ禁止又ハ外國會社ノ支店ノ閉鎖ヲ命スル裁判カ確定シタルトキハ裁判所ハ解散シタル會社、營業ヲ禁止セラレタル會社ノ本店及ヒ支店又ハ閉鎖シタル外國會社ノ支店所在地ノ商業登記所ニ其登記ノ囑託ヲ爲スヘシ抗告裁判所ヵ裁判ヲ爲シタルトキ亦同シ

登記所カ前項ノ囑託ヲ受ケタルトキハ外國會社ニ付テハ其支店ノ登記ヲ抹消シ營業ヲ禁止セラレタル會社ニ付テハ其支店及ヒ支店ノ登記ニ其旨ヲ記載スヘシ

第百三十五條ノ三　第百二十六條第一項及ヒ前三條ノ規定ハ會社ニ非スシテ商業登記ヲ爲シタル者ニ對シ裁判所カ商法施行法ノ規定ニ依リテ營業ノ禁止ヲ命スル場合ニ之ヲ準用ス

第二章　會社ノ清算人ノ選任及ヒ解任

第百三十六條　清算人ノ選任又ハ解任ニ關スル事件ハ會社ノ本店所在地ノ區裁判所ノ管轄トス

第百三十七條　清算人ノ選任又ハ解任ノ裁判ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス

第百三十八條　左ニ掲ケタル者ハ清算人トシテ之ヲ選任スルコトヲ得ス

一　未成年者
二　禁治產者及ヒ準禁治產者
三　剝奪公權者及ヒ停止公權者
四　裁判所ニ於テ解任セラレタル清算人
五　破產者

第三章　商業登記

第一節　通則

第百三十九條　但商法ノ規定ニ依リテ登記ノ申請ヲ爲ス者ノ營業所所在地ノ區裁判所又ハ其出張所ヲ以テ管轄登記所トス

第百四十條　各登記所ニ左ノ商業登記簿ヲ備フ

一　商號登記簿
二　未成年者登記簿
三　婆登記簿
四　後見人登記簿
五　支配人登記簿

六　合名會社登記簿
七　合資會社登記簿
八　株式會社登記簿
九　株式合資會社登記簿
十　外國會社登記簿

第百四十一條　各登記所ニ各商業登記簿ノ見出帳ヲ備フ

第百四十二條　登記所ハ何人ニモ登記簿ノ閲覽ヲ許シ又ハ手數料ヲ納付スルトキハ之ニ其謄本若ハ抄本ヲ交付スヘシ

登記所ハ登記上利害ノ關係ヲ疏明シテ申請ヲ爲シタル者ニハ其關係アル部分ニ限リ登記簿ノ附屬書類ノ閲覽ヲ許スヘシ

郵送ヲ納付シテ登記簿ノ謄本又ハ抄本ヲ請フトキハ登記所ハ之ヲ送付スヘシ

第百四十三條　登記所ハ申請ニ因リ登記事項ニ變更ナキコト又ハ登記事項ノ登記ナキコトノ證明ヲ爲スヘシ

第百四十四條　登記シタル事項ノ公告ハ官報及ヒ新聞紙上ニ少クモ一回之ヲ爲スコトヲ要ス

公告ハ之ヲ記載シタル最終ノ官報及ヒ新聞紙發行ノ日ノ翌日之ヲ爲シタルモノト看做ス

第百四十五條　區裁判所ハ毎年十二月ニ翌年登記事項ノ公告ヲ掲載セシムヘキ新聞紙ヲ選定シ官報及ヒ新聞紙ヲ以テ之ヲ公告スヘシ

公告ヲ掲載セシムヘキ新聞紙カ休刊又ハ廢刊ヲ爲ストキハ更ニ他ノ新聞紙ヲ選定シ前項ト同一ノ方法ヲ以テ之ヲ公告スヘシ

第百四十六條　區裁判所ハ其管轄内ニ公告ヲ爲サシムルニ適當ナル新聞紙アリト認ムルトキハ新聞紙上ノ公告ニ代ヘ登記所及ヒ其管轄内ノ市町村役場ノ掲示場ニ公告ヲ爲スコトヲ得

第百四十七條　登記スヘキ事項ノ登記、其變更又ハ消滅ノ登記ハ本法ニ別段ノ定アル場合ヲ除ク外當事者ノ申請アルニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得

第百四十八條　當事者ハ登記ヲ受ケタル後其登記ニ錯誤又ハ遺漏アルコトヲ發見シタルトキハ管轄登記所ニ其更正ヲ申請スルコトヲ得

第百四十九條　登記ノ申請ハ書面ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ要ス

申請書ニハ左ノ事項ヲ記載シ申請人又ハ其代理人之ニ署名、捺印スヘシ

一　申請人ノ氏名、住所、會社カ申請人ナルトキハ其商號及ヒ本店又ハ支店
二　代理人ニ依リテ申請ヲ爲ストキハ其氏名、住所
三　登記ノ目的及ヒ事由
四　年月日

五　登記所ノ表示

第百五十條　本章ノ規定ニ依リ連署ヲ以テ申請ヲ爲スヘキ場合ニ於テ正當ノ事由ニ因リ連署スルコト能ハサル者アルトキハ其他ノ者ノミニテ申請ヲ爲スコトヲ得

連署ヲ爲スコト能ハサル事由ハ之ヲ證明スルコトヲ要ス

第百五十一條　登記所ハ登記ノ申請カ商法又ハ本章ノ規定ニ適セサルトキハ理由ヲ附シタル決定ヲ以テ之ヲ却下スヘシ此決定ニ對シテハ卽時抗告ヲ爲スコトヲ得

前項ノ決定ハ民事訴訟法ノ規定ニ從ヒテ之ヲ申請人ニ送達スルコトヲ要ス

第百五十二條　破産裁判所カ商業登記ヲ爲シタル者ニ對シ破産ノ宣告シタルトキハ其營業所所在地ノ登記所ニ其旨ヲ通知スルコトヲ要ス破産手續ノ終結又ハ確定シタル協諧契約ノ認可アリタルトキ亦同シ

支拂猶豫カ無效ト爲リタル場合ニ於テハ之ヲ認可シタル裁判所、協諧契約ノ認可ヲ受ケタル破産者カ有罪破産ノ宣告ヲ受ケ又ハ其協諧契約カ取消サレタル場合ニ於テハ受訴裁判所ハ前項ノ登記所ニ其旨ヲ通知スルコトヲ要ス

第百五十三條　登記所カ前條ノ通知ヲ受ケタルトキハ職權ヲ以テ破産者ノ商業登記ニ其通知ヲ受ケタル事項ヲ記載スルコトヲ要ス但其公告ヲ爲スコトヲ要セス

第百五十四條　商業登記簿ノ全部又ハ一部カ滅失シタル場合ニ於テハ司法大臣ハ一定ノ期間ヲ定メテ登記ノ回復ニ必要ナル處分ヲ命スルコトヲ得

第百五十五條　司法大臣ハ數個ノ登記所ノ管轄ニ屬スヘキ商業登記ノ事務ヲ其一登記所ニ委任スルコトヲ得

第百五十六條　登記簿ノ調製其他登記ニ關スル施行細則ハ司法大臣之ヲ定ム

第百五十七條　不動產登記法第十條第十三條、第十八條、第二十條、第二十二條及ヒ第二十四條ノ規定ハ商業登記ニ之ヲ準用ス

第二節　商號ノ登記

第百五十八條　商號ノ登記ハ同市町村內ニ於テハ同一ノ營業ノ爲メ他人カ登記シタルモノト判然區別シ得ルトキニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス

第百五十九條　商法施行法第十三條第一項ノ規定ニ依リ他人カ登記シタル商號ト同一ノ商號ノ登記ヲ申請スル者ハ舊商法施行前ヨリ之ヲ使用スルコトヲ證明スルコトヲ要ス

第百六十條　商號ノ登記ノ申請書ニハ第百四十九條第二項ニ揭ケタル事項ノ外營業ノ種類ヲ記載スヘシ商號ノ變更ノ登記ヲ申請スルトキ亦同シ

第百六十一條　商號ノ登記ヲ爲シタル者ノ承繼人カ商號ヲ續用セントスルトキハ其資格ヲ證スル書面又ハ讓受證書ヲ添ヘ其登記ノ申請ヲ爲スコトヲ要ス

商號ノ登記ヲ爲シタル者カ氏、名又ハ住所ヲ變更シタルトキハ遲滯ナク其登記ヲ申請スヘシ

第百六十二條　商號ヲ廢止シ又ハ變更シタルトキハ當事者ハ其登記ヲ申請スヘシ

相續人又ハ法定代理人カ前項ノ申請ヲ爲ストキハ申請書ニ其資格ヲ證スル書面ヲ添附スルコトヲ要ス

第百二十一條第三項ノ規定ハ本條第一項ノ申請ニ之ヲ準用ス

第百六十三條　商法第二十四條第一項ノ規定ニ依リテ商號登記ノ抹消ヲ申請スル物ハ其登記上利害ノ關係ヲ有スルコトヲ疏明スルコトヲ要ス

第百六十四條　前條ノ申請アリタルトキハ登記所ハ登記ヲ爲シタル者ニ對シ其旨ヲ告知シ且一箇月ヨリ長カラサル期間ヲ定メ異議アラハ其期間內ニ之ヲ申立ツヘキ旨ヲ催告スヘシ

前項ノ規定ニ依リ告知及ヒ催告ヲ受クヘキ者又ハ其居所カ知レサルトキハ告知及ヒ催告ハ登記所ノ公告ト同一ノ方法ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

登記所ハ右ノ外相當ト認ムル他ノ新聞紙ニ同一ノ公告ヲ揭載セシムルコトヲ得

第百六十五條　前條ノ規定ニ從ヒテ異議ノ申立アリタルトキハ登記所ハ理由ヲ附シタル決定ヲ以テ其裁判ヲ爲スヘシ

前項ノ裁判ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得抗告ハ執行停止ノ效力ヲ有ス

第三節　未成年者、妻及ヒ後見人ノ登記

第百六十六條　未成年者カ商業ヲ營ム場合ニ於テ其登記ヲ申請スルニハ申請書ニ營業ノ種類ヲ記載シ法定代理人ノ同意ヲ得タルコトヲ證スル書面ヲ添附スルコトヲ要ス但法定代理人カ之ニ連署スルトキハ此限ニ在ラス

親權ヲ行フ母又ハ後見人カ同意ヲ爲シタル場合ニ於テハ親族會ノ同意ヲ得タルコトヲ證スル書面ヲ併セテ添附スルコトヲ要ス繼父、繼母又ハ嫡母カ同意ヲ爲シタルトキ亦同シ

第百六十七條　妻カ商業ヲ營ム場合ニ於テ登記ヲ申請スルニハ申請書ニ營業ノ種類ヲ記載シ夫ノ許可ヲ得タルコトヲ證スル書面ヲ添附スルコトヲ要ス但夫カ之ニ連署スルトキハ此限ニ在ラス

夫カ未成年者ナルトキハ前項ノ許可ヲ爲スニ付キ必要ナル同意ヲ得タルコトヲ證スル書面ヲ併セテ添附スルコトヲ要ス

妻カ夫ノ許可ヲ得ルコトヲ要セサル場合ニ於テ營業登記ヲ申請スルニハ申請書ニ其事由ヲ證スル書面ヲ添附スルコトヲ要ス

第百六十八條　商業ヲ營ムコトノ許可ヲ爲シタル者カ之ヲ取消シ又ハ之ヲ制限シタルトキハ遲滯ナク其登記ノ申請ヲ爲スコトヲ要ス

第百六十六條第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第百六十九條　前條ノ規定ニ從ヒテ制限ノ登記ノ申請アリタルトキハ登記所ハ原登記ニ其旨ヲ記載スヘシ

第百七十條　法定財產制ニ異リタル契約ノ登記ヲ爲シタル妻カ商業ノ登記ヲ申請スルトキ又ハ其商業ノ登記ヲ爲シタル後管理者ノ變更若クハ共有財產ノ分割ノ登記ヲ爲シタルトキハ書面ヲ以テ登記所ニ其屆出ヲ爲スコトヲ要ス

前項ノ屆出アリタルトキハ登記所ハ當事者ノ商業登記ニ之ヲ記載スヘシ

第百七十一條　後見人カ被後見人ノ爲メ商業ヲ營ム場合ニ於テ登記ヲ申請スルハ申請書ニ親族會ノ同意ヲ得タルコトヲ證スル書面ヲ添附スルコトヲ要ス

第四節　支配人及ヒ會社ノ清算人ノ登記

第百七十二條　支配人ノ選任ノ登記ハ主人ノ申請ニ因リテ之ヲ爲ス

會社カ申請人ナルトキハ左ニ揭ケタル申請ニ因リテ前項ノ登記ヲ爲スヘシ

一　合名會社ニ於テハ會社ヲ代表スヘキ社員

二　株式會社ニ於テハ取締役

三　合資會社若クハ株式合資會社ニ於テハ會社ヲ代表スヘキ無限責任社員

第百七十三條　支配人ノ選任ノ登記ノ申請書ニハ第百四十九條第二項ニ揭ケタル事項ノ外左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

一　支配人ノ氏名、住所

二　申請人カ數箇ノ商號ヲ以テ數箇ノ商業ヲ營ムトキハ支配人カ代理スヘキ商業及ヒ其用ユヘキ商號

三　支配人ヲ置キタル場所

會社カ申請人ナル場合ニ於テハ申請書ニ其設立ノ登記ノ年月日ヲ記載シ且之ニ支配人ノ選任ヲ證スル書面ヲ添附スルコトヲ要ス

第百七十四條　第百七十二條ノ規定ハ支配人ノ代理權ノ消滅又ハ解任ノ登記ヲ申請スル場

合ニ之ヲ準用ス

會社カ支配人ノ解任ノ登記ヲ申請スル場合ニ於テハ申請書ニ其解任ヲ證スル書面ヲ添附スルコトヲ要ス

第百七十五條　清算人ニ關スル登記ハ清算ヲ爲スヘキ會社ノ登記所ノ管轄トス

前項ノ登記ハ會社ノ登記ニ記載シテ之ヲ爲ス

第百七十六條　清算人ノ選任ノ登記ノ申請書ニハ其選任ヲ證スル書面ヲ添附スルコトヲ要ス

第百七十七條　清算人ノ解任又ハ變更ノ登記ハ現任清算人ノ申請ニ因リテ之ヲ爲ス

申請書ニハ清算人ノ解任又ハ變更ヲ證スル書面ヲ添附スルコトヲ要ス

第百七十八條　清算ノ結了ノ登記ヲ申請スルニハ申請書ニ清算人カ其計算ノ承認ヲ得タルコトヲ證スル書面ヲ添附スルコトヲ要ス

第五節　合名會社及ヒ合資會社ノ登記

第百七十九條　合名會社ノ設立ノ登記ハ總社員ノ申請ニ因リ之ヲ爲ス

申請書ニハ定款ヲ添附シ且社員中ニ未成年者又ハ妻アルトキハ其社員タルコトニ同意ヲ爲スヘキ者ノ同意ヲ證スル書面ヲ添附スルコトヲ要ス

第百八十條　合名會社ノ支店ノ設立ノ登記ハ會社ヲ代表スヘキ總社員ノ申請ニ因リテ之ヲ爲ス

前項ノ申請書ニハ其本店又ハ支店ノ移轉其他變更ノ登記ハ會社ヲ代表スヘキ總社員ノ一致ヲ要スル場合ニ於テハ會社ヲ代表スヘキ社員ノ定アルトキニ限リ總社員ノ同意又ハ或社員ノ一致アリタルコトヲ證スル書面ヲ添附スルコトヲ要ス

商法第八十三條但書ノ規定ニ依リ裁判所カ或社員ヲ除名シタル場合ニ於テハ其ノ申請書ニハ其ノ判決ノ謄本ヲ添附スルコトヲ要ス

社員ノ氏、名若クハ住所ノ變更ノ登記ハ會社ヲ代表スヘキ社員ノ申請ニ因リテ之ヲ爲スヘシ

第百八十一條　合名會社ノ解散ノ登記ハ總社員又ハ其相續人ノ申請ニ因リテ之ヲ爲ス

申請書ニハ解散ノ事由ヲ記載シ且相續人カ申請ヲ爲ストキハ其資格ヲ證スル書面ヲ添附スルコトヲ要ス

會社カ裁判所ノ命令ニ因リテ解散シタル場合ニ於テハ登記所ハ裁判所ノ囑託ニ因リテ其登記ヲ爲スヘシ

第百八十二條　合名會社ノ合併ニ因ル解散ノ登記ハ會社ノ總社員ノ申請ニ因リテ之ヲ爲ス

申請書ニハ商法第七十八條第二項ニ依ル公告及ヒ催告ヲ爲シタルコト、若シ異議ヲ述ヘタル債權者アルトキハ之ニ對シ辨濟ヲ爲シ又ハ擔保ヲ供シタルコトヲ證スル書面ヲ添附スルコトヲ要ス

第百八十三條　第百七十九條第一項ノ規定ハ合名會社ノ合併ニ因ル變更又ハ設立ノ登記ノ申請ヲ爲ス場合ニ之ヲ適用ス

第百八十四條　合名會社カ社員ノ請求ニ因リテ解散シタルトキハ各社員ノ申請ニ因リテ其登記ヲ爲スヘシ

前項ノ申請書ニハ判決ノ謄本ヲ添附スルコトヲ要ス

前二項ノ規定ハ判決ニ因リ會社ノ設立カ取消サレタル場合ニ於ケル登記ノ申請ニ之ヲ準

用ス

第百八十五條　合名會社ニ於テ總社員申請ニ因リテ爲スヘキ登記ハ合資會社ニ於テハ其無限責任社員ノ全員ノ申請ニ因リテ之ヲ爲ス

無限責任社員ノ全員カ退社シタル場合ニ於ケル解散ノ登記ハ無限責任社員又ハ其相續人ノ請ニ因リテ之ヲ爲スヘシ

第百八十六條　第百七十九條第二項及ヒ第百八十條乃至第百八十四條ノ規定ハ合資會社ノ登記ニ之ヲ準用ス

第六節　株式會社ノ登記

第百八十七條　株式會社ノ設立ノ登記ハ總取締役及ヒ總監査役ノ申請ニ因リテ之ヲ爲ス

申請書ニハ左ノ書類ヲ添附スルコトヲ要ス

一　定款

二　株主名簿

三　發起人カ株式ノ總數ヲ引受ケタル場合ニ於テハ各發起人ノ引受ケタル株式ノ員數ヲ記載シタル書面、株主ヲ募集シタル場合ニ於テハ各株主ノ株式申込證

四　取締役及ヒ監査役又ハ檢査役カ商法第百三十四條ノ規定ニ從ヒテ爲シタル調査報告及ヒ其附屬書類

五　檢査役ノ報告ニ關スル裁判アリタルトキハ其謄本

六　發起人カ取締役及ヒ監査役ヲ選任シタルトキハ之ヲ認可シタル裁判ノ謄本

七　開業前ニ利息ノ配當ヲ爲スヘキ定款ノ定アルトキハ之ヲ認可シタル裁判ノ謄本

八　會社ノ事業ノ目的カ官廳ノ免許ヲ受クヘキモノナルトキハ其免許書又ハ其認證アル

謄本

九　創立總會ノ決議錄

第百八十八條　支店ノ設立、本店又ハ支店ノ移轉其他變更ノ登記ハ總取締役ノ申請ニ因リテ之ヲ爲ス

申請書ニハ登記事項ニ付裁判所ノ認可ヲ要スル場合ニ於テハ其裁判ノ謄本、株主總會ノ決議ヲ要スル場合ニ於テハ其決議錄ヲ添附スルコトヲ要ス

取締役又ハ監査役ノ氏、名又ハ變更ノ登記ハ取締役ノ申請ニ因リテ之ヲ爲スヘシ

第百八十九條　會社ノ資本增加ノ登記ノ申請書ニハ左ノ書類ヲ添附スルコトヲ要ス

一　株金全額ノ拂込アリタルコトヲ證スル書面

二　新株主ノ株式申込證及ヒ新株主名簿

三　商法第二百十四條ノ規定ニ從ヒテ監査役又ハ檢査役カ爲シタル調査報告書及ヒ其附屬書類

四　資本ノ增加ニ關スル株主總會ノ決議錄

第百九十條　會社ノ資本減少ノ登記ノ申請書ニハ之ニ關スル株主總會ノ決議錄ヲ添附スルコトヲ要ス

第百八十二條第二項ノ規定ハ資本減少ノ登記ノ申請ヲ爲ス場合ニ之ヲ準用ス

第百九十一條　社債ノ登記ノ申請書ニハ左ノ書類ヲ添附スルコトヲ要ス

一　最終ノ貸借對照表

二　社債ノ募集ノ公告ヲ爲シタルコトヲ證スル書面

三　各社債ニ付キ全額ノ拂込アリタルコトヲ證スル書面

四　社債原簿
五　社債ノ募集ニ關スル株主總會ノ決議錄
第百九十二條　會社カ社債ノ全部又ハ一部ヲ償還シタルトキハ取締役ハ遲滯ナク其登記ヲ爲スヘシ
前項ノ登記ノ申請ニハ償還シタル金額ヲ證スル書面ヲ添附スルコトヲ要ス
第百九十三條　會社ノ解散ノ登記ノ申請書ニハ解散ノ事由ヲ記載シ且會社カ株主總會ノ決議又ハ合併ニ因リテ解散シタルトキハ株主總會ノ決議錄ヲ添附スルコトヲ要ス
第百八十三條第二項ノ規定ハ株式會社カ合併ニ因ル解散ノ登記ノ申請ヲ爲ス場合ニ之ヲ準用ス
會社カ裁判所ノ命令ニ因リ解散シタルトキハ登記所ハ裁判所ノ嘱託ニ因リテ其登記ヲ爲スヘシ
第百九十四條　保險會社カ合併ニ因ル設立若クハ變更又ハ解散ノ登記ヲ申請スルニハ申請書ニ主務官廳ノ認許書又ハ其認證アル謄本ヲ添附スルコトヲ要ス會社カ株主總會ノ決議ニ因リ解散ヲ爲シタル場合ニ於テ其登記ヲ申請スルトキ亦同シ
第百九十四條ノ二　舊商法ノ規定ニ依リテ設立シタル株式會社カ商法施行法第五十條ノ登記ヲ申請スルニハ申請書ニ左ノ書類ヲ添附スルコトヲ要ス
一　定款
二　株主名簿
三　各株主ノ株式ノ申込ヲ證スル書面
四　設立免許書

五　創業總會ノ決議錄
第百八十七條第一項ノ規定ハ前項ノ登記ノ申請ヲ爲ス場合ニ之ヲ準用ス
第百九十四條ノ三　舊商法ノ規定ニ依リ資本ヲ增加シタル場合ニ於テ會社カ商法施行法第八十五條ノ登記ヲ申請スルニハ申請書ニ左ノ書類ヲ添附スルコトヲ要ス
一　株主名簿
二　新株主ノ株式ノ申込ヲ證スル書面
三　資本ノ增加ニ關スル株主總會ノ決議錄及ヒ假決議錄
第百九十四條ノ四　舊商法ノ規定ニ依リ資本ヲ減少シタル場合ニ於テ會社カ資本減少ノ登記ヲ申請スルニハ申請書ニ左ノ書類ヲ添附スルコトヲ要ス
一　舊商法第二百七條ニ依ル通知及ヒ催告ヲ爲シタルコト及ヒ異議ヲ申出テタル債權者ニ對シ辨濟ヲ爲シ又ハ擔保ヲ供シタルコトヲ證スル書面
二　資本ノ減少ニ關スル株主總會ノ決議錄及ヒ假決議錄
第百九十四條ノ五　舊法ノ規定ニ依リ債券ヲ發行シタル場合ニ於テ會社カ商法施行法第七十九條及ヒ第八十條ノ登記ヲ申請スルニハ申請書ニ左ノ書類ヲ添附スルコトヲ要ス
一　株金ノ拂込金額ヲ證スル書面
二　債券原簿
三　主務省ノ認許書又ハ其認證アル謄本
四　債券ノ發行ニ關スル株主總會ノ決議錄
第百九十五條　第百八十七條第一項ノ規定ハ會社ノ資本ノ增加若クハ減少又ハ社債ノ登記及會社ノ解散又ハ會社ノ合併ニ因ル變更若クハ設立又ハ解散ノ登記ノ申請ヲ爲ス場合ニ

之ヲ準用ス

第七節　株式合資會社ノ登記

第百九十六條　株式合資會社ノ設立ノ登記ハ無限責任社員ノ全員及ヒ總監査役ノ申請ニ因リテ之ヲ爲ス

第百七十九條第二項及ヒ第百八十七條第二項ノ規定ハ前項ノ登記ノ申請ヲ爲ス場合ニ之ヲ準用ス

第百九十七條　支店ノ設立、本店又ハ支店ノ移轉其他變更ノ登記ハ會社ヲ代表スヘキ無限責任社員ノ全員ノ申請ニ因リテ之ヲ爲ス

前項ノ申請書ニハ株主總會ノ決議ヲ要スル場合ニ於テハ其決議錄ヲ添附スルコトヲ要ス

ル外第百八十條第二項ノ規定ヲ準用ス

第百九十八條　第百八十九條乃至第百九十六條第一項及ヒ第百九十七條第一項ノ規定ハ資本ノ增減ノ登記ニ之ヲ準用ス

無限責任社員又ハ監査役ノ氏、名若クハ住所ノ變更ノ登記ハ會社ヲ代表スヘキ無限責任社員ノ申請ニ因リテ之ヲ爲スヘシ

第百九十九條　第百八十九條乃至第百九十六條第一項ノ規定ハ會社ノ合併ニ因ル變更又ハ設立ノ登記ノ申請ヲ爲ス場合ニ之ヲ準用ス

加若クハ減少又ハ社債ノ登記ノ申請ヲ爲ス場合ニ之ヲ準用ス

第百九十九條　第百九十六條第一項ノ規定ハ會社ノ合併ニ因ル變更又ハ設立ノ登記ノ申請ヲ爲ス場合ニ之ヲ準用ス

第二百條　株式合資會社ノ解散登記ハ無限責任社員ノ全員又ハ其相續人及總監査役ノ申請ニ因リテ之ヲ爲ス但無限責任社員ノ全員カ退社シタル場合ニ於テハ解散ノ登記ハ無限責任社員又ハ其相續人ノ申請ニ因リテ之ヲ爲ス

任社員又ハ其相續人ノ申請ニ因リテ之ヲ爲スヘシ

申請書ニハ解散ノ事由ヲ證スル書面ヲ添附シ且無限責任社員ノ同意及株主總會ノ決議ニ

因リ又ハ會社ノ合併ニ因リテ解散シタルトキハ之ニ關スル株主總會ノ決議錄ヲ添附スルコトヲ要ス

第百八十二條第二項ノ規定ハ會社ノ合併ニ因ル解散ノ登記ノ申請ヲ爲ス場合ニ之ヲ準用ス

會社カ裁判所ノ命令ニ因リテ解散シタルトキハ登記所ノ囑託ニ因リテ其登記ヲ爲スヘシ

第二百一條　株式合資會社ノ組織ヲ變更シ株式會社ト爲リタル場合ニ於ケル設立ノ登記ハ設立シタル株式會社ノ總取締役及ヒ總監査役ノ申請ニ因リテ之ヲ爲ス

申請書ニハ會社ノ組織ノ變更ニ關スル株主總會ノ決議錄ヲ添附スルコトヲ要ス

第百八十二條第二項及ヒ第百八十七條第二項ノ規定ハ本條第一項ノ登記ノ申請ヲ爲ス場合ニ之ヲ準用ス

前三項ノ規定ハ商法第二百四十七條ノ規定ニ從テ會社ヲ繼續スル場合ニ之ヲ準用ス

第八節　外國會社ノ登記

第二百二條　外國會社カ日本ニ支店ヲ設ケタル場合ニ於テ其登記ヲ申請スルトキハ會社ノ代表者ハ申請書ニ支店ノ代表者ノ氏名住所ヲ記載シ且左ノ書面ヲ添附スルコトヲ要ス

一　本店ノ存在ヲ認ムルニ足ル書面

二　代表者タル資格ヲ證スル書面

三　會社ノ定款又ハ會社ノ性質ヲ識別スルニ足ル書面

前項ノ書面ハ外國會社ノ本國ノ管轄官廳又ハ日本ニ在ル領事ノ認證ヲ受ケタルモノナルコトヲ要ス

第二百三條　日本ニ於テ登記シタル外國會社ノ支店ノ代表者ニ變更アリタルトキハ現任代表者ハ管轄登記所ニ其届出ヲ爲スヘシ

前條ノ規定ハ前項ノ届出ヲ爲ス場合ニ之ヲ準用ス

第二百四條　外國會社ノ支店ノ廢止又ハ其登記事項ノ變更ノ登記ハ支店ノ代表者ノ申請ニ因リテ之ヲ爲ス

日本ニ於テ登記シタル外國會社支店ノ代表者カ外國ニ於テ生シタル登記事項ノ變更ニ付キ其登記ヲ申請スル場合ニ於テハ會社ノ本國ノ管轄官廳又ハ日本ニ在ル領事ノ認證アル書面ニ依リテ變更ノ事實ヲ證明スルコトヲ要ス

第二百五條　（削除）

第二百六條　民法第八十四條、第千百七條及ヒ民法施行法第二十二條及ヒ商法第十八條第二項、第二百六十一條、第二百六十二條、第五百三十六條及ヒ商法施行法第十一條第二項、第二十七條、第三十九條第二項、第五十四條、第六十條第二項、第六十九條、第七十五條第三項、第八十七條、第九十五條第三項ニ定メタル事件ハ過料ニ處セラルヘキ者ノ住所地ノ地方裁判所ノ管轄トス

第二百七條　過料ノ裁判ハ理由ヲ附シタル決定ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

裁判所ハ裁判ヲ爲ス前當事者ノ陳述ヲ聽キ檢事ノ意見ヲ求ムヘシ

當事者及ヒ檢事ハ過料ノ裁判ニ對シテ即時抗告ヲ爲スコトヲ得抗告ハ執行停止ノ效力ヲ有ス

手續ノ費用ハ過料ニ處スル言渡アリタル場合ニ於テハ其言渡ヲ受ケタル者ノ負擔トシ其他ノ場合ニ於テハ國庫ノ負擔トス

抗告裁判所カ當事者ノ申立ニ相當スル裁判ヲ爲シタルトキハ抗告手續ノ費用及ヒ前審ニ於テ當事者ノ負擔ニ歸シタル費用ハ國庫ノ負擔トス

第二百八條　過料ノ裁判ハ檢事ノ命令ヲ以テ之ヲ執行ス此命令ハ執行力ヲ有スル債務名義ト同一ノ效力ヲ有ス

過料ノ裁判ノ執行ハ民事訴訟法第六編ノ規定ニ從ヒテ之ヲ爲ス但執行ヲ爲ス前裁判ノ送達ヲ爲スコトヲ要セス

第二百九條　非訟事件手續法其他從前ノ法令ニシテ本法ノ規定ト抵觸シ又ハ重複スルモノハ本法施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

本法施行前ニ裁判所カ申立ヲ受ケ又ハ著手シタル事件ハ舊法令ニ依ル

第二百九條ノ二　外國人ニ關スル非訟事件手續ニシテ條約ニ因リ特ニ定ムルコトヲ要スルモノハ司法大臣之ヲ定ム

第二百十條　本法ハ民法及ヒ商法ノ施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第二章　附屬法令

◉非訟事件手續法ニ依リ謄本又ハ抄本ノ交付ヲ申請スル者ノ納ムヘキ手數料ニ關スル件

明治三十一年七月司法省令第十號

第一條　非訟事件手續法第四十二條第一項及ヒ第五十七條第一項ニ依リ謄本ノ交付ヲ申請スル者ハ其謄本一枚ニ付キ手數料金拾錢ヲ納ムヘシ但一行二十字詰二十行以下十一行以上ハ一枚トシ十行以下ハ半紙トス

第二條　同法第百二十五條ニ依リ法人及ヒ夫婦財産契約登記簿ノ謄本又ハ抄本ハ交付ヲ申請スル者ハ其用紙一枚ニ付手數料金拾錢ヲ納ムヘシ

但一枚ニ滿タサルモノト雖モ仍ホ之ニ一枚ニ計算ス

第三條　手數料ハ登記印紙ヲ申請書ニ貼附シテ之ヲ納ムヘシ

◎商事非訟事件印紙法

明治二十三年八月法律第六十六號

朕商事非訟事件印紙法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム此法律ハ明治二十四年一月一日ヨリ施行スヘキコトヲ命ス

商事非訟事件印紙法

第一條　商法中登記ニ關ル場合ヲ除ク外非訟事件ニ付裁判所ノ命令其他ノ處分ヲ求ムル者ハ以下數條ノ手續ニ從ヒ其差出ス書類ニ民事訴訟用印紙ヲ貼用ス可シ但口述ヲ以テスル場合ニ於テハ其調書ニ印紙ヲ貼用ス可シ

第二條　左ニ掲クルモノニ付テハ五十錢ノ印紙ヲ貼用ス可シ

第五條第六條第七條ノ場合ニ於テハ管財人ヨリ差出ス計算書ニ印紙ヲ貼用ス可シ

一　抗告又ハ假差押ノ申立

二　債權者ヨリ爲ス破產宣告ノ申立

三　支拂猶豫ノ申立

第三條　左ニ掲クルモノニ付テハ二十錢ノ印紙ヲ貼用ス可シ

一　抗告ニ對スル答辯

二　裁判所ノ命令其他ノ處分ノ申立ニシテ本法ニ於テ特ニ規定セサル非訟事件ニ係ルモノ

第四條　破產手續ニ付テハ破產財團中ノ貸方金額ニ應シ左ノ區別ニ從ヒ印紙ヲ貼用ス可シ但財團管理費用其他破產手續上ノ費用及ヒ財團ノ爲ニ負擔シタル債務竝ニ別除ノ辨濟ニ供スル金額ハ貸方金額ヨリ之ヲ控除ス可キモノトス

財團ノ假額五圓マテ	四十錢
同　十圓マテ	六十錢
同　二十圓マテ	一圓二十錢
同　五十圓マテ	三圓
同　七十五圓マテ	四圓四十錢

同　百圓マテ　六圓
同　二百五十圓マテ　十三圓
同　五百圓マテ　二十圓
同　七百五十圓マテ　二十六圓
同　千圓マテ　三十圓
同　二千五百圓マテ　四十圓
同　五千圓マテ　五十圓
同　五千圓以上ハ千圓ニ達スル毎ニ四圓ヲ加フ

第五條　破産手續ニ付テハ財團ノ配當アル毎ニ其配當金額ノ割合ヲ以テ印紙價額ニ相當スル金額ヲ引去リ置キ終局計算ニ至リ配當金總高ノ割合ニ從ヒ相當印紙ヲ貼用ス可シ

第六條　協諧契約ニ依リ手續ヲ止メタルトキハ第四條ニ掲ケタル印紙ノ半額ヲ貼用ス可シ

第七條　破産手續再施ノ場合ニ於テハ破産手續開始ニ於ケル場合ト同一ノ印紙ヲ貼用ス可シ

第八條　本法ニ定ムル印紙代價ノ負擔ニ付テハ民事訴訟法第一編第二章第五節ノ規定ヲ準用ス

民事訴訟用印紙法ハ本法ノ規定ニ牴觸セサルモノニ限リ之ヲ準用ス

第三編　戸籍、國籍

第一章　戸籍及寄留

第一節　戸籍

◉戸籍法　明治三十一年六月法律第十二號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル戸籍法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

戸籍法

第一章　戸籍吏及ヒ戸籍役場
第二章　身分登記簿
第三章　登記手續
第四章　身分ニ關スル屆出
第一節　通則
第二節　出生
第三節　嫡出子否認
第四節　私生子認知
第五節　養子緣組
第六節　養子離緣
第七節　婚姻

第八節　離婚
第九節　後見
第十節　隠居
第十一節　失踪
第十二節　死亡
第十三節　家督相續
第十四節　推定家督相續人ノ廢除
第十五節　家督相續人ノ指定
第十六節　入籍、離籍及ヒ復籍拒絶
第十七節　廢家及ヒ絶家
第十八節　分家及ヒ廢絶家再興
第十九節　國籍ノ得喪
第二十節　氏名及ヒ族稱ノ變更
第二十一節　身分登記ノ變更
第五章　戸籍簿
第六章　戸籍ノ記載手續
第七章　戸籍ニ關スル届出
第八章　抗告
第九章　罰則
附則

第一章　戸籍吏及ヒ戸籍役場

第一條　戸籍及ヒ身分登記ニ關スル事務ハ戸籍吏之ヲ管掌シ戸籍役場ニ於テ之ヲ取扱フ

第二條　市町村長ヲ以テ戸籍吏トス但區ヲ置キタル市ニ於テハ區長ヲ以テ之ニ充ツルコトヲ得

第三條　戸籍吏又ハ之ト家ヲ同シクスル者ノ戸籍吏又ハ身分登記ニ關スル事務ハ戸籍役場ノ職務ヲ行フ

村長又ハ區長ノ事務ヲ代理スヘキ者戸籍吏ノ規定ニ依リ戸籍吏ノ職務ヲ行フヘキ者又ハ之ト家ヲ同シクスル者ト前項ノ規定ニ依リ戸籍吏ノ職務ヲ行フ

戸籍吏又ハ之ト家ヲ同シクスル者ト前項ノ規定ニ關スル事件ニ付テハ市ニ在リテハ市參事會

第四條　戸籍役場ハ市役所又ハ町村役場ヲ以テ之ニ充ツ但區長ヲ以テ戸籍吏ニ充ツル場合ニ於テハ區役所ヲ以テ之ニ充ツ

第五條　戸籍及ヒ身分登記ニ關スル事務ハ戸籍役場ノ所在地ヲ管轄スル區裁判所ノ一人ノ判事又ハ監督判事之ヲ監督ス

戸籍及ヒ身分登記ニ關スル事務ノ監督ニ付テハ司法行政ノ監督ニ關スル規定ヲ準用ス

第六條　戸籍吏カ其職務ノ執行ニ付キ届出人其他ノ者ニ損害ヲ加ヘタルトキハ其損害カ戸籍吏ノ故意又ハ重大ナル過失ニ因リテ生シタル場合ニ限リ之ヲ賠償スル責ニ任ス

第二章　身分登記簿

第七條　身分登記簿ハ本籍人身分登記簿及ヒ非本籍人身分登記簿ノ二種トシ各正副二本ヲ備フ

各種ノ登記簿ハ第四章第二節乃至第二十一節ニ掲ケタル届出事件ノ區別ニ從ヒ各別冊ト爲スヘキ帳簿ヲ作リ監督官ノ契印ヲ請フコトヲ爲ス但便宜ニ依リ之ヲ合綴スルコトヲ得

第八條　身分登記簿ハ一年毎ニ之ヲ編製ス

第九條　戸籍吏ハ豫メ翌年ノ身分登記簿ト爲スヘキ帳簿ヲ作リ監督官ノ契印ヲ請フコトヲ要ス

監督官カ帳簿ノ送付ヲ受ケタルトキハ職印ヲ以テ每葉ノ綴目ニ契印シ表紙ノ裏面ニ其枚數ヲ記シ職氏名ヲ署シ職印ヲ押捺シテ之ヲ戸籍吏ニ還付スルコトヲ要ス

第十條　身分登記簿ハ戸籍吏ハ更ニ帳簿ヲ作リテ契印ヲ請フコトヲ要ス

身分登記簿ノ用紙カ不足ナルトキハ戸籍役場ニ保存スルコトヲ要ス

第十一條　身分登記簿ノ正本ハ永久ニ之ヲ戸籍役場ニ保存スルコトヲ要ス

登記ヲ終結シタル身分登記簿ノ副本ヲ永久ニ保存スルコトヲ要ス

地方裁判所ハ其納付ヲ受ケタル身分登記簿ノ閲覽又ハ登記ノ謄本若クハ抄本ノ交付ヲ請求スル場合ヲ除ク外之ヲ戸籍役場外ニ持出スコトヲ得ス

第十二條　身分登記簿ニ事變ヲ避クル爲メニ必要ナク之ヲ監督區裁判所ヲ管轄スル地方裁判所ニ納付スルコトヲ要ス

身分登記簿ノ正本ヲ永久ニ保存スルコトヲ要ス

地方裁判所ハ其納付ヲ受ケタル身分登記簿ノ閲覽又ハ登記ノ謄本若クハ抄本ノ交付ヲ請求スル場合ヲ除ク外之ヲ戸籍役場外ニ持出スコトヲ得ス

第十三條　何人ト雖モ手數料ヲ納付シテ身分登記簿ノ閲覽又ハ登記ノ謄本若クハ抄本ノ交付ヲ請求スルコトヲ得

謄本又ハ抄本ノ交付ヲ請求スル者アルトキハ戸籍吏之ヲ作リ原本ト相違ナキ旨ヲ附記シ職氏名ヲ署シ職印ヲ押捺シテ之ヲ交付スルコトヲ要ス

手數料ノ外郵送料ヲ納付シテ謄本又ハ抄本ノ交付ヲ請求スル者アルトキハ戸籍吏之ヲ送付スルコトヲ要ス

戸籍吏カ閲覽又ハ交付ノ請求ヲ許ササル場合ニ於テハ書面ヲ以テ其旨ヲ請求者ニ告知スルコトヲ要ス

第十四條　身分登記簿ノ全部又ハ一部カ滅失シタルトキハ司法大臣ハ其旨ヲ告示シ且身分登記簿ノ再製又ハ補完ニ付キ必要ナル處分ヲ命スルコトヲ要ス

第三章　登記手續

第十五條　身分登記ハ左ノ場合ニ於テ之ヲ爲ス

一　戸籍吏カ身分ニ關スル届出ヲ受ケ又ハ其届書ノ送付ヲ受ケタルトキ

二　戸籍吏カ身分ニ關スル報告ヲ受ケ又ハ其謄本ノ送付ヲ受ケタルトキ

三　戸籍吏カ身分ニ關スル證書ノ謄本ヲ受ケタル航海日誌ノ謄本ノ送付ヲ受ケタルトキ

四　戸籍吏カ身分ニ關スル事項ヲ記載シタル謄本ノ交付ヲ請求スル者アルトキハ戸籍吏之ヲ送付スルコトヲ要ス

五　戸籍吏カ登記ノ取消又ハ變更ノ申請若クハ請求ヲ受ケタルトキ

六　戸籍吏カ登記ヲ爲スヘキ旨ノ裁判ヲ受ケタルトキ

第十六條　前條ニ掲ケタル場合ト雖モ届出、送付其他ノ手續カ本法ノ規定ニ依リタルモノニ非サレハ登記ヲ爲スコトヲ得ス

第十七條　登記ハ法律ニ特別ノ規定アル場合ヲ除ク外之ヲ取消シ又ハ之ヲ變更スルコトヲ得ス

第十八條　戸籍吏カ届出、報告其他登記ニ關スル書類ヲ受理シタルトキハ其書類ニ受附ノ番號及ヒ年月日ヲ記載シ遲滯ナク登記ノ手續ヲ爲スコトヲ要ス

第十九條　登記ハ本籍人、非本籍人及ヒ登記ヲ爲スヘキ事件ノ區別ニ從ヒ相當ノ登記簿ニ之ヲ爲スコトヲ要ス

第二十條　被登記者ノ本籍カ届出其他ノ事由ニ因リ戸籍吏ノ管轄ニ歸シ又ハ其管轄ヲ離ルル場合ニ於テハ本籍人身分登記簿ニ登記ヲ爲スコトヲ要ス

一箇ノ登記ニシテ本籍人及ヒ非本籍人ニ關スルトキハ同時ニ本籍人身分登記簿及ヒ非本籍人身分登記簿ニ登記ヲ爲シ各登記ノ欄外ニ交互參看ノ符號ヲ附記スルコトヲ要ス

第二十一條　被登記者ノ本籍カ分明ナラサルトキハ非本籍人身分登記簿ニ登記ヲ爲スコトヲ要ス

第二十二條　登記ニハ第四章ノ規定ニ依リ届出、報告、申請若クハ請求ヲ爲シ又ハ航海日誌ノ謄本ニ記載シタル事項ヲ記載スルコトヲ要ス

證書ノ謄本ニ依リテ爲ス登記ニハ其謄本ニ記載シタル事項ヲ記載スルコトヲ要ス

裁判ニ依リテ爲ス登記ニハ其裁判ヲ以テ命セラレタル登記事項ヲ記載スルコトヲ要ス

第二十三條　登記ヲ爲スヘキ事實カ第四章第二節乃至第二十一節ニ掲ケタル届出事件ノ二箇以上ニ渉ルトキハ各別ニ登記ヲ爲スコトヲ要ス

前項ノ登記ニハ各登記ニ付キ必要ナル事項ノミヲ記載シ各登記ノ欄外ニ交互參看ノ符號ヲ附記スルコトヲ要ス

第二十四條　登記取消ノ登記ハ取消ノ申請又ハ請求ノ目的タル登記ノ欄外ニ之ヲ爲シ原登記ヲ抹消スルコトヲ要ス

第二十五條　登記變更ノ登記ハ其目的タル登記ノ欄外ニ之ヲ爲シ且其申請ノ基本タル裁判ノ趣旨ニ從ヒテ原登記ヲ變更スルコトヲ要ス

第二十六條　本籍分明ナラサル者ノ登記ヲ爲シタル後其者ノ本籍カ分明ト爲リタル旨ノ届出又ハ報告アリタルトキハ原登記ノ欄外ニ其登記ヲ爲スコトヲ要ス

本籍分明ト爲リタル者カ本籍人ナリシトキハ前項ノ規定ニ依ラス更ニ本籍人身分登記簿ニ登記ヲ爲シ其登記及ヒ前登記ノ欄外ニ交互參看ノ符號ヲ附記スルコトヲ要ス

前二項ノ登記ヲ爲シタル後其者ノ本籍ニ付キ更ニ届出又ハ報告アリタルトキハ届出又ハ報告アリタルコト及ヒ其年月日ヲ登記ノ欄外ニ記載スルヲ以テ足ル

第二十七條　日本ノ國籍ヲ失ヒタル者カ國籍喪失ノ届出ヲ爲ササリシトキハ戸籍吏ハ戸籍役場ノ所在地ヲ管轄スル區裁判所ノ許可ヲ得テ國籍喪失ノ登記ヲ爲スコトヲ要ス

第二十八條　登記ニハ第二十二條ニ規定シタルモノノ外左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

一　届出又ハ申請ノ受附ノ年月日但他ノ戸籍吏又ハ官廳ヨリ届書ノ送付ヲ受ケタル場合ニ於テハ發送者ノ官職、氏名及ヒ發送ノ年月日ヲ併記スルコトヲ要ス

二　報告又ハ請求ノ發送及ヒ受附ノ年月日並ニ報告者又ハ請求者ノ官職、氏名

三　證書又ハ航海日誌ノ謄本ノ發送及ヒ受附ノ年月日並ニ證書又ハ航海日誌ノ作製者及ヒ謄本發送者ノ官職、氏名

四　登記ヲ命シタル裁判ノ年月日及ヒ裁判所ノ名

第二十九條　登記ヲ爲スニハ略字又ハ符號ヲ用ヰス字畫明瞭ナルコトヲ要ス

年月日時及ヒ年齡ヲ記スル數字ニハ一二三十ノ字ヲ用ヰスシテ壹貳參拾ノ字ヲ用ユルコトヲ要ス

文字ハ之ヲ改竄スルコトヲ得ス若シ訂正、挿入又ハ削除ヲ爲シタルトキハ其字數ヲ欄外ニ記載シ又ハ文字ノ前後ニ括弧ヲ附シ戸籍吏之ニ認印シ其削除ニ係ル文字ハ倘ホ明カニ

讀得ヘキ爲メ字體ヲ存スルコトヲ要ス

第三十條　登記ハ特別ノ規定アル場合ヲ除ク外日次ヲ逐ヒ事件受附ノ順序ニ從ヒテ之ヲ爲シ一事件毎ニ番號ヲ附シ用紙ニ空行ヲ存セス前後ノ登記ヲ接續セシムルコトヲ要ス

第三十一條　戸籍吏ハ登記ヲ爲シタル毎ニ其文末ニ認印スルコトヲ要ス

第三十二條　欄外登記ヲ爲スヘキ場合ニ於テ用紙ニ餘白ナキトキハ掛紙ヲ以テ之ニ充ツルコトヲ得此場合ニ於テハ戸籍吏ハ職印ヲ以テ掛紙ト本紙トニ契印ヲ爲スコトヲ要ス

第三十三條　被登記者ノ本籍カ届出ニ因リテ戸籍吏ノ管轄ヨリ他ノ戸籍吏ノ管轄ニ轉屬スル場合ニ於テハ戸籍吏ハ登記ヲ爲シタル後遲滯ナク届書ノ正本ヲ新管轄ノ戸籍吏ニ送付スルコトヲ要ス

被登記者ノ本籍カ他ノ戸籍吏ノ管轄ヨリ戸籍吏ノ管轄ニ轉屬スル場合ニ於テハ戸籍吏ハ登記ヲ爲シタル後遲滯ナク届書ノ副本ヲ舊管轄ノ戸籍吏ニ送付スルコトヲ要ス

第三十四條　被登記者ノ本籍カ届出ヲ受ケタル戸籍吏ノ管轄以外ニ於テ一ノ戸籍吏ノ管轄ヨリ他ノ戸籍吏ノ管轄ニ轉屬スル場合ニ於テハ其届出ヲ受ケタル戸籍吏ハ登記ヲ爲シタル後遲滯ナク届書ノ正本ヲ新管轄ノ戸籍吏ニ送付シ其副本ノ一通ヲ舊管轄ノ戸籍吏ニ送付スルコトヲ要ス

第三十五條　前二條ノ場合ヲ除ク外被登記者ノ本籍カ戸籍吏ノ管轄ニ屬セサルトキハ戸籍吏ハ登記ヲ爲シタル後遲滯ナク届書ノ正本ヲ管轄戸籍吏ニ送付スルコトヲ要ス

第三十六條　第三十三條及ヒ第三十四條ノ規定ハ届出以外ノ事由ニ因リ被登記者ノ本籍カ移轉スル場合ニ之ヲ準用ス

前項ノ場合ニ於テハ戸籍吏ハ其受附ケタル書面ノ謄本ヲ作リ其謄本ヲ以テ届書ノ副本ニ代フルコトヲ要ス届出以外ノ事由ニ因リ登記ヲ爲シタル場合ニ於テ被登記者ノ本籍カ戸籍吏ノ管轄ニ屬セサルトキ亦同シ

第三十七條　登記ヲ爲シタルトキハ届書其他登記ニ關シテ受附ケタル書類ニ登記ノ番號及ヒ年月日ヲ記載シ登記簿ノ區別ニ從ヒ各別ニ之ヲ編綴シ且之ニ目錄ヲ附スルコトヲ要ス

第三十八條　前條ノ書類ハ一箇月毎ニ遲滯ナク之ヲ監督區裁判所ニ送付シ監督區裁判所ハ之ヲ保存スルコトヲ要ス

書類ヲ保存スヘキ期間ハ司法大臣之ヲ定ム

第三十九條　戸籍吏ハ登記ヲ爲シタル毎ニ登記ヲ爲スト同一ノ手續ニ依リ遲滯ナク其全文ヲ登記簿ノ副本ニ謄寫スルコトヲ要ス

登記簿ノ副本ヲ地方裁判所ニ送付シタル後欄外登記ヲ爲シタル場合ニ於テハ戸籍吏ハ遲滯ナク其登記ノ謄本ヲ作リ職氏名ヲ署シ職印ヲ押捺シテ之ヲ地方裁判所ニ送付スルコトヲ要ス

地方裁判所長ハ前項ノ規定ニ依リ送付ヲ受ケタル登記ノ謄本ヲ登記簿ノ副本中相當登記ノ欄外ニ貼付シ職印ヲ以テ謄本ト本紙トニ契印ヲ爲スコトヲ要ス

第四十條　登記ヲ爲シタル後其登記ニ付キ錯誤又ハ遺漏アルコトヲ發見シタルトキハ戸籍吏ハ遲滯ナク之ヲ届出人又ハ登記事件ノ本人ニ通知スルコトヲ要ス

第四十一條　戸籍吏ハ毎年末ニ於テ最終登記ノ次行ニ終結ノ旨ヲ記載シ職氏名ヲ署シ職印ヲ押捺スルコトヲ要ス

前項ノ規定ハ最終登記ヲ爲ス前登記簿ノ用紙ヲ用ヰ盡シタル場合ニ之ヲ準用ス

第四章　身分ニ關スル届出

第一節　通則

第四十二條　身分ニ關スル届出ハ其届出人ノ本籍地ノ戸籍吏ニ之ヲ爲スコトヲ要ス但其届出人カ本籍地外ニ在ル場合ニ於テハ其所在地ノ戸籍吏ニ届出ヲ爲スコトヲ得

第四十三條　届出人カ本籍ヲ有セサルトキハ其届出ニ關シテハ所在地ヲ以テ本籍地ト看做ス

届出人カ本籍ヲ有セサルトキハ届書ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ要ス但正當ノ事由アルトキハ届出人ハ戸籍吏ニ其理由ヲ陳述シ口頭ニテ届出ヲ爲スコトヲ得

第四十四條　届書ニハ左ノ事項ヲ記載シ届出人之ニ署名捺印スルコトヲ要ス

一　届出事件

二　届出ノ年月日

三　届出人ノ族稱、職業、出生ノ年月日及ヒ本籍地

第四十五條　届出人ト届出事件ノ本人トノ關係ヲ記載スルコトヲ要ス

届出人カ家族ナルトキハ届書ニ戸主ノ氏名及ヒ届出人トノ續柄ヲ記載スルコトヲ要ス

第四十六條　届出ヲ爲スヘキ者カ未成年者又ハ禁治産者ナルトキハ親權ヲ行フ者又ハ後見人ヲ以テ届出義務者トス

前項ノ場合ニ於テハ届出人ハ届書ニ左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

一　届出ヲ爲スヘキ者ノ氏名、族稱、出生ノ年月日及ヒ本籍地

二　無能力ノ原因

三　届出人カ親權ヲ行フ者又ハ後見人ナルコト

第四十七條　前條ノ規定ハ無能力者カ其法定代理人ノ同意ヲ得スシテ爲スコトヲ得ヘキ行爲ノ届出ニ之ヲ準用ス

禁治産者カ届出ヲ爲ス場合ニ於テハ届書ニ届出人カ届出事件ノ性質及ヒ效果ヲ理會スルニ足ルヘキ能力ヲ有スル者ナルコトヲ證スヘキ醫師ノ診斷書ヲ添フルコトヲ要ス

第四十八條　證人ヲ要スル事件ノ届出ニ付テハ證人ハ届書ニ其證人タルコト、出生ノ年月日、職業及ヒ本籍地ヲ記載シテ署名、捺印スルコトヲ要ス

第四十九條　届出人、届出事件ノ本人又ハ届出ノ證人カ本籍地外ニ在ルトキハ届書ニ其所在地ヲ記載スルコトヲ要ス

第五十條　本法ノ規定ニ依リ届書ニ記載スヘキ事項中其事實ノ存セサルモノ又ハ知レサルモノアルトキハ其旨ヲ記載スルコトヲ要ス但戸籍吏ハ各届出事件ニ付キ特ニ重要ト認ムル事項ヲ記載セサル届書ヲ受理スルコトヲ得ス

第五十一條　届書ニハ本法其他ノ法令ニ定メタル事項ニ非サレハ之ヲ記載スルコトヲ得ス

第五十二條　第二十九條ノ規定ハ届書ノ記載ニ之ヲ準用ス

第五十三條　本籍地ノ戸籍吏ノ管轄地外ニ於テ届出ヲ爲ストキハ届書ハ正副二本ヲ作ルコトヲ要ス

届出ニ因リ一人又ハ數人ノ本籍カ一ノ家ヨリ他ノ家ニ移轉スル場合ニ於テ兩家ノ本籍地カ戸籍吏ノ管轄ヲ異ニスルトキハ届書ハ正副二本ヲ作リ届出地ト兩家ノ本籍地トカ各戸籍吏ノ管轄ヲ異ニスルトキハ正本一通副本二通ヲ作ルコトヲ要ス

第五十四條　口頭ヲ以テ届出ヲ爲スニハ届出人ハ戸籍吏ノ面前ニ出頭シ其届出事件ヲ陳述

シ戸籍吏ハ直ニ其口述並ニ届出ノ年月日、届出人ノ氏名、出生ノ年月日、職業及ヒ本籍地ヲ筆記シ之ヲ届出人ニ読聞カセ且届出人ナシテ之ニ署名、捺印セシムルコトヲ要ス

第五十五條　前條ノ規定ニ依リテ戸籍吏カ作ルヘキ書面ニハ届書ニ関スル規定ヲ準用ス

第五十六條　第四十三條第五十四條及ヒ前條ノ規定ハ届出事件ニ関スル同意、承諾又ハ承認ノ證明ニ之ヲ準用ス

第五十七條　本法ニ別段ノ規定アル場合ノ外法令ノ規定ニ依リ届出事件ニ付キ官庁ノ許可ヲ要スルトキハ届出人ハ届書ニ許可書ノ謄本ヲ添フルコトヲ要ス

第五十八條　届出人カ疾病其他ノ事故ニ因リ自ラ戸籍吏ノ面前ニ出頭スルコト能ハサルトキハ代理人ヲ差出スコトヲ得

第五十九條　外國ニ在ル日本人ハ本法ノ規定ニ従ヒ其國ニ駐在スル日本ノ公使又ハ領事ニ届出ヲ為スコトヲ得

第六十條　外國ニ在ル日本人カ其國ノ法式ニ従ヒ届出事件ニ関スル證書ヲ作ラシメタルトキハ三箇月内ニ其國ニ駐在スル日本ノ公使又ハ領事ニ其證書ノ謄本ヲ差出スコトヲ要ス

日本ノ公使又ハ領事カ其國ニ駐在セサルトキハ本人歸國ノ後一箇月内ニ本籍地ノ戸籍吏ニ證書ノ謄本ヲ差出スコトヲ要ス

第六十一條　前二條ノ規定ニ依リテ公使又ハ領事ヨリ三箇月内ニ之ヲ外務大臣ニ發送シ外務大臣ハ十日内ニ之ヲ本人ノ本籍地ノ戸籍吏ニ發送スルコトヲ要ス

第六十二條　本法ニ定メタル届出期間ハ届出事件ノ發生シタル日ヨリ之ヲ起算ス

裁判確定ノ日ヨリ期間ヲ起算スヘキ場合ニ於テ届出義務者カ裁判ノ送達又ハ交付ヲ受ケタル前裁判カ確定シタルトキハ其送達又ハ交付ヲ受ケタル日ヨリ之ヲ起算ス

第六十三條　本法ノ規定ニ依リ期間内ニ為スヘキ届出ヲ怠リタル為メ過料ニ處セラレタル者アルトキハ裁判所ハ運滯ナク其者カ届出ヲ為スヘキ地ノ戸籍吏ニ之ヲ通知スルコトヲ要ス但戸籍吏カ前項ノ通知ヲ受ケタルトキハ届出義務者ニ對シ相當ノ期間ヲ定メ其期間内ニ届出ヲ為スヘキ旨ヲ催告スルコトヲ要ス

第六十四條　戸籍吏カ其管轄内ニ本法ノ規定ニ違反シテ届出ヲ為ササル者アルコトヲ知リタルトキハ運滯ナク之ヲ其事件ノ管轄裁判所ニ通知スルコトヲ要ス

第六十五條　届出期間ヲ經過シタル後ニ届出ヲ為シタル場合ト雖モ戸籍吏ハ其届出ヲ受理スルコトヲ得

第六十六條　届出人ハ手數料ヲ納付シテ届出受理ノ證明書ヲ請求スルコトヲ得

第六十七條　届出ニ関スル規定ハ登記ノ取消又ハ變更ノ申請ニ之ヲ準用ス

第二節　出生

第六十八條　子ノ出生アリタルトキハ十日内ニ左ノ諸件ヲ具シテ之ヲ届出ツルコトヲ要ス

一　子ノ名及ヒ男女ノ別

二　子カ私生子ナルトキ又ハ出生前ニ認知セラレタル為メ庶子ト為リタル者ナルトキハ其旨

三　出生ノ年月日時及ヒ場所
四　父母ノ氏名、族稱、職業及ヒ本籍地但私生子ノ届出ニ付テハ母ノ氏名、族稱、職業及ヒ本籍地ノミヲ記載スルコトヲ要ス
五　出生子ノ入ルヘキ家ノ戸主ノ氏名、族稱、職業及ヒ本籍地
六　出生子カ一家ヲ創立スル者ナルトキハ其旨及ヒ創立ノ原因
七　國籍ヲ有セサル者ノ子ナルトキハ其旨

第六十九條　嫡出子出生ノ届出ハ出生地又ハ父母ノ本籍地若クハ寄留地ノ戸籍吏ニ之ヲ爲スコトヲ要ス

庶子出生ノ届出ハ出生地又ハ父ノ本籍地若クハ寄留地ノ戸籍吏ニ爲スコトヲ要ス但庶子カ父ノ家ニ入ルコトヲ得サル場合ハ此限ニ在ラス
私生子又ハ父ノ家ニ入ルコトヲ得サル庶子ノ出生ノ届出ハ出生地又ハ母ノ本籍地若クハ寄留地ノ戸籍吏ニ之ヲ爲スコトヲ要ス

第七十條　汽車又ハ航海日記ヲ備ヘサル船舶中ニテ出生アリタル場合ニ於テハ其届出ニ付テノ到着地ヲ以テ出生地　看做ス

第七十一條　嫡出子出生ノ届出ハ父ヨリ之ヲ爲シ父カ届出ヲ爲スコト能ハサル場合及ヒ民法第七百三十　條第一項、第二項但書ノ場合ニ於テハ母ヨリ之ヲ爲スコトヲ要ス
庶子出生ノ届出ハ父ヨリ之ヲ爲シ私生子出生ノ届出ハ母ヨリ之ヲ爲スコトヲ要ス
前二項ニ掲ケタル者ヨリ届出ヲ爲スコト能ハサル場合ニ於テハ左ニ掲ケタル者ハ其順序ニ從ヒ届出ヲ爲ス義務ヲ負フ

第一　戸主
第二　同居者
第三　分娩ニ立會ヒタル醫師又ハ産婆
第四　分娩ヲ介抱シタル者

同順位ノ届出義務者數人アルトキハ其中ノ一人ヨリ届出ヲ爲スヲ以テ足ル

第七十二條　夫ハ妻ノ子ノ嫡出ナルコトヲ否認セントスル場合ト雖モ前條第一項ノ規定ニ依リ出生ノ届出ヲ爲スコトヲ要ス

第七十三條　民法第八百二十一條ノ規定ニ依リ裁判所カ出生子ノ父ヲ定ムヘキトキハ出生ノ届出ハ母ヨリ之ヲ爲スコトヲ要ス此場合ニ於テハ其届書ニ父ノ未定ナル事由ヲ記載スルコトヲ要ス

父カ裁判ニ依リテ定マリタルトキハ其父ハ裁判確定ノ日ヨリ一箇月内ニ第六十八條ニ掲ケタル諸件ヲ具シ裁判ノ謄本ヲ添ヘテ届出ヲ爲シ且第一項ノ届出ニ依リテ爲シタル登記ノ取消ヲ申請スルコトヲ要ス

第七十四條　病院、監獄其他ノ公設所ニ於テ子ノ出生アリタル場合ニ於テ父又ハ母ヨリ届出ヲ爲スコト能ハサルトキハ病院、監獄又ハ其他ノ公設所ノ長若クハ管理人ヨリ出生ノ届出ヲ爲スコトヲ要ス

第七十五條　棄兒ヲ發見シタル者ハ二十四時内ニ其旨ヲ戸籍吏ニ届出ツルコトヲ要ス
棄兒發見ノ要出アリタルトキハ戸籍吏ハ其兒ニ氏名ヲ命シ且之ニ附屬スル衣服、物品、發見ノ場所、年月日時其他ノ景況竝ニ其兒ノ出生ノ推定年月、氏名、男女ノ別、引受人ノ氏名、職業、本籍地及ヒ所在地又ハ責兒院ノ稱號竝ニ場所及ヒ引渡ノ年月日ヲ調書ニ記載シテ之ヲ届書ニ添ヘ置クコトヲ要ス

引受人又ハ育兒院ニ變換アリタルトキハ雙方ヨリ十日内ニ其旨ヲ届出ツルコトヲ要ス

第二項ノ調書ハ登記ニ付テハ之ヲ届書ト看做ス

第七十六條 棄兒ノ父又ハ母カ現出シテ其兒ヲ引取ルトキハ一箇月内ニ第六十八條ノ届出ヲ爲シ且棄兒發見ノ登記ノ取消ヲ申請スルコトヲ要ス

第七十七條 出生又ハ棄兒發見ノ届出ヲ爲ササル前出生子又ハ棄兒カ死亡シタルトキハ出生又ハ棄兒發見及ヒ死亡ノ届出ヲ爲スコトヲ要ス

第七十八條 航海中ニ子ノ出生アリタルトキハ艦長又ハ船長ハ二十四時内ニ乘船者中ヨリ選ミタル證人ノ前ニ於テ第六十八條ニ掲ケタル諸件ヲ航海日誌ニ記載シ證人ト共ニ署名ノ捺印シ且證人ノ出生ノ年月日、職業及ヒ本籍地ヲ記載スルコトヲ要ス

前項ノ手續ヲ爲シタル後艦船カ日本ノ港ニ著シタルトキハ艦長又ハ船長ハ二十四時内ニ其出生ニ關スル航海日誌ノ謄本ヲ其地ノ戸籍吏ニ送付スルコトヲ要ス

艦船カ外國ノ港ニ著シタルトキハ艦長又ハ船長ハ遲滯ナク其出生ニ關スル航海日誌ノ謄本ヲ其國ニ駐在スル日本ノ公使又ハ領事ニ送付シ公使又ハ領事ハ三箇月内ニ之ヲ外務大臣ニ發送シ外務大臣ハ十日内ニ之ヲ父母ノ本籍地ノ戸籍吏ニ發送スルコトヲ要ス

第三節 嫡出子否認

第七十九條 嫡出子否認ノ裁判カ確定シタルトキハ否認者ハ裁判確定ノ日ヨリ一箇月内ニ左ノ諸件ヲ具シ裁判ノ謄本ヲ添ヘテ之ヲ届出テ且既ニ出生ノ登記ヲ爲シタル者ニ付テハ登記ノ變更ヲ申請スルコトヲ要ス

一 子ノ名及ヒ男女ノ別

二 出生ノ年月日

三 否認ノ裁判カ確定シタル年月日

第四節 私生子認知

第八十條 私生子認知ノ届書ニハ左ノ諸件ヲ記載スルコトヲ要ス

一 子ノ名及ヒ男女ノ別

二 出生ノ年月日

三 死亡シタル子ヲ認知スル場合ニ於テハ死亡ノ年月日

四 父カ認知ヲ爲ス場合ニ於テハ母ノ氏名、職業及ヒ本籍地

前項第四號ノ場合ニ於テ母カ家族ナルトキハ其戸主ノ氏名、職業、本籍地及ヒ其戸主ト母トノ續柄ヲ記載スルコトヲ要ス

第八十一條 民法第八百三十一條第一項ノ規定ニ依リテ認知ヲ爲ス場合ニ於テハ認知者ハ母ノ氏名、職業及ヒ本籍地ヲ具シテ其胎内ニ在ル子ヲ認知スル旨ヲ届出ツルコトヲ要ス

第八十二條 民法第八百三十條及ヒ第八百三十一條ノ規定ニ依リ子、母又ハ直系卑屬ノ承諾ヲ要スル場合ニ於テハ届出人ハ届書ニ承諾ノ證書ヲ添ヘ又ハ承諾ヲ爲シタル者ヲシテ届書ニ承諾ノ旨ヲ附記シ之ニ署名捺印セシムルコトヲ要ス

第八十三條 遺言ニ依リテ認知ヲ爲シタル場合ニ於テハ遺言域行者ハ遺言カ效力ヲ生シタル日ヨリ十日内ニ其認知ニ關スル遺言ノ謄本ヲ添ヘ前三條ノ規定ニ從ヒテ之ヲ届出ツルコトヲ要ス

遺言ニ依ル認知ノ届書ニハ認知者ノ死亡ノ年月日ヲ記載スルコトヲ要ス

第八十四條 胎内ニテ認知セラレタル子カ死體ニテ分娩シタルトキハ出生届出義務者ハ其事實ヲ知リタル日ヨリ一箇月内ニ認知ノ登記ノ取消ヲ申請スルコトヲ要ス但遺言執行者

カ認知ノ届出ヲ爲シタル場合ニ於テハ遺言執行者ヨリ登記ノ取消ヲ申請スルコトヲ要ス

第五節　養子縁組

第八十五條　縁組ノ本書ニハ左ノ諸件ヲ記載スルコトヲ要ス

一　當事者ノ氏名、出生ノ年月日、職業及ヒ本籍地

二　養子ノ實父母ノ氏名、職業及ヒ本籍地

三　當事者カ家族ナルトキハ戸主ノ氏名、職業及ヒ本籍地

養子カ婚家又ハ養家ヨリ更ニ縁組ニ因リテ他家ニ入ル場合ニ於テハ前項ニ揭ケタル事項ノ外婚家ノ戸主又ハ前養親ノ氏名、職業及ヒ本籍地ヲ記載スルコトヲ要ス

第八十六條　民法第八百四十三條乃至第八百四十六條ノ規定ニ依リテ縁組ノ承諾ヲ爲シタル者ハ養子ニ代ハリテ縁組ノ届出ヲ爲スコトヲ要ス

第八十七條　民法第七百四十一條第一項、第七百五十條第一項、第八百四十一條第二項及ヒ第八百四十三條乃至第八百四十六條ノ規定ニ依リ戸主、父母、配偶者、後見人又ハ親族會ノ同意ヲ要スル場合ニ於テハ届出人ハ届書ニ同意ノ證書ヲ添ヘ又ハ同意ヲ爲シタル者ヲシテ届書ニ同意ノ旨ヲ附記シ之ニ署名捺印セシムルコトヲ要ス

第八十八條　民法第八百四十二條ノ規定ニ依リ配偶者ノ一方カ雙方ノ名義ヲ以テ縁組ヲ爲ス場合ニ於テハ届出人ハ届書ニ其事由ヲ記載スルコトヲ要ス

第八十九條　民法第八百四十八條ノ規定ニ依リ縁組ノ届出ヲ爲ストキハ届書ニ第八十五條ニ揭ケタル諸件及ヒ遺言者ノ死亡ノ年月日ヲ記載シ且之ニ養子ニ關スル遺言ノ謄本ヲ添フルコトヲ要ス

第九十條　縁組ノ届出ハ養親ノ本籍地又ハ所在地ノ戸籍吏ニ之ヲ爲スコトヲ要ス

第九十一條　縁組カ無效ナルトキハ届出人ハ其無效ナル事由ノ證明書ヲ提出シテ登記ノ取消ヲ申請スルコトヲ要ス

第九十二條　縁組ノ無效又ハ取消ノ裁判カ確定シタルトキハ其訴ヲ提起シタル者ハ裁判確定ノ日ヨリ一箇月内ニ裁判ノ謄本ヲ提出シテ登記ノ取消ヲ申請スルコトヲ要ス

第九十三條　第八十五條及ヒ第八十七條乃至第八十九條ノ規定ハ縁組ノ届出ニハ之ヲ準用ス

第九十四條　第五十八條ノ規定ハ縁組ノ届出ニハ之ヲ適用セス

第六節　養子離縁

第九十五條　離縁ノ届書ニハ左ノ諸件ヲ記載スルコトヲ要ス

一　當事者ノ氏名、職業及ヒ本籍地

二　養子ノ實父母ノ氏名、職業及ヒ本籍地

三　當事者カ家族ナルトキハ戸主ノ氏名、職業及ヒ本籍地

四　縁組ノ年月日

五　離縁カ協議又ハ裁判ニ因ルコト

六　養子ノ妻カ養子ト共ニ養家ヲ去ルトキハ其旨及ヒ妻ノ名

七　養子カ復籍スヘキ家ノ戸主ノ氏名職業及ヒ本籍地

八　養子カ復籍スヘキ家ナキトキハ其事由

第九十六條　民法第八百六十二條第二項ノ規定ニ依リテ離縁ヲ爲ス場合ニ於テハ養親及ヒ養子ニ代ハリテ協議ヲ爲シタル者ヨリ届出ヲ爲スコトヲ要ス

第九十七條　民法第八百六十二條第三項ノ規定ニ依リテ離縁ヲ爲ス場合ニ於テハ養子ヨリ届出ヲ爲スヲ以テ足ル

第九十八條　民法第八百六十二條第三項及ヒ第八百六十三條ノ規定ニ依リ戸主、父母、後見人又ハ親族會ノ同意ヲ要スル場合ニ於テハ届出人ハ届書ニ同意ノ證書ヲ添ヘ又ハ同意ヲ爲シタル者ヲシテ届書ニ同意ノ旨ヲ附記シ之ニ署名、捺印セシムルコトヲ要ス

第九十九條　離縁ノ裁判カ確定シタルトキハ其謄本ヲ添ヘテ届出ヲ爲スコトヲ要ス

第百條　第九十五條及ヒ第九十八條ノ規定ハ口頭ヲ以テ届出ヲ爲ス場合ニ之ヲ準用ス

第百一條　第五十八條ノ規定ハ離縁ノ届出ニハ之ヲ適用セス

第七節　婚姻

第百二條　婚姻ノ届書ニハ左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

一　當事者ノ氏名、出生ノ年月日及ヒ本籍地

二　父母ノ氏名、職業及ヒ本籍地

三　當事者カ家族ナルトキハ戸主ノ氏名、職業及ヒ本籍地

四　入夫婚姻又ハ婿養子縁組ナルトキハ其旨

五　入夫婚姻ノ場合ニ於テ入夫カ戸主トラサルトキハ其旨

六　婚姻ニ因リテ嫡出子タル身分ヲ取得スル庶子アルトキハ其名及ヒ出生ノ年月日

當事者ノ一方カ婚家又ハ養家ヨリ更ニ婚姻ニ因リテ他家ニ入ル場合ニ於テハ前項ニ掲ケタル事項ノ外前婚家ノ戸主又ハ養親ノ氏名、職業及ヒ本籍地ヲ記載スルコトヲ要ス

第百三條　民法第七百四十一條第一項、第七百五十條第一項、第七百七十二條及ヒ第七百

七十三條ノ規定ニ依リ戸主、父母、後見人又ハ親族會ノ同意ヲ要スル場合ニ於テハ届出人ハ届書ニ同意ノ證書ヲ添ヘ又ハ同意ヲ爲シタル者ヲシテ届書ニ同意ノ旨ヲ附記シ之ニ署名捺印セシムルコトヲ要ス

第百四條　婚姻ノ届出ハ夫ノ本籍地又ハ所在地ノ戸籍吏ニ之ヲ爲スコトヲ要ス但入夫婚姻及ヒ婿養子縁組ナルトキハ妻ノ本籍地又ハ所在地ニ於テ其届出ヲ爲スコトヲ要ス

第百五條　婚姻カ無效ナルトキハ届出人ハ其無效ナル事由ノ證明書ヲ提出シテ登記ノ取消ヲ申請スルコトヲ要ス

第百六條　婚姻ノ無效又ハ取消ノ裁判カ確定シタルトキハ其訴ヲ提起シタル者ハ裁判確定ノ日ヨリ一箇月内ニ裁判ノ謄本ヲ提出シテ登記ノ取消ヲ申請スルコトヲ要ス

檢事カ訴ヲ提起シタル場合ニ於テハ前項ノ規定ニ從ヒ檢事ヨリ登記ノ取消ヲ請求スルコトヲ要ス

第百七條　第百二條及ヒ第百三條ノ規定ハ口頭ヲ以テ届出ヲ爲ス場合ニ之ヲ準用ス

第百八條　第五十八條ノ規定ハ婚姻ノ届出ニハ之ヲ適用セス

第八節　離婚

第百九條　離婚ノ届書ニハ左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

一　當事者ノ氏名、職業及ヒ本籍地

二　父母ノ氏名、職業及ヒ本籍地

三　當事者カ家族ナルトキハ戸主ノ氏名、職業及ヒ本籍地

四　婚姻ノ年月日

五　離婚カ協議又ハ裁判ニ因ルコト

六　當事者カ復籍スヘキ家ノ戸主ノ氏名、職業及ヒ本籍地
七　當事者カ復籍スヘキ家ナキトキハ其事由

第百十條　民法第八百九條ノ規定ニ依リ父母、後見人又ハ親族會ノ同意ヲ要スル場合ニ於テハ届出人ハ届書ニ同意ノ證書ヲ添ヘ又ハ同意ヲ爲シタル者ヲシテ届書ニ同意ノ旨ヲ附記シ之ニ署名、捺印セシムルコトヲ要ス

第百十一條　離婚ノ裁判カ確定シタルトキハ其訴ヲ提起シタル者ハ裁判確定ノ日ヨリ十日内ニ裁判ノ謄本ヲ添ヘテ届出ヲ爲スコトヲ要ス

第百十二條　第百九條及ヒ第百十條ノ規定ハ口頭ヲ以テ届出ヲ爲ス場合ニ之ヲ準用ス

第百十三條　第五十八條ノ規定ハ離婚ノ届出ニハ之ヲ適用セス

第九節　後見

第百十四條　後見ノ開始アリタルトキハ後見人ハ就職ノ日ヨリ十日内ニ左ノ諸件ヲ具シテ之ヲ届出ツルコトヲ要ス

一　後見人ノ氏名、出生ノ年月日、職業、本籍地及ヒ住所
二　被後見人ノ氏名、出生ノ年月日、職業及ヒ本籍地
三　被後見人カ家族ナルトキハ戸主ノ氏名、職業及ヒ本籍地
四　後見開始ノ原因及ヒ年月日
五　後見人ノ就職ノ年月日

第百十五條　後見人ノ更迭アリタルトキハ後任ノ後見人ハ其就職ノ日ヨリ十日内ニ前條ニ掲ケタル諸件及ヒ前任者ノ氏名ヲ具シテ之ヲ届出ツルコトヲ要ス

第百十六條　後見人カ遺言ヲ以テ指定セラレタル者ナルトキハ届書ニ其指定ニ關スル遺言

ノ謄本ヲ添フルコトヲ要ス
後見人カ親族會ニ於テ選任セラレタル者ナルトキハ届書ニ其選任ニ關スル證明書ヲ添フルコトヲ要ス

第百十七條　後見人ノ任務カ終了シタルトキハ後見人ハ十日内ニ左ノ諸件ヲ具シテ之ヲ届出ツルコトヲ要ス

一　被後見人ノ氏名、出生ノ年月日、職業及ヒ本籍地
二　就職ノ年月日
三　任務終了ノ原因及ヒ年月日

後見人ノ任務カ其死亡ニ因リテ終了シタルトキハ前項ノ届出ハ後見監督人ヨリ之ヲ爲スコトヲ要ス

第百十八條　後見ニ關スル届出ハ被後見人ノ本籍地又ハ所在地ノ戸籍吏ニ之ヲ爲スコトヲ要ス

第十節　隱居

第百十九條　隱居ノ届書ニハ左ノ諸件ヲ記載スルコトヲ要ス

一　隱居者ノ氏名、族稱、出生ノ年月日、職業及ヒ本籍地
二　家督相續人ノ名、出生ノ年月日、職業及ヒ家督相續人ト隱居者トノ續柄
三　隱居ノ原因

第百二十條　裁判所ノ許可ヲ得テ隱居ヲ爲ス場合ニ於テハ届出人ハ届書ニ裁判ノ謄本ヲ添フルコトヲ要ス

第百二十一條　隱居ノ届出人ハ届書ニ家督相續人ノ承認ノ證書ヲ添ヘ又ハ承認ヲ爲シタル

者ナシテ届書ニ其旨ヲ附記シ之ニ署名、捺印セシムルコトヲ要ス
前項ノ規定ハ民法第七百五十五條第二項ノ規定ニ依リ夫ノ同意ヲ要スル場合ノ届出ニ之ヲ準用ス

第百二十二條　隠居ノ取消ノ裁判カ確定シタルトキハ其訴ヲ提起シタル者ハ裁判確定ノ日ヨリ一箇月内ニ裁判ノ謄本ヲ提出シテ登記ノ取消ヲ申請スルコトヲ要ス
第百六條第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第十一節　失踪

第百二十三條　失踪ノ宣告アリタルトキハ其宣告ヲ請求シタル者ハ裁判確定ノ日ヨリ十日内ニ左ノ諸件ヲ具シ裁判ノ謄本ヲ添ヘテ之ヲ届出ツルコトヲ要ス
一　失踪者ノ氏名、出生ノ年月日、職業及ヒ本籍地
二　失踪ノ宣告アリタル年月日
三　失踪者カ家族ナルトキハ戸主ノ氏名、族稱及ヒ戸主ト失踪者トノ續柄

第百二十四條　失踪ノ宣告ノ取消アリタルトキハ其取消ヲ請求シタル者ハ裁判確定ノ日ヨリ一箇月内ニ裁判ノ謄本ヲ提出シテ登記ノ取消ヲ申請スルコトヲ要ス

第十二節　死亡

第百二十五條　死亡者アリタルトキハ届出義務者カ其死亡ヲ知リタル日ヨリ五日内ニ左ノ諸件ヲ具シ醫師ノ診斷書若クハ檢案書又ハ警察官ノ檢視調書ノ謄本ヲ添ヘテ之ヲ届出ツルコトヲ要ス
一　死亡者ノ氏名、出生ノ年月日、男女ノ別及ヒ本籍地
二　死亡ノ年月日時及ヒ場所
三　死亡者カ家族ナルトキハ戸主ノ氏名、族稱及ヒ戸主ト死亡者トノ續柄

前項ノ届出期間ハ衛生ノ爲メ特別ノ必要アルトキハ命令ヲ以テ之ヲ短縮スルコトヲ得

第百二十六條　左ニ掲ケタル者ハ其順序ニ從ヒ死亡ノ届出ヲ爲ス義務ヲ負フ
第一　同居者
第二　家主、地主又ハ土地若クハ家屋ノ管理人
第三　同居者ニ非サル同順位ノ届出義務者數人アルトキハ其中ノ一人ヨリ届出ヲ爲スヲ以テ足ル

第百二十七條　死亡ノ届出ハ死亡地又ハ死亡者ノ本籍地若クハ寄留地ノ戸籍吏ニ之ヲ爲スコトヲ要ス

第百二十八條　第七十條及ヒ第七十四條ノ規定ハ死亡ノ届出ニ之ヲ準用ス

第百二十九條　死刑ノ執行アリタルトキハ監獄ノ長ハ遲滯ナク第百二十五條ニ掲ケタル諸件ヲ具シ監獄所在地ノ戸籍吏ニ死亡ノ報告ヲ爲スコトヲ要ス
前項ノ規定ハ在監中死亡シタル者アリテ死體ノ引取人ナキ場合ニ之ヲ準用ス此場合ニ於テハ報告書ニ醫師ノ診斷書又ハ檢案書ヲ添フルコトヲ要ス

第百三十條　航海中ニ死亡者アリタルトキハ艦長又ハ船長ハ二十四時内ニ乘船者中ヨリ選ミタル證人ノ前ニ於テ第百二十五條ニ掲ケタル諸件ヲ航海日誌ニ記載シ證人ト共ニ署名、捺印シ且證人ノ出生ノ年月日、職業及ヒ本籍地ヲ記載スルコトヲ要ス
前項ノ手續ヲ爲シタル後艦船カ日本ノ港ニ着シタルトキハ艦長又ハ船長ハ二十四時内ニ死亡ニ關スル航海日誌ノ謄本ヲ其地ノ戸籍吏ニ送付スルコトヲ要ス
艦船カ外國ノ港ニ着シタルトキハ艦長又ハ船長ハ遲滯ナク死亡ニ關スル航海日誌ノ謄本

チ其國ニ駐在スル日本ノ公使又ハ領事ニ送付シ公使又ハ三箇月内ニ之ヲ外務大臣ニ發送シ外務大臣ハ十日内ニ之ヲ死亡者ノ本籍地ノ戸籍吏ニ發送スルコトヲ要ス

第百三十一條　艦船ノ難破ニ因リテ乘組員及ヒ乘客ノ全部又ハ一部カ死亡シタルトキハ其難破ノ取調ヲ爲シタル官廳又ハ公署ハ死亡者ノ本籍地ノ戸籍吏ニ死亡ノ報告ヲ爲スコトヲ要ス

第百三十二條　死亡者ノ本籍分明ナラス且其何人タルコトヲ認識スルコト能ハサルトキハ警察官ハ檢視調書ヲ作リ遲滯ナク之ヲ其地ノ戸籍吏ニ報告スルコトヲ要ス

死亡者ノ本籍分明ナルニ拘ラス又ハ其何人タルコトヲ認識スルコトヲ得ルニ至リタルトキハ警察官ハ遲滯ナク前ニ報告ヲ受ケタル戸籍吏ニ之ヲ報告スルコトヲ要ス

第百二十六條第一項第一號及ヒ第二號ニ掲ケタル死亡届出義務者カ前項ノ事實ヲ知リタルトキハ十日内ニ死亡ノ届出ヲ爲スコトヲ要ス此場合ニ於テハ醫師ノ診斷書又ハ檢案書ニ代ヘ警察官ノ檢視調書ノ謄本ヲ添フルコトヲ得

第十三節　家督相續

第百三十三條　家督相續ニ因リテ戸主ト爲リタル者ハ其事實ヲ知リタル日ヨリ一箇月内ニ左ノ諸件ヲ具シ之ヲ被相續人ノ本籍地ノ戸籍吏ニ届出ツルコトヲ要ス

一　家督相續ノ原因及ヒ戸主ト爲リタル年月日

二　前戸主ノ名及ヒ前戸主ト家督相續人トノ續柄

家督相續人カ外國ニ在ル場合ニ於テハ前項ノ届出ハ三箇月内ニ届書ヲ發送スルヲ以テ足ル

第百三十四條　家督相續回復ノ裁判カ確定シタルトキハ相續權ヲ回復シタル者ハ裁判確定ノ日ヨリ一箇月内ニ左ノ諸件ヲ具シ裁判ノ謄本ヲ添ヘテ之ヲ届出ツルコトヲ要ス

一　家督相續ノ原因及ヒ戸主ト爲リタル年月日

二　前戸主ノ名及ヒ前戸主ト家督相續人トノ續柄

第百三十五條　家督相續人カ胎兒ナルトキハ其母カ相續ノ開始アリタルコトヲ知リタル日ヨリ一箇月内ニ左ノ諸件ヲ具シ醫師ノ診斷書ヲ添ヘテ家督相續ノ届出ヲ爲スコトヲ要ス

一　相續開始ノ年月日

二　家督相續人ノ胎兒ナルコト

三　前戸主ノ名及ヒ前戸主ト家督相續人トノ續柄

第百三十三條第二項ノ規定ハ届出ニ之ヲ準用ス

第百三十六條　胎兒ヲ家督相續人トシテ届出テタル場合ニ於テ其胎兒カ死體ニテ生レタルトキハ母ハ出産ノ日ヨリ一箇月内ニ醫師又ハ出産ニ立會ヒタル産婆ノ檢案書ヲ提出シテ家督相續ノ登記ノ取消ヲ申請スルコトヲ要ス

母カ登記取消ノ申請ヲ爲ササルトキハ家督相續人ハ其事實ヲ知リタル日ヨリ一箇月内ニ登記ノ取消ヲ申請スルコトヲ要ス

第十四節　推定家督相續人ノ廢除

第百三十七條　推定家督相續人廢除ノ裁判カ確定シタルトキハ被相續人ハ裁判確定ノ日ヨリ十日内ニ左ノ諸件ヲ具シ裁判ノ謄本ヲ添ヘテ之ヲ届出ツルコトヲ要ス

一　廢除セラレタル者ノ名、出生ノ年月日及ヒ職業

二　廢除ノ原因

三　廢除ノ裁判カ確定シタル年月日

第百三十八條　被相續人カ遺言ヲ以テ推定家督相續人ヲ廢除スル意思ヲ表示シタル場合ニ

於テ廢除ノ裁判カ確定シタルトキハ前條ノ届出ハ遺言執行者ヨリ之ヲ爲スコトヲ要ス
前項ノ場合ニ於テハ届書ニ被相續人ノ死亡ノ年月日ヲ記載スルコトヲ要ス

第百三十九條　推定家督相續人廢除ノ取消ノ裁判カ確定シタルトキハ其取消ヲ請求シタル者ハ裁判確定ノ日ヨリ一箇月内ニ裁判ノ謄本ヲ提出シテ登記ノ取消ヲ申請スルコトヲ要ス

第十五節　家督相續人ノ指定

第百四十條　家督相續人指定ノ届書ニハ左ノ諸件ヲ記載スルコトヲ要ス
一　指定家督相續人タルヘキ者ノ氏名、族稱、出生ノ年月日、職業及ヒ本籍地
二　法定ノ推定家督相續人ナキコト

第百四十一條　民法第九百八十一條ノ規定ニ依リテ家督相續人指定ノ届出ヲ爲ストキハ届書ニ前條ニ掲ケタル諸件及ヒ被相續人ノ死亡ノ年月日ヲ記載シ且之ニ其指定ニ關スル遺言ノ謄本ヲ添フルコトヲ要ス

第百四十二條　家督相續人指定ノ取消ノ届書ニハ左ノ諸件ヲ記載スルコトヲ要ス
一　指定家督相續人ノ氏名、族稱、出生ノ年月日、職業及ヒ本籍地
二　指定ノ年月日

第百四十三條　家督相續人指定ノ取消ノ届出ヲ爲ス者ハ同時ニ家督相續人指定ノ登記ノ取消ヲ申請スルコトヲ要ス

第百四十四條　民法第九百八十一條ノ規定ニ依リテ指定ノ取消ノ届出ヲ爲ス場合ニ於テハ前二條ノ規定ニ依ル外届書ニ被相續人ノ死亡ノ年月日ヲ記載シ且之ニ指定ノ取消ニ關スル遺言ノ謄本ヲ添フルコトヲ要ス

第百四十五條　家督相續人ノ指定カ其效力ヲ失ヒタルトキハ指定ヲ爲シタル者ハ其事實ヲ知リタル日ヨリ一箇月内ニ其效力ヲ失ヒタル事由ノ證明書ヲ提出シテ登記ノ取消ヲ申請スルコトヲ要ス

第十六節　入籍、離籍及ヒ復籍拒絶

第百四十六條　民法第七百三十五條第一項若クハ第七百三十七條ノ規定ニ依リ他家ノ家族ト爲ラント欲スル者又ハ民法第七百三十八條ノ規定ニ依リ自己ノ親族ヲ婚家、養家又ハ自家ノ家族ト爲サント欲スル者ハ左ノ諸件ヲ具シテ入籍ノ届出ヲ爲スコトヲ要ス
一　入籍スヘキ家ノ戸主ノ氏名、出生ノ年月日、職業及ヒ本籍地
二　入籍スヘキ家ノ戸主又ハ家族ト入籍スヘキ者トノ親族關係
三　入籍スヘキ者カ廢家シテ他家ニ入ルトキハ其旨
四　入籍スヘキ者カ家族ナルトキハ其去ルヘキ家ノ戸主ノ氏名、出生ノ年月日、職業、本籍地及ヒ其戸主ト入籍スヘキ者トノ續柄

第百四十七條　民法第七百三十五條第一項、第七百三十七條及ヒ第七百三十八條ノ規定ニ依リ戸主、配偶者、養親、親權ヲ行フ者又ハ後見人ノ同意ヲ要スル場合ニ於テハ届出人ハ届書ニ同意ノ證書ヲ添ヘ又ハ同意ヲ爲シタル者ヲシテ届書ニ同意ノ旨ヲ附記シ之ニ署名、捺印セシムルコトヲ要ス

第百四十八條　戸主カ其家族ヲ離籍セントキハ左ノ諸件ヲ具シテ之ヲ届出ツルコトヲ要ス
一　離籍セラルヘキ者ノ氏名、出生ノ年月日及ヒ職業
二　離籍ノ原因及ヒ其原因發生ノ年月日

三　離籍セラルヘキ者ト共ニ家ヲ去ルヘキ者アルトキハ其名、出生ノ年月日、職業及ヒ其者ト離籍セラルヘキ者トノ續柄

第百四十九條　離籍ニ因リテ一家ヲ創立シタル者ハ其事實ヲ知リタル日ヨリ十日以内ニ左ノ諸件ヲ具シテ其旨ヲ届出ツルコトヲ要ス

一　離籍ヲ爲シタル戸主ノ氏名、出生ノ年月日、職業及ヒ本籍地

二　離籍ヲ爲シタル戸主ト届出人トノ續柄

三　離籍ノ原因及ヒ年月日

四　届出人ノ家ニ入ルヘキ者アルトキハ其名、出生ノ年月日、職業及ヒ其者ト届出人トノ續柄

第百五十條　戸主カ其家族タリシ者ノ復籍ヲ拒マントスルトキハ左ノ諸件ヲ具シテ之ヲ届出ツルコトヲ要ス

一　復籍ヲ拒マルヘキ者ノ氏名、出生ノ年月日、職業及ヒ本籍地

二　復籍ヲ拒マルヘキ者カ家族ナルトキハ戸主ノ氏名出生ノ年月日、職業及ヒ本籍地

三　復籍拒絶ノ原因及ヒ其原因發生ノ年月日

第百五十一條　復籍拒絶又ハ復籍スヘキ家ノ廢絶ニ因リテ復籍ヲ爲スコト能ハサル者カ一家ヲ創立シタルトキハ其事實ヲ知リタル日ヨリ十日内ニ左ノ諸件ヲ具シテ其旨ヲ届出ツルコトヲ要ス

一　復籍ヲ拒ミタル戸主又ハ廢絶シタル家ノ最終ノ戸主ノ氏名、出生ノ年月日、職業及ヒ本籍地

二　復籍拒絶又ハ復籍スヘキ家ノ廢絶ノ原因及ヒ年月日

三　届出人ノ家ニ入ルヘキ者アルトキハ其名、出生ノ年月日、職業及ヒ其者ト届出人トノ續柄

第十七節　廢家及ヒ絶家

第百五十二條　廢家ヲ爲サント欲スル者ハ左ノ諸件ヲ具シ家督相續ニ因リテ戸主ト爲リタル者ニ非サルコトノ説明書又ハ廢家ノ許可ニ關スル裁判ノ謄本ヲ添ヘテ之ヲ届出ツルコトヲ要ス

一　廢家シタル者カ入ルヘキ家ノ戸主ノ氏名、出生ノ年月日、職業及ヒ本籍地

二　廢家シタル者ニ隨ヒテ他家ニ入ル者ノ名、出生ノ年月日及ヒ職業

第百五十三條　絶家ノ家族ニシテ一家ヲ創立シタル者ハ其事實ヲ知リタル日ヨリ十日内ニ左ノ諸件ヲ具シテ絶家及ヒ一家創立ノ届出ヲ爲スコトヲ要ス

一　絶家ノ最終ノ戸主ノ氏名、出生ノ年月日、職業及ヒ本籍地

二　絶家ノ原因及ヒ年月日

三　一家ヲ創立シタル者ニ隨ヒテ其家ニ入ル者ノ名、出生ノ年月日及ヒ職業

第十八節　分家及ヒ廢絶家再興

第百五十四條　分家ヲ爲サント欲スル者ハ左ノ諸件ヲ具シテ之ヲ届出ツルコトヲ要ス

一　分家ノ戸主ト爲ルヘキ者ノ氏名、出生ノ年月日、職業及ヒ本籍地

二　本家ノ戸主ノ氏名、職業、本籍地及ヒ其戸主ト分家ノ戸主ト爲ルヘキ者トノ續柄

三　分家ノ家族ト爲ルヘキ者アルトキハ其名、出生ノ年月日及ヒ職業

四　分家ノ戸主及ヒ家族ト爲ルヘキ者ノ父母ノ氏名、職業及ヒ本籍地

第百五十五條　廢絶家ヲ再興セント欲スル者ハ左ノ諸件ヲ具シテ之ヲ届出ツルコトヲ要ス

一 廢絶家ノ最終ノ戸主ノ氏名、職業及ヒ本籍地
二 廢絶ノ原因及ヒ年月日
三 廢絶シタル家ト再興ヲ爲ス者ノ家トノ續柄
四 再興ヲ爲ス者ノ戸主ノ氏名。出生ノ年月日、職業及ヒ本籍地
五 再興ヲ爲ス者ニ隨ヒテ其家ニ入ルヘキ者ノ名、出生ノ年月日及ヒ職業

第百五十六條 分家又ハ廢絶家再興ノ届出人ハ届書ニ戸主ノ同意ノ證書ヲ添ヘ又ハ戸主ヲシテ届書ニ同意ノ旨ヲ附記シ之ニ署名、捺印セシムルコトヲ要ス
前項ノ規定ハ民法第七百四十三條但書ノ規定ニ依リ親權ヲ行フ者又ハ後見人ノ同意ヲ要スル場合ニ之ヲ準用ス

第十九節 國籍ノ得喪

第百五十七條 外國人カ婚姻又ハ養子緣組ニ因リテ日本ノ國籍ヲ取得スヘキトキハ婚姻又ハ緣組ノ届出人ハ届書ニ國籍取得者ノ原國籍ヲ記載スルコトヲ要ス
入夫婚姻又ハ養子緣組ノ場合ニ於テハ前項ノ規定ニ依ル外届書ニ內務大臣ノ許可書ノ謄本ヲ添フルコトヲ要ス

第百五十八條 外國人カ認知ニ因リテ日本ノ國籍ヲ取得スヘキトキハ認知者ハ認知ノ届書ニ子ノ原國籍ヲ記載スルコトヲ要ス
子ノ母カ外國人ナルトキハ認知者ハ届書ニ母ノ國籍ヲ記載スルコトヲ要ス

第百五十九條 歸化ヲ爲シタル者ハ歸化ノ許可ヲ受ケタル日ヨリ十日內ニ左ノ諸件ヲ具シ內務大臣ノ許可書ノ謄本ヲ添ヘテ之ヲ届出ツルコトヲ要ス
一 歸化人ノ氏名出生ノ年月日、職業、住所及ヒ原國籍

二 父母ノ氏名、出生ノ年月日、職業及ヒ國籍
三 歸化人ト共ニ日本ノ國籍ヲ取得シタル者アルトキハ其名、出生ノ年月日、職業及ヒ其者ト歸化人トノ續柄
四 許可ノ年月日
歸化人ノ妻又ハ子カ歸化人ト共ニ日本ノ國籍ヲ取得セサルトキハ届書ニ其事由ヲ記載スルコトヲ要ス

第百六十條 日本ノ國籍ヲ失フヘキ者ハ其國籍喪失前ニ左ノ諸件ヲ具シテ之ヲ届出ツルコトヲ要ス
一 國籍喪失ノ原因
二 國籍喪失ノ期日ヲ知リ得ヘキトキハ其年月日
三 法定ノ推定家督相續人アルトキハ其名、出生ノ年月日、職業及ヒ其者ト届出人トノ續柄
四 新ニ取得スヘキ國籍
五 届出人ノ妻又ハ子カ共ニ國籍ヲ失フヘキトキハ其妻又ハ子ノ名、出生ノ年月日及ヒ職業

第百六十一條 日本ノ國籍ヲ失ヒタル者カ國籍喪失前ニ前條ノ届出ヲ爲スコト能ハサリシトキハ國籍喪失後十日內ニ之ヲ爲スコトヲ要ス
前項ノ規定ハ國籍喪失者カ日本ニ住所又ハ居所ヲ有セサルトキハ之ヲ適用セス

第百六十二條 日本ノ國籍ヲ失フヘキ者カ滿十七年以上ノ男子ナルトキハ國籍喪失ノ届出人ハ届書ニ其者カ既ニ陸海軍ノ現役ニ服シタルコト又ハ之ニ服スル義務ナキコトノ證明

書ヲ添フルコトヲ要ス

日本ノ國籍ヲ失フヘキ者カ官職ヲ帶ノル者ナルトキハ國籍喪失ノ届出人ハ届書ニ所屬長官ノ許可書ノ謄本ヲ添フルコトヲ要ス

第百六十三條　日本ノ國籍ヲ同復シタル者ハ國籍同復ノ許可ヲ得タル日ヨリ十日内ニ左ノ諸件ヲ具シ内務大臣ノ許可書ノ謄本ヲ添ヘテ之ヲ届出ツルコトヲ要ス

一　日本ノ國籍ヲ失ヒタル原因及ヒ年月日

二　國籍同復前ニ有セシ國籍

三　國籍同復ノ許可ヲ得タル年月日

四　國籍同復者ト共ニ日本ノ國籍ヲ取得シ又ハ之ノ同復シタル者アルトキハ其名、出生ノ年月日、職業及ヒ其者ト國籍同復者トノ續柄

第百六十四條　氏ヲ復舊シ又ハ名ヲ改稱シタル者ハ十日内ニ左ノ諸件ヲ具シ管轄官廳ノ許可書ノ謄本ヲ添ヘテ之ヲ届出ツルコトヲ要ス

一　復舊又ハ改稱前ノ氏名

二　復舊シタル氏又ハ改稱シタル名

三　復舊又ハ改稱ノ原因及ヒ許可ノ年月日

第百六十五條　新ニ華族ニ列セラレ又ハ華士族ノ稱ヲ失ヒタル者ハ十日内ニ左ノ諸件ヲ具シ辭令書又ハ管轄官廳ノ許可書ノ謄本ヲ添ヘテ之ヲ届出ツルコトヲ要ス

一　新爵族稱

二　族稱變更ノ原因

三　族稱變更ノ辭令又ハ許可アリタル年月日

前項ノ届出ハ其族稱ニ變更アリタル者カ家族ナルトキハ戸主ヨリ之ヲ爲スコトヲ要ス

第百六十六條　前條ノ規定ハ分家、廢絶家再興又ハ處刑ニ因リテ族稱ヲ失ヒタル者ニハ之ヲ適用セス但處刑ニ因リテ族稱ヲ失ヒタル場合ニ於テハ裁判所ハ其者ノ本籍地ノ戸籍吏ニ其旨ヲ報告スルコトヲ要ス

第二十一節　身分登記ノ變更

第百六十七條　身分登記ノ變更ヲ請求セント欲スル者ハ原登記ヲ爲シタル戸籍役場ノ所在地ヲ管轄スル區裁判所ノ許可ヲ得テ其申請ヲ爲スコトヲ要ス

第百六十八條　身分登記變更ノ申請ハ許可ノ裁判カ確定シタル日ヨリ一箇月内ニ左ノ諸件ヲ具シ裁判ノ謄本ヲ添ヘテ原登記ヲ爲シタル戸籍吏ニ之ヲ爲スコトヲ要ス

一　原登記ノ件名及ヒ年月日

二　變更スヘキ事項

第百六十九條　前條ノ規定ハ確定判決ニ依リテ身分登記ノ變更ヲ申請スル場合ニ之ヲ準用ス

第五章　戸籍簿

第百七十條　戸籍ハ戸籍吏ノ管轄地内ニ本籍ヲ定メタル者ニ付キ之ヲ編製ス

日本ノ國籍ヲ有セサル者ハ本籍ヲ定ムルコトヲ得ス

第百七十一條　戸籍ハ地番號ノ順序ニ從ヒ之ヲ編綴シテ帳簿トス爲

戸籍吏ノ管轄地内ニ各別ニ地番號ヲ附シタル二個以上ノ區畫アル場合ニ於テハ其區畫ノ順序ハ戸籍吏之ヲ定ム

第百七十二條　戸籍簿ハ正副二本ヲ設ク

戸籍簿ノ正本ハ之ヲ戸籍役場ニ備ヘ其副本ハ監督區裁判所ヲ管轄スル地方裁判所之ヲ保存ス

第百七十三條　家督相續、廢絶家其他ノ事由ニ因リ戸籍ノ全部ヲ抹消シタルモノハ之ヲ戸籍簿ヨリ除キ別ニ編綴シテ帳簿ト爲シ之ヲ戸籍役場ニ保存ス

前項ノ帳簿ヲ保存スヘキ期間ハ司法大臣之ヲ定ム

第百七十四條　第十二條乃至第十四條ノ規定ハ戸籍簿並ニ戸籍ノ謄本及ヒ抄本ニ之ヲ準用ス

第六章　戸籍ノ記載手續

第百七十五條　戸籍ハ一戸毎ニ一本ヲ作ル

第百七十六條　戸籍ニハ左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

一　戸主

二　前戸主及ヒ家族ノ氏名

三　戸主及ヒ家族ノ出生ノ年月日

四　戸主又ハ家族ト爲リタル原因及ヒ年月日但出生ニ因リテ家族ト爲リタル者ニ付テハ此記載ヲ要セス

五　戸主竝ニ家族ノ父母ノ氏名及ヒ其父母ト戸主トノ續柄但家族ノ中他家ヨリ入リテ他ノ家族ノ配偶者ト爲リタル者又ハ他ノ家族ヲ經テ戸主トノ親族關係ヲ有スル者ニ付テハ

其者ト戸主トノ續柄ノ外他ノ家族トノ續柄ヲ記載スルコトヲ要ス

七　他家ヨリ入リテ戸主又ハ家族ト爲リタル者ニ付テハ其原籍地、原籍ノ戸主ノ氏名族稱及ヒ其戸主ト戸主又ハ家族ト爲リタル者トノ續柄

八　他家ヨリ入リテ家族ト爲リタル者ニシテ他ノ家族トノミ親族關係ヲ有スル者ニ付テハ其者ト他ノ家族トノ續柄

九　戸主又ハ家族ノ身分ノ變更及ヒ其原因竝ニ年月日

十　後見人アル者ニ付テハ後見人ノ氏名、住所及ヒ後見人ノ就職竝ニ任務終了ノ年月日

第百七十七條　戸主及ヒ家族ノ氏名ヲ戸籍ニ記載スルニハ左ノ順序ニ依ル

第一　戸主

第二　戸主ノ直系尊屬

第三　戸主ノ配偶者

第四　戸主ノ直系卑屬及ヒ其配偶者

第五　戸主ノ傍系親及ヒ其配偶者

第六　戸主ノ親族ニ非サル者

直系尊屬間ニ在リテハ親等ノ遠キ者ヲ先ニシ直系卑屬又ハ傍系親ノ間ニ在リテハ親等ノ近キ者ヲ先ニス

直系卑屬、直系卑屬又ハ傍系親ノ間ニ在リテ親等ノ同シキ者ハ親族間ノ順位ニ依リ親族間ノ順位ノ同シキ者ハ出生ノ前後ニ依リテ其順序ヲ定ム

前二項ノ規定ハ戸主ノ親族ニ非サル者ノ記載ニ之ヲ準用ス

第百七十八條　戸籍吏カ身分登記ヲ爲シ又ハ戸籍ニ關スル届出ヲ受理シタルトキハ次條以下ノ規定ニ從ヒテ戸籍ノ記載ヲ爲スコトヲ要ス

第百七十九條　家督相續又ハ家督相續回復ノ登記ヲ爲シタルトキハ其登記及ヒ前戸主又ハ戸主ノ名義ヲ有セシ者ノ戸籍ニ基キテ新戸主ノ戸籍ヲ編製スルコトヲ要ス

前項ノ場合ニ於テハ前戸主又ハ戸主ノ名義ヲ有セシ者ノ戸籍ニ事由ヲ記載シテ其戸籍ヲ抹消シ且其戸籍ト新戸主ノ戸籍トニ職印ヲ以テ契印ヲ爲スコトヲ要ス

胎兒カ家督相續人ナル場合ニ於テハ其出生ニ至ルマテ前二項ノ手續ヲ爲スコトヲ要セス

此場合ニ於テハ前戸主ノ戸籍中戸主ニ關スル部分ノミヲ抹消シ家督相續人ノ胎兒ナル旨ヲ記載スルコトヲ要ス

第百八十條　分家、廢絶家再興其他新ニ家ヲ立ツヘキ事件ノ登記ヲ爲シ又ハ轉籍者ノ本籍戸主ノ就籍ノ届出ヲ受理シタルトキハ其登記又ハ届出ニ基キテ戸籍ヲ編製シ轉籍届書ノ副本ハ遲滯ナク之ヲ舊管轄ノ戸籍吏ニ送付スルコトヲ要ス

前項ノ規定ニ依リテ戸籍ヲ編製スルニハ第百七十六條ニ揭ケタル事項ノ外各欄ニ付キ特殊ナル事項ヲ記載スルコトヲ要ス

第百八十一條　復籍相絶ノ登記ヲ爲シタルトキハ復籍ヲ拒絶シタル者ノ戸籍ニ登記ノ要旨ヲ記載スルコトヲ要ス

第百八十二條　廢絶家ノ登記ヲ爲シタル場合ニ於テ其家ニ家督相續人ナキトキハ最終戸主ノ戸籍ニ事由ヲ記載シテ其戸籍ヲ抹消スルコトヲ要ス

第百八十三條　單身戸主ノ死亡又ハ失踪ノ登記ヲ爲シタルトキハ最終戸主ノ戸籍ニ事由ヲ記載シテ其戸籍ヲ抹消スルコトヲ要ス

キコト分明ナルトキハ戸籍吏ハ戸籍役場ノ所在地ヲ管轄スル區裁判所ノ許可ヲ得テ死亡

者又ハ失踪者ノ戸籍ニ絶家ノ原因及ヒ年月日ヲ記載シテ其戸籍ヲ抹消スルコトヲ要ス

第百八十四條　戸籍吏ノ管轄地内ニ於ケル本籍地變更ノ届出ヲ受理シタルトキハ事由ヲ戸籍ニ記載シ舊本籍地ニ關スル記載ヲ抹消シ新本籍地ヲ記載スルコトヲ要ス

第百八十五條　前六條ノ場合ヲ除ク外身分登記ヲ爲シ又ハ戸籍ニ關スル届出ヲ受理シタルトキハ其登記又ハ届出ニ基キ第百七十六條ニ揭ケタル事項ヲ戸籍ニ記載スルコトヲ要ス

前項ノ場合ニ於テ第百八十條第二項ノ規定ニ依リテ戸籍ニ記載シタル事項ノ變更アルトキハ其變更ヲ記載スルコトヲ要ス

第百八十六條　戸籍ヲ編製シタル後一人又ハ數人ヲ戸籍ニ入ルヘキトキハ第百七十七條ノ順序ニ拘ハラス戸籍ノ末尾ニ之ヲ記載スルコトヲ得

第百八十七條　一戸ノ全員又ハ一戸内ノ一人若クハ數人ヲ戸籍ヨリ除クヘキトキハ事由ヲ戸籍ニ記載シテ戸籍ノ全部又ハ一部ヲ抹消スルコトヲ要ス

第百八十八條　入籍ノ手續ヲ爲ス場合ニ於テ入籍者ノ本籍カ他ノ戸籍吏ノ管轄ニ屬スルトキハ身分ニ關スル届書其他ノ書類又ハ戸籍ニ關スル届書ヲ送付スルト同時ニ入籍ヲ爲シタル旨ヲ舊管轄ノ戸籍吏ニ通知スルコトヲ要ス

第百八十九條　除籍ノ手續ヲ爲スヘキ場合ニ於テ除籍ヲ爲スヘキ者ノ本籍カ戸籍吏ノ管轄ニ屬スルトキハ新管轄ノ戸籍吏ヨリ入籍ヲ爲シタル旨ノ通知ヲ受ケタル後其通知ノ發送及ヒ受附ノ年月日ヲ戸籍ニ記載シテ除籍ノ手續ヲ爲スコトヲ要ス

轉籍ニ因リテ除籍ヲ爲スヘキ場合ニ於テハ前項ニ揭ケタル事項ノ外轉籍地及ヒ轉籍ノ年

月日ヲ記載スルコトヲ要ス

第百九十條　身分登記又ハ戸籍ニ關スル届出ニ基キテ戸籍ノ記載ヲ爲ス場合ニ於テハ前十一條ニ規定シタル事項ノ外身分ニ關スル届書其他ノ書類又ハ戸籍ニ關スル届書ノ受附年月日ヲ記載スルコトヲ要ス

第百九十一條　第十八條・第二十九條及ヒ第三十一條ノ規定ハ戸籍ノ記載ニ之ヲ準用ス

第百九十二條　戸籍用紙中ノ一部分ヲ用ヰ盡シタルトキハ掛紙ヲ以テ用紙ニ充ツルコトヲ得

掛紙ヲ爲シタルトキハ戸籍吏ハ職印ヲ以テ掛紙ト本紙トニ契印ヲ爲スコトヲ要ス

第百九十三條　行政區畫、土地ノ名稱又ハ地番號ノ變更アリタルトキハ戸籍ニ記載シタル區畫、名稱又ハ番號ハ當然之ヲ改正シタルモノト看做ス

第百九十四條　第百七十九條及ヒ第百八十條ノ規定ニ依リテ戸籍ヲ編製シタルトキハ戸籍吏ハ遲滯ナク其副本ヲ監督區裁判所ヲ管轄スル地方裁判所ニ送付スルコトヲ要ス

第七章　戸籍ニ關スル届出

第百九十五條　戸籍吏ノ管轄地外ニ本籍ヲ轉セント欲スルトキハ戸主ヨリ左ノ諸件ヲ具シ戸籍ノ謄本ヲ添ヘテ之ヲ轉籍地ノ戸籍吏ニ届出ツルコトヲ要ス

一　轉籍者ノ氏名、出生ノ年月日及ヒ職業

二　原籍地及ヒ轉籍地

前項ノ届書ハ正副二本ヲ作ルコトヲ要ス

第百九十六條　戸籍吏ノ管轄地内ニ於テ本籍地ヲ變更セント欲スルトキハ戸主ヨリ原籍地及ヒ新本籍地ヲ具シテ其旨ヲ戸籍吏ニ届出ツルコトヲ要ス

第百九十七條　届出ノ闕漏其他ノ事由ニ因リ本籍ヲ有セス又ハ寢本籍ヲ有スル者ハ就籍又ハ除籍ノ届出ヲ爲サントスル戸籍役場ノ所在地ヲ管轄スル區裁判所ノ許可ヲ得テ其届出ヲ爲スコトヲ要ス

第百九十八條　就籍ノ届出ハ許可ノ裁判カ確定シタル日ヨリ十日内ニ左ノ諸件ヲ具シ裁判ノ謄本ヲ添ヘテ就籍スヘキ地ノ戸籍吏ニ之ヲ爲スコトヲ要ス

一　就籍スヘキ者ノ氏名、族稱、出生ノ年月日時、職業及ヒ其者ト父母トノ續柄

二　就籍スヘキ者ノ父母ノ氏名及ヒ其者ト戸主トノ續柄

三　本籍ヲ有セサリシ原因

四　就籍スヘキ者カ前ニ本籍ヲ有セシトキハ其舊本籍地

五　就籍スヘキ者カ戸主ナルトキハ其旨

六　就籍スヘキ者カ家族ナルトキハ戸主ノ氏名、族稱、職業及ヒ家族ト爲リタル者ナルトキハ其原籍地、戸主ト就籍スヘキ者トノ續柄

七　就籍スヘキ者カ戸主及ヒ家族ナルトキハ其旨

八　就籍スヘキ者カ他家ヨリ入リテ戸主ト就籍スヘキ家族カ他家ヨリ入リテ他ノ家族ノ配偶者ト爲リタル者ナルトキ又ハ他ノ家族ヲ經テ戸主トノ親族關係ヲ有スル者ナルトキハ屆書ニ其者ト戸主トノ續柄ノ外他ノ家族トノ續柄ヲ記載シ若シ他ノ家族トノミ親族關係ヲ有スル者ナルトキハ其者ト他ノ家族トノ續柄ノミヲ記載スルコトヲ要ス

第百九十九條　除籍ノ届出ハ許可ノ裁判カ確定シタル日ヨリ十日内ニ左ノ諸件ヲ具シ裁判ノ謄本ヲ添ヘテ除籍スヘキ地ノ戸籍吏ニ之ヲ爲スコトヲ要ス

一　除籍スヘキ者ノ氏名、族稱、職業、本籍地及ヒ筆頭者ノ氏名

二　筆頭本籍ヲ有セサル原因

三　除籍スヘキ者カ本籍ト筆頭本籍トニ於テ身分ヲ異ニスルトキハ本籍並ニ筆頭本籍ニ於ケル身分及ヒ其身分ノ異ナル原因

第二百條　就籍又ハ除籍スヘキ者カ家族ナルトキ又ハ戸主及ヒ家族ナルトキハ前二條ノ届出ハ戸主ヨリ之ヲ爲スコトヲ要ス

第二百一條　第百九十八條及ヒ第百九十九條ノ規定ハ確定判決ニ依リテ就籍又ハ除籍ノ届出ヲ爲ス場合ニ之ヲ準用ス

第二百二條　第四十六條、第四十九條、乃至第五十二條、第五十四條、第五十五條、第五十八條及ヒ第六十二條乃至第六十六條ノ規定ハ本章ノ届出ニ之ヲ準用ス

第八章　抗告

第二百三條　身分登記又ハ戸籍ニ關スル事件ニ付キ戸籍吏ノ處分ヲ不當トスル者ハ戸籍役場ノ所在地ヲ管轄スル區裁判所ニ抗告ヲ爲スコトヲ得

第二百四條　抗告ハ管轄區裁判所ニ抗告狀ヲ差出シテ之ヲ爲ス

抗告狀ニハ原書又ハ申請書及ヒ其他ノ關係書類ヲ添フルコトヲ要ス

第二百五條　抗告ヲ受ケタル裁判所ハ抗告ニ關スル書類ヲ戸籍吏ニ送付シテ其意見ヲ求ムルコトヲ要ス

第二百六條　戸籍吏ハ抗告ヲ理由アリト認ムルトキハ處分ヲ變更シテ其旨ヲ裁判所及ヒ抗告人ニ通知スルコトヲ要ス

抗告ヲ理由ナシト認ムルトキハ其意見ヲ附シ送付ヲ受ケタル書類ヲ五日内ニ裁判所ニ返還スルコトヲ要ス

第二百七條　裁判所ハ抗告ヲ理由ナシトスルトキハ之ヲ却下シ其理由アリトスルトキハ戸籍吏ニ相當ノ處分ヲ命スルコトヲ要ス

抗告ヲ却下シ又ハ處分ヲ命スル裁判ハ決定ヲ以テ之ヲ爲シ之ヲ戸籍吏及ヒ抗告人ニ送達スルコトヲ要ス

第二百八條　裁判所ノ決定ニ對シテハ法律ニ違背シタル裁判ナルコトヲ理由トスルトキニ限リ民事訴訟法ノ規定ニ從ヒテ抗告ヲ爲スコトヲ得

第二百九條　抗告ノ費用ニ付テハ非訟事件手續法ノ規定ヲ準用ス

第九章　罰則

第二百十條　本法ノ規定ニ依リ期間内ニ爲スヘキ届出又ハ申請ヲ怠リタル者ハ十圓以下ノ過料ニ處セラル

第二百十一條　期間内ニ届出又ハ申請ヲ爲ササルニ因リ戸籍吏カ期間ヲ定メテ届出又ハ申請ノ催告ヲ爲シタル場合ニ於テ尚ホ其届出又ハ申請ヲ怠リタル者ハ二十圓以下ノ過料ニ處セラル二回以上戸籍吏ノ催告ニ應セサル者亦同シ

第二百十二條　戸籍吏ハ左ノ場合ニ於テハ三十圓以下ノ過料ニ處セラル

一　正當ノ理由ナクシテ身分又ハ戸籍ニ關スル届出若クハ申請ヲ受理セサルトキ

二　身分登記又ハ戸籍ノ記載ヲ爲スコトヲ怠リタルトキ

第二百十三條　戸籍吏ハ左ノ場合ニ於テハ十圓以下ノ過料ニ處セラル

一　正當ノ理由ナクシテ身分登記簿又ハ戸籍謄本ノ閲覽ヲ拒ミタルトキ

二　正當ノ理由ナクシテ身分登記又ハ戸籍ノ謄本若クハ抄本ヲ交付セス又ハ身分若ク
ハ戸籍ニ關スル届出又ハ申請ノ受理ノ證明書ヲ交付セサルトキ

第二百十四條　本章ニ定メタル過料ノ裁判ハ過料ニ處セラルヘキ者ノ住所又ハ居所ノ地ヲ
管轄スル區裁判所之ヲ爲ス其裁判及ヒ裁判ノ執行ニ付テハ非訟事件手續法ノ規定ヲ準用
ス

第二百十五條　自己又ハ他人ノ利ヲ圖リ若ク他人ヲ害スル目的ヲ以テ身分又ハ戸籍ニ關
シ詐僞ノ届出若クハ申請ヲ爲シタル者ハ十一日以上四年以下ノ重禁錮又ハ二圓以上百圓
以下ノ罰金ニ處セラル

附　則

第二百十六條　市町村長ヲ置カサル地ニ於テハ市町村長ノ職務ヲ行フ吏員ヲ以テ戸籍吏ト
シ其吏員ノ職務ヲ行フ役場ヲ以テ戸籍役場トス

市町村長ノ職務ヲ行フ吏員ノ事務ヲ代理スヘキ者ナキ地ニ在リテハ監督區裁判所ヲ管轄
スル地方裁判所ノ長司法大臣ノ認可ヲ得テ豫メ其事務ヲ代理スヘキ者ヲ定ム

市參事會員其他戸籍吏ノ職務ヲ行フヘキ吏員ナキ地ニ於テ此等ノ者ニ代ハリテ戸籍吏ノ
職務ヲ行フヘキ者モ亦前項ノ手續ニ依リテ之ヲ定ム

第二百十七條　本法ノ規定ニ依リテ納付スル手數料ハ之ヲ市町村ノ收入トス但國庫ヨリ戸
籍役場ノ經費ヲ支辨スル地ニ在リテハ之ヲ國庫ノ收入トス

手數料ノ金額ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第二百十八條　本法ノ規定ニ依リ届出人其他ノ者ノ署名、捺印ヲ要スル場合ニ於テ其者カ
印ヲ有セサルトキハ署名スルヲ以テ足ル署名スルコト能ハサルトキハ名ヲ代署セシメ捺
印スルヲ以テ足ル若シ署名スルコト能ハス且印ヲ有セサルトキハ名ヲ代署セシメ拇印ス
ルヲ以テ足ル

前項ノ規定ニ依リ捺印セス又ハ名ヲ代署セシメ若クハ拇印シタル場合ニ於テハ書面ニ其
事由ヲ附記スルコトヲ要ス

第二百十九條　明治三十一年十二月三十一日マテハ從前登記目錄トシテ備ヘタル帳簿ヲ以
テ身分登記簿ニ代用スルコトヲ得

第二百二十條　登記目錄ノ册數又ハ紙數カ身分登記簿ニ代用スルニ足ラサル場合ニ於テハ
明治三十一年十二月三十一日マテノ身分登記簿ニ限リ戸籍吏ハ第九條ノ規定ニ拘ハラス
登記目錄ヲ作製スルト同一ノ手續ニ依リテ之ヲ作製スルコトヲ得

前項ノ規定ハ登記目錄ノ設ケナカリシ地ノ身分登記簿ニ之ヲ準用ス

第二百二十一條　本法ノ規定ニ依リ戸籍ヲ改製スヘキ時期ハ各地又ハ一般ニ付キ司法大臣
之ヲ定ム

本法施行後戸籍ノ記載ヲ爲シ又ハ新ニ戸籍ヲ編製スル場合ニ於テハ其記載又ハ編製ニ付
テハ本法ノ規定ニ從フコトヲ要ス但記載ヲ要スル事項ニシテ其事實ヲ知ルコト能ハサル
モノ又ハ從前ノ戸籍用紙中其事項ヲ記載スヘキ區畫ノ設ケナキモノハ其記載ヲ省クコトヲ
得

第二百二十二條　明治四年四月四日布告戸籍法、明治十九年內務省令第十九號及ヒ同年內
務省令第二十二號ハ寄留ニ關スル規定ヲ除ク外本法施行ノ日ヨリ之ヲ廢止シ其他ノ法令
ニシテ本法ノ規定ニ牴觸シ又ハ重複スルモノハ同日ヨリ之ヲ廢止ス

寄留ニ關スル事務ノ監督ニ付テハ第五條ノ規定ヲ準用ス

第二百二十三條 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

◎戸籍取扱手續

明治三十一年七月十三日司法省訓令第五號

控訴院 地方裁判所
區裁判所 戸籍役場

戸籍法取扱手續左ノ通相定ム

戸籍法取扱手續

第一條 身分登記簿ノ用紙ハ美濃十三行罫紙トシ其登記例ハ附錄第一號書式ノ振合ニ依ル

第二條 戸籍簿ノ用紙ハ附錄第二號樣式ニ依リ其記載例ハ附錄第三號書式ノ振合ニ依ルヘシ

第三條 戸籍吏ハ毎年十月三十一日マテニ翌年ノ身分登記簿ト爲スヘキ帳簿ニ附錄第四號書式ノ請求書ヲ添ヘ之ヲ監督區裁判所ニ送付スヘシ

第四條 市町村ノ戸籍簿ヲ二冊以上ニ分綴シタルトキハ其表紙ニ番號又ハ大字等ヲ附記スヘシ

第五條 戸籍役場ニ於テハ毎年受附帳ヲ製シ置キ身分及ヒ戸籍ニ關スル届出、報告其他ノ書類ヲ受附ケル順序ニ從ヒ之ニ其件名、差出人、受附ノ年月日及ヒ番號ヲ記入スヘシ

第六條 身分登記簿、戸籍簿及ヒ届書其他之ニ關スル書類ハ總テ鎖鑰アル書箱ニ藏メ其保管ヲ嚴ニシ倉庫ノ設ケアルモノハ倉庫ニ藏メ置クヘシ

第七條 身分登記簿及ヒ戸籍簿ノ全部又ハ一部カ滅失シタルトキハ戸籍吏ハ遲滯ナク其事由、年月日、帳簿ノ册數、市町村名等ヲ詳細ニ記載シ監督區裁判所判事カ前項ノ申報ヲ受ケタルトキハ相當ノ調査ヲ爲シタル後之ヲ管轄地方裁判所長及ヒ司法大臣ニ具申スヘシ

第八條 戸籍簿ヨリ除キタル戸籍ハ一箇年毎ニ綴還シテ其表紙ニ明治何年除籍簿ト記載スヘシ

第九條 身分登記簿ノ副本ヲ地方裁判所ニ納付スルトキハ其目錄ヲ添附スヘシ

第十條 戸籍吏ノ職務ヲ代理スヘキ者カ登記及ヒ記載ヲ爲ストキハ代理ト記シ認印スヘシ

第十一條 身分登記簿又ハ戸籍簿ノ閱覽ヲ請求スル者アルトキハ吏員ノ面前ニ於テ之ヲ閱覽セシムヘシ

第十二條 身分登記又ハ戸籍ノ謄本若クハ抄本ニハ其人別又ハ事項ノ終リニ空行ヲ存セス附錄第五號書式ニ依リ認證文ヲ附記スヘシ

謄本又ハ抄本ハ其原本ト同一ノ用紙ヲ用ユヘシ

第十三條 官吏又ハ公吏カ其職務ヲ以テ身分登記簿、戸籍簿ノ閱覽又ハ身分登記、戸籍ノ謄本若クハ抄本ヲ求ムルトキハ手數料及ヒ郵送料ヲ要セス

第十四條 身分又ハ戸籍ニ關スル届出若クハ申請ノ受理ノ證明書ハ附錄第六號書式ニ依ルヘシ

第十五條 戸籍吏カ届出又ハ申請ヲ怠リタル者ニ對シ發スヘキ催告狀ハ附錄第七號書式ニ準據スヘシ

第十六條 戸籍吏ノ定メタル催告期間内ニ届出又ハ申請ヲ爲ササルトキ更ニ發スヘキ催告

狀ハ附錄第八號書式ニ準據スヘシ

第三以下ノ催告狀ヲ發スヘキトキハ第八號書式ヲ準用スヘシ

第十七條　行政區畫ノ變更ニ依リ甲町村カ乙町村ニ合併シタルトキハ廢止セラレタル戸籍役場ニ存在スル身分登記簿、戸籍簿其他之ニ關スル書類ハ遲滯ナク合併シタル乙町村戸籍吏ニ引繼クヘシ

甲町村ノ一部カ乙町村ニ合併シタル區域内ニ本籍ヲ有スル者ノ戸籍ハ之ヲ分割シテ遲滯ナク合併シタル乙町村戸籍吏ニ引繼クヘシ但身分登記簿ハ引繼ヲ爲スノ限ニ在ラス

前二項ノ場合ニ於テ引繼ヲ完了シタルトキハ其旨ヲ監督區裁判所ニ報告スヘシ

第十八條　身分登記及ヒ戸籍ニ關スル疑義ハ戸籍吏ヨリ監督區裁判所ヲ經由シテ司法大臣ニ稟伺スルコトヲ得

第十九條　戸籍役場ニハ左ノ印章ヲ備フヘシ

方六分

何々市
町村戸
籍吏印

職印

役場印

方八分

何市町
村戸籍
役場印

附錄第一號　　明治何年

本籍人
身分登記簿
出生之部

東京市麹町區戸籍役場

紙數表紙ヲ除キ何枚

第一號（戸六八、六九ノ一、七一ノ一）

東京區裁判所監督判事氏名　職印

麹町區麹町一町目一番地戸主平民吳服商

出生ノ時　明治參拾貳年參月五日午後四時
出生ノ場所　麹町區元園町二町目二番地平民菓子商兵助長男無職業
届出人　父　米田兵三
母　トラ
長女　タツ
右出生明治參拾貳年參月六日神田區ヘ届出同日同區戸籍吏井口清受附同月十日届書發送

出生ノ時　明治參拾貳年參月四日午後五時
出生ノ場所　麹町區麹町一町目一番地
届出人　父　飯尾太郎
母　ツシ
長男　一郎
右出生明治參拾貳年參月五日届出同日受附㊞
第二號（戸六八、六九ノ一、七一ノ一、二五）
麹町區元園町二町目二番地平民菓子商
兵助長男無職業
父　飯尾太郎
明治元年四月貳日生

出生ノ時　明治參拾貳年參月拾五日午後貳時拾五分
出生ノ場所　麹町區富士見町一町目一番地
右ノ母ノ家ニ入ルコトヲ得サルニ因リ一家創立
届出人　竹村トリ
明治元年貳月五日生
私生子女　ツハ

右出生明治參拾貳年參月拾壹日届出同日受附㊞
第四號（戸六八、六九ノ二、七一ノ二、七四六）
麹町區永田町二町目三番地戸主平民
無職業ナヲ弟製紙業
父　益田三郎
麹町區平河町五町目四番地戸主平民
無職業次郎叔母
母　荒瀬カヲ子
庶子男　荒瀬新

同日受附㊞
第三號（戸六八、六九ノ三、七一ノ二、民十三五ノ三）
麹町區富士見町一町目一番地戸主平民
下宿營業一作姉
明治參拾貳年參月拾日午後貳時拾五分
麹町區富士見町一町目一番地
届出人　竹村トリ
明治元年貳月五日生
私生子女　ツハ

右出生明治參拾貳年參月拾壹日届出同日受附㊞
第四號（戸六八、六九ノ二、七一ノ三、民十三五ノ二、七四六）
麹町區永田町二町目三番地戸主平民
無職業ナヲ弟製紙業
父　益田三郎
麹町區平河町五町目四番地戸主平民
無職業次郎叔母
母　荒瀬カヲ子
庶子男　荒瀬新

出生ノ時　明治参拾貳年五月六日午後拾時拾五分
出生ノ場所　麹町區平河町五町目四番地
右新出生前ニ認知セラル
父ノ家ニ入ルコトヲ得サルニ因リ母ノ家ニ入ル
届出人　荒瀬次郎　明治元年拾月五日生
右出生明治参拾貳年五月七日届出同日受附㊞
明治参拾貳年拾貳月貳拾九日登記終結ス

東京市麹町區戸籍吏氏名　職印

第一號欄外登記例
明治参拾貳年五月四日出生ノ時變更ノ裁判確定ニ付同月五日飯尾太郎ヨリ登記變更ノ申請同日受附タルニ因リ裁判ノ趣旨ニ從ヒテ出生ノ時ヲ六時ト變更ス㊞
第二號欄外登記例
明治参拾貳年六月貳拾参日嫡出子否認ノ裁判確定ニ付同月貳拾五日米田兵三ヨリ登記變更ノ申請同日受附タルニ因リ裁判ノ趣旨ニ從ヒテタツヲ私生子女トシ父母ノ行ヲ米田兵三妻トラト變更ス㊞

附錄第一號ノ二　明治何年

本籍人
身分登記簿
嫡出子否認之部

東京市麹町區戸籍役場

紙數表紙ヲ除キ何枚

第一號ヨリ七九、民八二二

東京區裁判所監督判事氏名　職印

右ヲッ否認ノ裁判明治參拾弐年六月弐拾參日確定
類町區元園町二町目二番地戸主兵助長男平民
無職業
否認者　米田兵三
明治元年參月四日生

右嫡出子否認明治參拾弐年六月弐拾五日届出同日受附㊞

附錄第一號ノ三

明治何年

本籍人

身分登記簿

私生子認知之部

東京市神田區戸籍役場

紙數表紙ヲ除キ何枚

東京區裁判所監督判事氏名 職印

第一號戸八〇、民八二七、八二九ノ二

神田區錦町三町目四番地戸主水木耕三兄平民
無職業太郎
庶子男
勉
明治參拾年五月弐日生

右ハ靜岡縣靜岡市鷹匠町一番地戸主裁縫師乙井熊吉妹無職業トキ
認知者　水木太郎
明治弐年八月七日生

右私生子認知明治參拾弐年拾月九日届出
第二號(戸八〇)

神田區三河町三町目三番地戸主平民

明治參拾貳年
六月七日死亡

無職業大口丙次
庶子男　龜次郎

右母四谷區舟町六拾番地戸主平民無職業向井カハ
明治貳拾五年五月拾日生
認知者　大口丙次
明治元年參月壹日生

右私生子認知明治參拾貳年五月貳日届出同日受附㊞
第三號（戸八一、八四）

神田區今川小路一町目五番地戸主山井三次叔父平民
無職業二郎

右母神奈川縣横濱市吉田町五町目拾番地戸主無職業一井ハナ
庶子　胎兒
認知者　山井二郎
明治元年壹月壹日生

右胎兒認知明治參拾貳年壹月貳日届出同日受附㊞
第三號欄外登記例
明治參拾貳年六月拾日山井二郎ヨリ胎兒死體分娩ニ付登記取消申請同日受附㊞

附錄第一號ノ四
明治何年
本籍人
身分登記簿
養子縁組之部

北豊島郡板橋町戸籍役場

紙數表紙ヲ除キ何枚

第一號戸八五、民八四七）

東京區裁判所監督判事氏名　㊞

北豊島郡板橋町千番地戸主平民農

養父　秋友太郎吉
慶應元年參月八日生

養母　サカ
明治貳年六月九日生
東京市小石川區原町百番地戸主農内山權藏弟
平民無職業

養子　三郎
明治拾年五月拾日生
右父　無職業　内山良一
右母　ラク
北豐島郡板橋町六拾番地農
證人　上井好助
明治貳年六月八日生
北豐島郡板橋町五十番地農
證人　下口尚次
明治五年七月壹日生

右養子緣組明治參拾貳年參月貳日屆出同日受附㊞

第二號（戸八五）

養父　北豐島郡板橋町四十番地戸主平民無職業
新井太郎作

養母亡　明治元年六月參拾日生
同郡板橋町五番地戸主農川下管六養女
タ子
平民無職業

養子　カク
明治拾年六月貳日生
右父亡　向坂太郎
右母東京市本郷區丸山町五番地無職業
エン
右前養父北豐島郡板橋町五番地農
川下管六
右前養母亡　トキ
東京市本郷區東片町一番地青物商
寄留地北豐島郡板橋町五番地
證人　上山五郎
明治五年六月四日生
北豐島郡板橋町三番地農
證人　坂上新二
明治四年五月貳日生

右養子緣組明治參拾貳年拾月六日屆出同日受附㊞

附錄第一號ノ五

明治何年

本籍人

身分登記簿

養子離緣之部

北豐島郡板橋町戸籍役場

紙數表紙ヲ除キ何枚

東京區裁判所監督判事氏名 職印

第一號(戸九五、民八六四)

明治參拾貳年參月貳日緣組

養父　北豐島郡板橋町千番地戸主平民農　秋友太郎吉　慶應元年參月八日生

養母　サカ　明治貳年六月九日生

養子　東京市小石川區原町百番地戸主農內山權藏弟　平民無職業　三郎　明治拾年五月拾日生

右父　內山良一

右母　ヲク

證人　北豐島郡板橋町六十番地農　上井好助　明治貳年六月八日生

證人　同郡板橋町五十番地農　下口尙次　明治五年七月壹日生

右協議ニ因ル養子離緣明治參拾五年八月七日屆出同日受附(印)

附錄第一號ノ六

明治何年

本籍人

身分登記簿

婚姻之部

東京市麹町區戸籍役場

紙數表紙ヲ除キ何枚

東京區裁判所監督判事氏名 職印

第一號(戸一〇二、一〇六民七七五)

麹町區麹町三町目五番地戸主士族官吏

夫　　青木太郎　明治五年六月貳日生

右父　無職業　青木一作　ハナ

右母　神奈川縣横濱市吉田町一町目八番地戸主下宿

營業柴野三郎妹平民無職業

妻　　トラ　明治拾年拾月壹日生

右父　無職業　柴野作三　ウシ

右母　神奈川縣横濱市吉田町三町目一番地寄留地

麹町區元園町一町目二十番地酒類營業

證人　福内三郎　明治八年五月四日生

神田區錦三町目一番地無職業

證人　鈴木喜一　明治元年六月七日生

右婚姻明治參拾壹年九月八日屆出同日受附㊞

第二號(戸一〇二、民七七五)

麹町區飯田町一町目二十六番地戸主平民裁縫師

妻　右父神奈川縣横濱市戸部町百番地無職業　口上ナト　明治七年參月六日生
　　右母亡
夫　埼玉縣北足立郡大宮町三番地戸主無職業　口上善八　ナカ
　　下屋谷次叔父平民小學校數員
右父亡　文作　明治元年九月七日生
右母　農　下屋橋一　ナベ
證人　本鄉區追分町五番地材木商　谷田松吉　明治貳年四月貳日生
證人　麹町區永田町二町目一番地無職業　田添治作　明治元年壹月五日生

右入夫婚姻明治參拾壹年拾壹月拾日届出同日受附㊞
第三號（戸六〇、六一、二二ノ二、二八ノ三）
麹町區元園町一町目八番地戸主平民雜貨商

夫　右父　井口冷水　千八百五拾八年九月貳拾六日生
　　右母　井口正太郎　タカ
妻　官吏
右父亡　獨逸國伯林シエーチベルヒ街第三十五番女學生　ヘルミー
右母亡　獨國人　千八百六拾壹年五月參拾日生
證人　同國伯林ソフランス街第八番裁縫匠　ヘルマン、ノイベルヒ　マリー
　　ウイルヘルム、ストローヘル　貳拾六歳
證人　同國伯林フランス街第三番女學生　アントニー、リーパツ　貳拾貳歳
　　伯林身分取扱吏　パウル、レンチ

右婚姻證書作製者
婚姻證書作製千八百八拾九年拾月九日
右婚姻證書謄本明治參拾壹年拾貳月貳拾日外務大臣甲野乙郎發送同日受附㊞
第一號欄外登記例

明治參拾貳年五月貳日婚姻無效ノ裁判確定ニ付同月參日東京地方裁判所檢事甲田丁郎ヨリ登記取消請求同月四日受附㊞

第三號欄外登記例

本籍人身分登記簿國籍得喪之部第一號參看

附錄第一號ノ七

明治何年

本籍人

身分登記簿

離婚之部

東京市麹町區戸籍役場

紙數表紙ヲ除キ何枚

東京區裁判所監督判事氏名 職印

第一號(戸一〇九、民八一〇)

明治參拾壹年拾壹月拾日婚姻

麹町區飯田町一町目二十六番地戸主平民裁縫師

妻　　日上ヲト

明治七年參月六日生

右父神奈川縣横濱市戸部町百番地無職業

日上善八

右母亡　　ナカ

埼玉縣北足立郡大宮町三番地戸主無職業

下屋谷次叔父平民小學校教員

夫　　文作

右父亡　　明治元年九月七日生
右母　　下屋　權一
　　農　　ナベ
證人　　麹町區土手三番町七番地印刷業
　　川田鎗一
　　明治八年七月六日生
證人　　麹町區元園町一町目六番地土木請負業
　　戸部辰三
　　明治參年壹月五日生

右協議ニ因ル離婚明治參拾貳年拾月六日屆出同日受付㊞

附錄第一號ノ八
　　明治何年
本籍人
身分登記簿
　　後見之部

横濱市戸籍役場

紙數表紙ヲ除キ何枚

横濱區裁判所監督判事氏名 職印

第一號(戸一一四、民九〇〇)

被後見人　　横濱市若松町三番地戸主無職業
　　甲野巳太郎
　　明治參拾壹年八月七日生

右巳太郎ニ對シ親權ヲ行フ者ナキニ因リ明治參拾壹年八月拾日後見開始

後見人　　東京市芝區田町六町目十番地平民石屋
　　住所　横濱市若松町五番地
　　森田丁吉
　　明治元年貳月貳日生

右丁吉明治參拾壹年八月拾貳日就職

右後見開始明治參拾壹年八月拾壹日屆出同日受附㊞

第三號（戸一一四、一一五）

横濱市若松町三番地戸主無職業
被後見人　甲野巳太郎　明治參拾壹年八月七日生

右巳太郎ニ對シ親權ヲ行フ者ナキニ因リ明治參拾壹年八月拾日後見開始

横濱市老松町十番地平民無職業
後見人　原見巳之助　明治元年拾月五日生

右巳之助明治參拾壹年拾月拾九日就職

前任者　横濱市老松町七番地無職業
後見人　原村巳之助　明治參拾壹年八月七日生

右後見人更迭明治參拾壹年拾月貳拾日届出同日受附㊞

第三號（戸一一七）

横濱市若松町三番地戸主無職業
被後見人　甲野巳太郎　明治參拾壹年拾月拾九日就職

横濱市若松町五番地平民金物商
後見監督人　前田丙助　明治元年參月拾日生

右後見人任務終了明治參拾壹年拾貳月貳拾五日届出同日受附㊞

附錄第一號ノ九

本籍人　明治何年
身分登記簿
隱居之部

東京市京橋區戸籍役場

紙數表紙ヲ除キ何枚

第一號（戸一一九、一二二、戸七五二、七五三、七五七、七五八）

東京區裁判所監督判事氏名 職印

右平助病氣ニ因リ家政ヲ執ルコト能ハサルニ付キ隱居

京橋區入船町參拾番地戸主平民船問屋

須田平助

天保拾年六月七日生

家督相續人

平助三男無職業

初三

明治元年弐月五日生

右隱居明治參拾弐年四月五日屆出同日受附㊞

第一號欄外登記例

明治參拾弐年拾月拾日隱居取消ノ裁判確定ニ付同月拾弐日京橋區築地一町目二番地戸主

平民無職業平助弟須田万助ヨリ登記取消申請同日受附㊞

附錄第一號ノ十

明治何年

本籍人

身分登記簿

失踪之部

久良岐郡戸部村戸籍役場

紙數表紙ヲ除キ何枚

橫濱區裁判所監督判事氏名 職印

第一號戸一二三、一二四）

明治參拾貳年壹月貳日失踪宣告

久良岐郡戸部村百番地戸主農

谷田音七

明治參年五月六日生

同郡戸部村百二番地戸主士族無職業音七兄

天野丁吉

明治元年貳月貳日生

宣告請求者

右失踪明治參拾貳年貳月拾日届出同日受附㊞

第一號欄外登記例

明治參拾五年八月四日失踪宣告取消ノ裁判確定ニ付同月五日久良岐郡戸部村百三番地戸主平民農音七叔父森口丙吉ヨリ登記取消申請同日受附㊞

附錄第一號ノ十一

明治何年

本籍人

身分登記簿

死亡之部

東京牛込區戸籍役場

紙數表紙ヲ除キ何枚

東京區裁判所監督判事氏名 職印

第一號（戸一二五）

牛込區加賀町二町目三番地戸主平民牛乳商

乙吉長男

菅野丙作

明治貳拾年四月五日生

死亡ノ時

明治參拾貳年壹月六日午後參時參拾分

死亡ノ場所

牛込區加賀町二町目三番地

届出人

菅野乙吉

明治六年壹月六日生

右死亡明治參拾貳年壹月七日届出同日受附㊞